

社会福祉法人 雲柱社

2012（平成24）年度事業計画

社会福祉法人 雲柱社 2012（平成24）年度 事業計画

事業基本理念・事業目標に基づく、社会福祉施設の設置・経営、及び収益事業の設置・経営

社会福祉法人 雲柱社 事業基本理念

(1999年12月24日)

- (1) 私たちは、賀川豊彦の思想と実践（キリスト精神）を継承し、神と人にと仕える仕事をします。
- (2) 私たちは、一人ひとりの人格を尊重し、その成長を支援します。
- (3) 私たちは、常に利用者の立場に立って、そのニーズに応え、サービスの向上に努めます。
- (4) 私たちは、地域社会の福祉課題を積極的に掘り起こし、それに取り組みます。

保育ブロック事業目標

- (1) 私たちは、子どもたちが神を敬い、人を愛するように成長することを願って保育をします。
- (2) 私たちは、子どもたち一人ひとりの個性を尊重し、それを受け入れ伸ばしていく保育をします。
- (3) 私たちは、子どもたちの自ら育つ力を信じ、意欲を育て支える保育をします。
- (4) 私たちは、子どもたちが心身共に健やかに育つために、保護者の子育てを支援します。
- (5) 私たちは、地域に開かれた保育園を目指します。
- (6) 私たちは、保育の質の向上を常に心がけ、専門の知識を深め、技能の研鑽に努めます。

グループかがわブロック事業目標

- (1) 私たちは、障害児・者一人ひとりが神に愛され、生かされているという事実に基づいて事業を行います。
- (2) 私たちは、障害児・者一人ひとりの人格と個性を尊重し、その成長と生活を支援します。
- (3) 私たちは、障害児・者の家族が抱える課題を深く受けとめ、その解決に向けて努力します。
- (4) 私たちは、地域社会の障害者福祉のニーズを掘り起こし、積極的にこれに取り組み、共に生きることを目指す、地域のセンターとしての役割を果たすことに努めます。
- (5) 私たちは、障害児・者一人ひとりのハンディキャップを理解し、かれらに最適なケアを提供するために、専門の知識を深め、技能の研鑽に努めます。

児童館ブロック事業目標

- (1) 私たちは、みんなの居場所となる児童館を目指します。
- (2) 私たちは、子どもたちが多くの人と出会い、遊びや行事などへの参加を通して社会力を培う児童館を目指します。
- (3) 私たちは、子どもたちやその家族が抱えている問題を受け止め、共に担う児童館を目指します。
- (4) 私たちは、世界の人たちと共に生きるための学習や異文化体験、ボランティア活動などに取り組む児童館を目指します。
- (5) 私たちは、子どもたちが平和を愛し、差別や偏見に立ち向かう力を育む児童館を目指します。

学童クラブ事業目標

私たちは、所属する各自治体の方針を尊重し、子どもたち、保護者、地域の方々と力を合わせて、楽しく充実した学童クラブ活動を展開していくために、次のような目標を掲げて事業にとり組みます。

- (1) 私たちは、放課後の子どもたちにとって居場所となる学童クラブを目指します。
- (2) 私たちは、危機管理を十全にして、安心と安全が保障された学童クラブを目指します。
- (3) 私たちは、子どもたちが多様な体験を通して、生きる力を育むことが出来る学童クラブを目指します。
- (4) 私たちは、子どもたちが、それぞれの個性と能力を発揮できる学童クラブを目指します。
- (5) 私たちは、自由と規律を大切に作る学童クラブを目指します。
- (6) 私たちは、保護者のニーズ（就労支援、子育て不安など）に応える学童クラブを目指します。
- (7) 私たちは、地域との交流を深め、地域の人たちから愛され支えられる学童クラブを目指します。

放課後子ども教室事業目標

- (1) 子どもの人格を尊重し、その自己実現を果たすための遊び、学習、体験等を展開していく。
- (2) 子どもたちからの意見（ニーズ）を受け止め、それを具体化していくために共同活動（共に活動を楽しみ創っていく）を展開していく。
- (3) 子どもたちの居場所になると共に子どもたちの成長を支援していく活動を展開していく。
- (4) 子どもたちに社会や世界で起こっている問題を投げかけ、学習や体験、ボランティア活動等を通して理解を深めていく。
- (5) 問題を抱えている子どもたちや家庭の現実を受け止め、相談の窓口となり、問題解決のために協力していく。
- (6) 学校、関係団体、公共機関と連携し、地域の人たちと協力して、より良い事業の展開と問題解決のための協力関係を形成していく。

子ども家庭支援センター事業目標

- (1) 私たちは、地域の子どものとその家族一人ひとりが、神に愛され、生かされているという事実立って、事業を行います。
- (2) 私たちは、地域の子どものとその家族一人ひとりの人格と個性を尊重し、子ども達が心身ともに健やかに育つまちや社会をつくることを目指します。
- (3) 私たちは、センターがそこに集うすべての子どもと大人にとって、安全で安心、大切にされていると感じることのできる場となるよう、日々努力します。
- (4) 私たちは、地域の子どものとその家族が抱える問題を受け止め、よりよい解決に向かえるよう、専門性に基づき対応します。
- (5) 私たちは、地域の人々や他の専門機関と連携して、子どもとその家族のニーズに合わせて、必要な支援を行うことに努めます。

社会福祉事業（第二種）

種別	名称	個所	
第二種	保育所	愛の園保育園、五日市保育園、押上保育園、烏山保育園、神愛保育園、祖師谷保育園、高根学園保育所、ともしび保育園、光の園保育学校、黎明保育園、 <u>光が丘第六保育園</u> ※____は分園併設	11
	児童厚生施設	<u>さくら橋コミュニティセンター</u> 、 <u>墨田児童会館</u> 、 <u>文花児童館</u> 、 <u>外手児童館</u> （墨田区）、 <u>汐入ふれあい館</u> （荒川区）、 <u>和泉児童館</u> 、 <u>岩戸児童センター</u> （子ども家庭支援センター事業併設・狛江市）、 <u>上池台児童館</u> （大田区）、 <u>たまだいら児童館ふれっしゅ</u> （日野市）、 <u>亀戸児童館</u> 、 <u>平野児童館</u> （江東区）、 <u>目黒区立中央町児童館</u> （目黒区）、 <u>町屋ふれあい館</u> （荒川区）、 <u>江東橋児童館</u> （墨田区） ※____は学童クラブ分室併設館	14
	放課後児童健全育成事業	れいめい堀切学童保育クラブ、れいめい宝学童保育クラブ（葛飾区）、汐入学童クラブ、七峡小学童クラブ、汐入小学童クラブ（荒川区）、深川学童クラブ、大島四丁目学童クラブ、大島八丁目学童クラブ（江東区）、練馬区立高松小学童クラブ（練馬区）	8
	障害福祉サービス事業 （共同生活援助事業・共同生活介護事業）（グループホーム・ケアホーム）	かがわの家 シリウス、ベガ、ミラ、カペラ、ジュピター <u>小金井市ケアホーム</u> （仮称）	6
	障害福祉サービス事業 （就労継続支援B型・生活介護・短期入所）	小金井生活実習所	1

障害福祉サービス事業 ◇ 居宅介護 ◇ 行動援護 ◇ 移動支援事業 ◇ 日中一次支援事業	かがわサポートセンター・ウイングス	1
障害福祉サービス事業 児童発達支援センター	賀川学園	1
障害福祉サービス事業 生活介護事業	かがわ工房、ワークスタジオかがわ	2

※□は2012年度開始

社会福祉事業（公益事業）

地域デイグループ事業	さくらの木（知的障がい学齢児 個別・グループ学習）	1
心身障害者授産事業	小金井市福祉共同作業所（障がい者・高齢者共同 小金井市）	1
ファミリー・サポート・センター事業	狛江市全域（和泉児童館内）、小金井市全域（小金井市子ども家庭支援センター内）、小平市全域（小平市子ども家庭支援センター内）	3
子ども家庭支援センター事業	江東区東陽子ども家庭支援センター、江東区大島子ども家庭支援センター、江東区深川北子ども家庭支援センター、江東区南砂子ども家庭支援センター（江東区）、練馬区立光が丘子ども家庭支援センター、練馬区立大泉子ども家庭支援センター（練馬区）、狛江市子ども家庭支援センター（狛江市）、小金井市子ども家庭支援センター（小金井市）、小平市子ども家庭支援センター（小平市）	9
放課後子どもプラン事業	汐入東小にこにこすくーる（荒川区）、土曜江東きっずクラブ（江東区）、江東きっずクラブ明治	3
家庭的保育事業（保育所実施型）	祖師谷保育園・同分園（実施園）「おうち」、 光の園保育学校（実施園）「ぶどうの木保育室」	9

※□は2012年度開始

収益事業

店舗賃貸ビル	和光プラザ	1
共同賃貸住宅	友愛コーポ	1

※賀川学園は自立支援法への移行に伴い、第一種社会福祉事業から第二種社会福祉事業へ変更となった。これにより、法人事業から第一種社会福祉事業がなくなった。

I. 事業計画の方針～ミッションに立つ事業展開を目指して～

1. 祈り・仕える

対人援助を中心とする社会福祉事業は、神によって創造され、生かされている人間の自己実現を支援する仕事であります。

それに携わる者は、その仕事の重大さに畏れを抱き、援助の相手である隣人の幸せの実現に祈り心をもって仕える事が求められています。

隣人の抱える問題が複雑多様化してきている現在、専門的な知識、スキルを深めていくことは言うまでもないことですが、それを越えて人間の尊厳に思いを深めて事業に取り組んでいきたいと考えています。

2. キリスト精神を実践の柱に

創業者賀川豊彦は社会福祉実践の柱を「キリスト精神」の実現を目指す行為であるとししました。私たちは創業者が以下に示したミッションに堅く立って、その実現に本年も取り組みを続けていきます。

*神第一・・・人間を中心としない。

*自己否定・・・自己を犠牲にし、十字架の道を歩む。

*最微者への奉仕・・・弱者を大切にし奉仕する。

*支配者とならず人の足を洗う。

3. 広く、深く地域へ

人間の生活の場である地域において福祉の実践（人間の幸せの実現）を展開していこうと言うのが今後の社会福祉の主流であります。私たちの、2011年度に策定した第二次中期計画もまた、この方向に沿ったものであります。

2012年度もこの計画の推進に力を尽くしていきます。

東京全域に広がった法人の社会福祉事業が、それぞれの地域に再組織されて、よりいっそう地域に根ざした事業を展開していくために、共に目標を共有し力を合わせて活動して行くことを目指します。

4. 攻めと守りのバランスに立って

2012年度もいくつか新しい事業が展開されていきます。いずれの事業も地域や行政の要請を受けて実施される事業であります。これは社会のセフティーネットを担う社会福祉法人として担わなければならない責務であると考えています。一方、日本経済の困難さは施設経営を直撃しつつあります。今年度は経営委員会を発足し、この難関を乗り越えていく対策を早急に策定すべく取り組みを開始します。

5. 事業を担う人材育成

利用者のニーズに応じて行くための人材の育成は急務となってきています。法人のミッションを基盤として、利用者の立場に立つ実践が求められています。法人の総力をあげて職員の育成に取り組んでいきます。そのための研修を充実をさせていきます。

II. 事業計画の展開

1. 第二次中期計画の具現化

- (1) 法人基本事業理念（ミッション）の明確化と深化
- (2) 地域型福祉事業体の形成と実質的な地域福祉事業の展開
- (3) 現場を支える法人本部並びに事務局体制、機能の強化
- (4) 専門委員会の設置並びに活動による法人機能の充実

2. ガバナンスの構築

- (1) IT機能(VPNシステムを中心に)の強化と事務作業の効率、合理化の推進
- (2) 総合的な視野に立つ経営基盤の安定と各種積立金の確保

- (3) 職員処遇の検討と労働条件の改善による職員の定着と質的向上
- (4) 管理職の資質の向上と適材適所の人材登用
- (5) 人材登用システムの構築
- (6) 研修プログラムの再編成と展開—学習共同体の形成を目指して—
- (7) 管理職並びに職員の異動、交流の推進
- (8) 現場からの提案が活かされる柔軟な組織作りを目指す。
- (9) 社会のニーズに応じて事業を担い、かつ先駆的な事業、新しい分野の事業に挑戦していく。
- (10) 職員満足が利用者満足に繋がる事を踏まえて、職員の労働環境、福利厚生の実現していく。
- (11) その他考えなければならない重要な課題

3. 地域型福祉事業体の内容

地域名	種別	施設名
墨田区 荒川区 葛飾区	保育所 児童厚生施設 放課後児童健全育成事業 放課後子どもプラン事業 家庭的保育事業（保育所実施型）	光の園・光の園分園・押上・黎明・さくら橋・外手・墨田・文花・江東橋・汐入・汐入学童・汐入小・七峽・堀切・宝・汐入東小・町屋
江東区	保育所 児童厚生施設 放課後児童健全育成事業 放課後子どもプラン事業 子ども家庭支援センター事業	神愛・ともしび・東陽・深川北・大島・南砂・平野・亀戸・四丁目・八丁目・深川・江東きつずクラブ明治・土曜江東きつずクラブ
世田谷区 狛江市 大田区	保育所 児童厚生施設 子ども家庭支援センター事業 ファミリーサポートセンター事業 家庭的保育事業（保育所実施型）	祖師谷・祖師谷分園・烏山・岩戸・和泉・上池台・狛江市（支援センター）・狛江市（ファミサポ）
小金井市 小平市	保育所 児童厚生施設 子ども家庭支援センター事業 ファミリーサポートセンター事業 障害福祉サービス事業 ・児童発達支援センター ・生活介護事業 ・居宅介護 ・就労継続支援B型事業 ・短期入所事業 ・行動援護 ・移動支援事業 ・日中一次支援事業 ・共同生活援助事業 ・共同生活介護事業 地域ダイグループ事業 心身障害者授産事業	愛の園・小金井市（支援センター）・小平市（支援センター）・小平市（ファミサポ）・小金井市（ファミサポ）・賀川・工房・実習所・共作・かがわの家（シラス、ベガ、ミラ、カペラ）・さくらの木・ウイングス・（仮称）小金井ケアホーム
練馬区・目黒区	保育所 子ども家庭支援センター事業 放課後児童健全育成事業 児童厚生施設	光が丘第六・光が丘・大泉・高松小・中央町
あきる野市 御殿場市 日野市	保育所 児童厚生施設 障害福祉サービス事業 ・生活介護事業 ・共同生活援助事業 ・共同生活介護事業	五日市・高根・たまだいら・ワーク・かがわの家（ジューピター）

(1) 地域型福祉事業体の運営と事業展開の具体的内容

- ①地域型福祉事業体間の相互協力と連携の推進
- ②地域型福祉事業体に総括管理職を設置
- ③地域型福祉事業体内で管理職会を行う。
- ④地域型福祉事業体内の職員の異動、交流を行う。
- ⑤地域内で起こった具体的事例に基づく研修の実施
- ⑥同一地域にある他団体、他法人との協働関係の構築

(2) 地域型福祉事業に求められる具体的な事業の展開

- ①施設が地域福祉活動の拠点となるために
- ②管理職の養成と資質の向上
- ③専門委員会の設置による法人機能の強化
 - a. 人材組織委員会
 - ・ 職員の採用・育成のシステムを整える。
 - ・ 産業医や衛生管理責任者の配置、職員の福利厚生など、労働環境の整備。
 - ・ 法人の持つ人材の把握、本部事務局のあり方を検討する。
 - b. 研修委員会
 - ・ 法人研修計画の作成、実施。
 - ・ 研修テキストの作成。
 - ・ 各ブロックの研修状況の把握と全体の体系化。
 - ・ イエス団との合同研修会の企画運営。
 - c. IT・広報委員会
 - ・ 業務の効率化をめざしIT環境を整備するとともに、ガイドラインの作成。
 - ・ 年2回、広報誌を定期発行する。
 - d. 企画委員会
 - ・ 地域のニーズや利用者のニーズ等を把握し、法人の現状等も正確にとらえながら、必要な事業の展開など法人の課題を明確にしていく。
 - ・ 地域ネットワークのあり方を検討し、地域の実情も考慮しながら、可能なところから地域ネットワークの構築を進める。
 - ・ 法人所有建物の改築や建て替えについての計画づくり。
 - e. 政策委員会
 - ・ 事業所毎、地域型福祉事業体毎、及び法人としてのBCP策定
 - ・ 各ブロックの事業にかかわる制度改革の行方を検証し、法人としての考えを示していく。
 - ・ 地域福祉のあるべき姿を検討していく。
 - ・ 貧困や格差、環境や平和問題など、様々な社会問題について法人の施策の中に反映させていく。
 - f. 経営委員会
 - ・ 役員会メンバーで構成する。
 - ・ 法人における全ての経営的課題に対応する。

記入者（管理職）
事務局長 小磯 満
事務局主任 千葉陽子

法人の第Ⅱ次中期計画を具現化するために、現場を支える法人本部事務局体制・機能の整理強化を行う。事務局と事業所管理職、ブロック担当役員・施設長等との役割（責任）の明確化を図り、内部統制監査・監事監査をツールとし、コンプライアンス体制構築、つまり法人としてリスクを回避するための、方針決定のための提案・規程作成・運用に参画し、環境の整備を行う。また、理事会及び役員会（執行部）からの方針を受け、法人本部並びに事業運営の諸問題に対応していくための法人のミッション（事業基本理念）の理解を徹底しつつ、事務局組織を整える。

1 採用、異動、退職等労務管理手続きの円滑化

○経理規程の遵守、人事データ管理

（業務委託、指定管理等）契約の遵守と法人内諸規程の整備

①雇用の際のトラブル防止の観点から、研修委員会及び人材組織委員会と連携をとり、2012年12月中に雇用契約関連の管理職向けの研修を実施。

2 収益事業管理体制のマニュアル化

3 専門委員会、法人研修の運営補助

○事務管理体制構築へ向けての検討

①墨田地域（児童館5館、指定管理保育所1施設、認可保育所1施設（分園、家庭的グループ保育含む）

②練馬地域（子ども家庭支援センター2センター、学童1か所、委託保育所1施設）

○文書管理業務の向上

①事務局総務部門と連携し、文書管理マニュアルの作成

②文書管理システムのソフト導入

○施設改築等のプロジェクトチームの運営補助

①MP委員会（小金井、あきる野、狛江）へのデータ提供等

②地域ブロック構築補助

○人事制度の再構築

①30 時間常勤職員の制度確立の補助

②65 歳継続雇用等の新構築

③労働衛生管理体制の構築

安全衛生管理規程の運用の推進

衛生推進者会議（仮称）の運営

・2012 年度は世田谷・狛江地域での産業医導入を実現する

④多様な雇用内容に対応する、就業規則等の解釈（留意点）の整理を行い、委員会への情報提供等、就業規則の改正準備の補助を行う。

5 広報的業務の強化

①法人の方針を踏まえた広報政策手法の構築

②法人執行部・IT 広報委員会との連携を補助し、2012 年度は法人ホームページの見直しを行う。

③社内報発行については IT 広報委員会のスケジュールに基づき実務を行う。

6 事務局の専門性の強化

①事務局内の部門確立

・各部門の業務内容整理

・各部門ごとの業務管理、事務局としての業務管理の整理

②各部門の業務マニュアル整理

③部門ごとの人的体制の確認

7 評議員会・理事会、役員会、専門委員会等運営事務

①説明責任を果たせる資料作り、プレゼンテーションの工夫

・IT 機材を活用した会議運営

②各会が有機的・効率的に議論を展開し、検討・策定された計画が具現化されるために補助を行う。

9 他団体と協力する集会、研修の運営補助など

アドベント礼拝、賀川豊彦召天記念墓前祈祷会と講演会

本所地区施設職員合同職員研修会

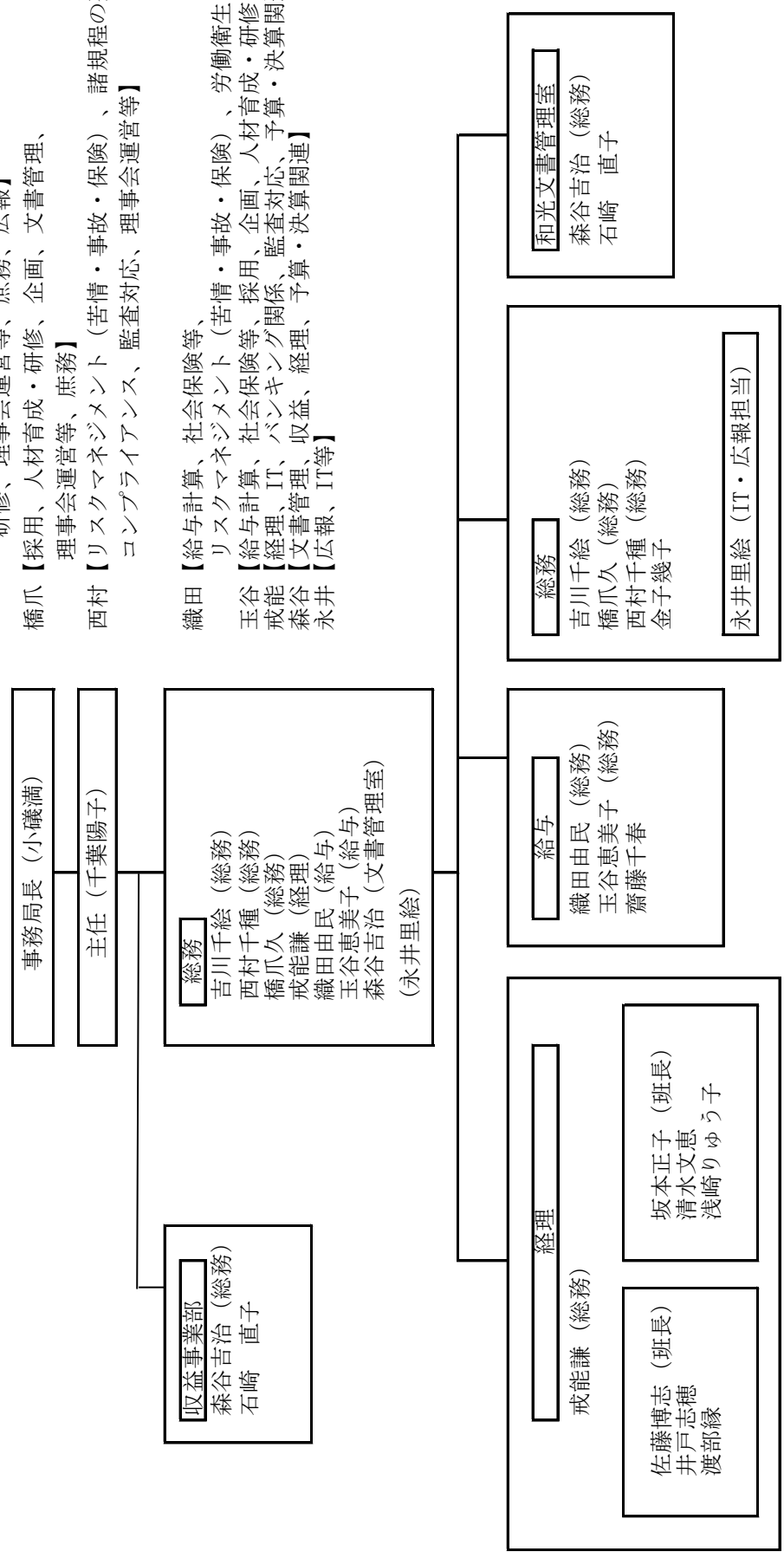
10 内部統制監査実施及び監事監査補助

・2012 年度監査スケジュール作成、実施補助

総務部門の主な担当
 吉川【労働衛生関連、諸規程の整備、コンプライアンス、企画、
 研修、理事会運営等、庶務、広報】
 橋爪【採用、人材育成・研修、企画、文書管理、
 理事会運営等、庶務】
 西村【リスクマネジメント（苦情・事故・保険）、諸規程の整備、
 コンプライアンス、監査対応、理事会運営等】

織田【給与計算、社会保険等、
 リスクマネジメント（苦情・事故・保険）、労働衛生関連】
 玉谷【給与計算、社会保険等、採用、企画、人材育成・研修】
 戒能【経理、IT、バンキング関係、監査対応、予算・決算関連】
 森谷【文書管理、収益、経理、予算・決算関連】
 永井【広報、IT等】

【法人本部事務局】



法人本部事務局職員構成
 ○常勤職員
 正規職員 (40時間非正規)
 ○嘱託職員
 ○臨時職員
 ○非常勤職員
 計

14名
 9名
 5名
 1名
 4名
 19名

(内 事務局長1、主任1)

事業単位の枠を超え、幼児期から学齢期、成人期にわたって知的障がいと自閉症児・者及びその家族の地域での安定した暮らしと成長を支援することを目指し、以下の事業を障がい児・者ブロック8事業所が連携・分担して実施する。

・きょうだいの会(ライオンクラブ)事業

障がいのある子どものきょうだいと家族を支える会として、毎月1回の活動と年1~2回のキャンプの企画運営を行う。

・小金井市委託事業(日曜クラブ)

小金井市在住の障がいのある小学生~高校生の余暇支援

月1回 第3日曜日 今年度はさくらの木が担当

・東京都障害者(児)移動支援従事者養成研修事業

ヘルパー確保と障がい児・者の理解を目的にガイドヘルパー養成研修講座を年1~2回開催する。

ウイングス担当

・小金井地区総合マスタープラン企画事業

貫井北町地区を中心に他ブロックの事業所(保育所・子ども家庭支援センター等)との連携のもと、乳幼児期から児童期の多岐にわたる総合的な支援の展開を目指し、委員会が設置され検討がなされる。

今年度は学習会や職員間での交流を通し、それぞれの事業所の理解を深める機会を持ち、さらに地域のニーズにも目を向け今後の展開を考えていく。

・さくらの会運営事業

さくらの会の運営 卒園生・現役・退所利用者を対象に会員制による会名簿の作成・会費の徴収

さくら前線の発行

さくらの会会員、及び法人関係やお世話になった方を対象に配布

年4回 (4月・7月・10月・2月)

合宿の企画運営

夏合宿A 8月1~2日 (山中湖) 小・中学1年生対象

夏合宿B 8月23~25日 (野辺山) 中学2年生~成人対象

スキー合宿 1月20~22日 (苗場) 小学生以上の利用者とその家族

・全体職員会の企画運営

法人のミッション、各事業所の現状や課題、計画等を共有し、また障がい児・者に関する研修を外部から講師を招いて実施

7月21日(土) 講演会(職員研修) 実践報告合評会

12月8日(土) アドベント礼拝 (国分寺教会)

講演会(職員研修) 障がい児・者ブロック事業総括

3月23日(土) 障がい児・者ブロック事業計画

法人全体会

記入者 小山 正弘

事業の内容と展開

職員体制については、異動1名に加え退職者が3名あったため、新年度は職員の顔ぶれが変わる。それでも基本がぶれない保育園をつくっていくために、原点に戻り、守っていかねばならないことは何かをあらためて確認し、職員みんなと作り上げていく一年とする。内容は以下のように考え、常に確認していく。

- ①「法人の原点」「愛の園保育園の原点」とは何かを問い直す。
 - ・「困っている人を助ける」「ひとりひとりを大切にする」「子どもを真ん中にして考える」ということが伝統・原点である。
 - ・保育ブロックで作成された保育目標は「神と人から愛されていることを知り、自分や周りの人を大切にする子ども」である。我々に託されている使命は、キリスト精神に基づいて子ども達と接していくことであることを確認。
- ②目の前の子ども(保護者)の現状から考える。
 - ・子どもの通常の成長の筋道をもう一度確認していくとともに、子どもが今、どんな環境の中で暮らし、どんな様子が見られるのか……。月案検討を通して情報を共有し合い、考えていく。
- ③今、どんな子に育てたいのか。保育園では何が必要になるのか。
 - ・園長含め、職員ひとりひとりが……。どんな子どもに育ててほしいのかを確認しよう。最終的には「自分も大切、相手も大切」に出来る子どもである。それは、(その子なりに・年齢なりにではあるが)自分で出来ることを自分でしようとする姿であり、周りの人との関わりの中で生活していける姿である。保育士が、その「自立のための援助」をしていくことについて確認していく。
- ④地域における愛の園保育園として
 - ・賀川学園をはじめ、子ども家庭支援センター、他機関との連携は必須である。今年度は、賀川学園・工房の職員と交わり、お互いに仕事の内容がわかりあえる機会をもちたいと考えている。
- ⑤一時保育の展開
 - ・待機児解消のために、一時保育の中に定期利用枠を作ることとなった。そのため、今まで行ってきた一時保育で利用枠が少なくなる事となる。

以上を具体的に展開していくために、とり組む事として、

①室内活動の充実

- ・日常の遊びや生活の積み重ねが保育の基本である。そこで、まずは午前中の室内で

の遊びや生活が、子どもにとって主体的な場であるように環境を充実させていくことから始める。他園の見学も積極的に行い、活かせることを取り入れていく。

②マニュアル化・整理

- ・形は残っているが、その意味するところがわからなくなり、曖昧になっていることも多い。原点に戻って見直し考えあつていく。
- ・子どもが安心して生活し、見通しをもって主体的に生活できるようにするために、現状の生活の流れを確認する。クラスや年齢により違ってよい部分と、統一しておかねばいけないのに曖昧になっている部分などを整理していく。

③礼拝のありかたを整えていく。

- ・生活の場での礼拝を基本に考えていくため、クラスでの礼拝を大切にしていく。
- ・職員は、子どもの前で、短くとも自分の言葉で祈ることを大切にする。
我々大人がまず、感謝・願い・誰かの為に祈る・・・ということを意識していくことから始める。

2012（平成24）年度当初予算積算資料 支出予定確認書

環境整備・修繕等

I 施設運営

(1)実施事業

ア. 特別保育事業

- ・ 零歳児保育特別対策実施（零歳児取り扱い人員：18名）
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育実施（7時30分まで）（1時間延長、30分は自主事業）
- ・ 延長保育事業（零歳児受け入れ）
- ・ 障害児保育事業実施（2名）
- ・ アレルギー児に対する除去食及び代替食実施
- ・ 一時保育預かり事業
- ・ 年末保育

イ. 地域子育て支援推進事業

- ・ 小中高生の育児体験受け入れ
- ・ 育児講座(食事講座・救命救急・遊び講座なども検討)
- ・ 保育所体験
- ・ 出前保育

(2) 児童の処遇

ア. クラス編成

クラス名	年 齢	園児数	障害児数	保育士	
つぼみ	0 歳	18		6	看護師
たんぽぽ	1 歳	20		4	
ちゅうりっぷ	2 歳	24		4	
はな	3 歳	26	1	3	補助パート
ほし	4 歳	26	1	2	補助パート
つき	5 歳	26		2	
合計		140 名	2 名	21	
つくし	(一時保育)	定員 10 名		2	補助パート

イ. 月別保育予定日数

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	合計 297 日
25	23	26	25	27	24	
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
25	24	25	23	24	26	

ウ. 健康管理

健康診断

- 乳児 毎 月
- 幼児 年 2 回 (5 月、11 月)
- 歯科検診 年 2 回 (5 月、11 月)
- 蟯虫卵検査 年 1 回 (6 月)

エ. 保 育

保育目標 (保育ブロック統一)

- 1 ありのままの自分が受け入れられ、自己発揮でき、考えて行動できる子ども
- 2 のびのびとしなやかに、体を動かして遊ぶ子ども
- 3 基本的生活習慣が身につき、見通しをもってできることを自分でする子ども
- 4 さまざまな人との関わりを大切にし、思いやりをもって共に生きる子ども
- 5 自然や命あるものとの出会いを大切にし、豊かに感じ取り表現する子ども

各組の保育目標

つき組(5歳児)の年間目標

- ・様々な活動に取り組み、仲間に認められることによって自信を得、自己発揮する。

- ・様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して身体を動かす事を楽しみ、新しい体験にチャレンジする。
- ・健康、安全に必要な基本的な習慣や自主、自律の態度を身につけ、理解して行動する。
- ・様々な事物や事象と自分達の生活との関係に気づき、それらを生活や遊びに取り入れ、生活の経験を広げる。
- ・異年齢や様々な人と関わる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようにする。
- ・人の話をよく聞き、自分で考え、自分の意見を相手あるいは集団の中に伝えられるようになる。
- ・自分の持つ好奇心や知的探究心を働かせる事により、考える力が育ち、表現力が豊かになり、感じたことや思ったこと、想像した事などを自由に工夫して表現する。

星組(4歳児)の年間目標

- ・一人ひとりの子どもの要求を十分に満たし、情緒の安定を図る。
- ・友達と遊ぶ事の喜びや楽しさを感じ、集団で活動する事を楽しむ。
- ・意欲的にいろいろな事に挑戦し、体を動かして遊ぶ事を楽しむ。
- ・健康、安全などの生活がわかり基本的な習慣を次第に身につける。
- ・人の話を聞いたり、自分の経験した事や思っていることを話したりして、言葉で伝えることを楽しむ。
- ・自然や身近な事柄に触れ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、その事を表現しようとする。

花組(3歳児)の年間目標

- ・生活が自立してくる事で自信を持ち、自分のやりたい事が表現できるようになる。
- ・外遊びを十分にするなど遊びの中で体を動かすことを楽しむ。
- ・食事・排泄・睡眠・衣服の着脱等の生活に必要な基本的な習慣が身につくようにする。
- ・自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、一緒に遊ぶ喜びを知る。
- ・様々なものを見たり触れたりして、面白さ、美しさなどに気づき感性を豊かにしていく。

ちゅうりっぷ組(2歳児)の年間目標

- ・たくさんの自己主張や思いの表れを大人に受け入れてもらう事で、安心して気持ちを出せるようにする。
- ・身体を動かす事が楽しくなり、いっぱい遊ぶ。
- ・簡単な身の回りの活動を自分でしようとする。
- ・保育士を仲立ちとして生活や遊びの中で、ごっこ遊びや言葉のやり取りを楽しむ。
- ・大人やまわりのことに興味を持ち、みため、つもり遊びを通してイメージを豊かに広

げていく。

たんぽぽ組(1歳児)の年間目標

- ・一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保持と、情緒の安定を図る。
- ・保育士に見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分に行い体を動かす事を楽しむ。
- ・安心できる保育士との関係の下で、食事、排泄などを自分でしようとする気持ちが芽生える。
- ・安心できる大人に見守られる中で、他の子どもにも関心を持ち、関わろうとする。
- ・身のまわりの様々なものを見たり、いじったり、身のまわりの自然や事象に対する好奇心や関心を持つ。

つぼみ組(0歳児)の年間目標

- ・一人ひとりの子どもの甘えなどの依存欲求を満たし、情緒の安定を図る。
- ・安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を変えたり、移動したりして、いろいろな身体活動を十分に行う。
- ・保健的で安全な環境をつくり、常に身体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め快適な生活が出来るようにする。
- ・一人ひとりの子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的要求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。
- ・個人差に応じて離乳を進め、いろいろな食品に慣れ幼児食への移行を図る。
- ・優しく語りかけたり、発生や喃語に応答し、発語の意欲を育てる。
- ・聞く、見る、触るなどの経験を通して、感覚や手指の機能の発達を促す。
- ・安心できる人的物的環境のもとで絵本や玩具、身近な生活用具などを見たり、触れたりする機会を通して、身のまわりのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。

主な行事予定 (行事費用)

- 4月 入園式(1万円)・保護者会総会
- 5月 保護者懇談会
- 6月 保育参観・プール開き(3万円)・歯科検診(3万円)
地域お楽しみ会(8万円)
- 7月 お泊り保育(10万円)・父親懇談会(1万円)
- 9月 Welcomeday(3万円)
- 10月 運動会(15万円)・遠足(15万円)・中間反省
- 11月 秋祭り(10万円)・感謝祭(3万円)・防災訓練(賀川学園と合同)

- 12月 クリスマス会(15万円)・OB&地域クリスマス会(5万円)
- 1月 餅つき会(3万円)
- 2月 保育参観・保護者懇談会・年間総括
- 3月 卒園式(10万円)・進級を祝う会(10万円)・卒園遠足(5万円)

オ. 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年 4回
 栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成
 季節の素材・安心できる素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成
 給食供給者としての諸管理
 食材の放射能汚染への対応に万全を期していく。

カ. 安全管理

安全チェック(毎月)
 非常災害時の避難訓練(毎月1回)内1回は賀川と合同総合訓練
 ※朝・夕・土曜日の訓練も再検討。
 ※音響設備などは、どの職員も対応出来るようにしていく。
 引き渡し訓練の実施(年1回)
 ※実際の場面を想定して引き渡し出来るように、あり方を再検討する。

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任	1名
統括リーダー	1名
保育士	20名
調理員	3名 (栄養士含む)
看護師	1名
嘱託医	1名
パート職員(朝夕、フリー、障害児担当など)	29名

イ. 健康管理

健康診断 年 1回 (7月~9月)
 細菌検査 年 1回
 調理、0歳児担当者、施設長、主任のみ毎月1回

ウ. 職員会議

職員会議	毎月 1 回
行事前打ち合わせ会	(随 時)
反省会	(年 2 回)
乳児・幼児別打ち合わせ会	(月 2 回)
クラス別打ち合わせ会	(毎月 1 回)
学習会	(毎月 1 回)

エ. 研修計画

- 法人内研修 (10 万円)
- 学習会 キリスト教保育、巡回指導、環境など (50 万円)
- 外部の研修 施設見学(5 万円)
- 私立保育園連盟 (10 万円)
- キ保育所同盟研 (5 万円)
- 東社協 (5 万円)
- その他 (20 万円)

オ. 退職・福利厚生

社会福祉・医療機構 退職共済制度加入
 東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入
 福利厚生倶楽部加入

2. 施設管理

(1) 事務関係

ア. 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務、実費徴収事務
- ・ 労務管理(出勤管理、有給休暇管理 等)

イ. 児童処遇事務 (保育、給食、健康管理)

- ・ 保育指導計画の作成
- ・ 給食献立表の作成
- ・ 健康診断記録表等の作成

(2) 設備関係

ア. 固定遊具の設備点検 (点検費用)

- ・ 電気、ガス関係点検整備

イ. 老朽設備の点検、老朽箇所の更新（点検、更新費用）

- ・ 保育室の壁紙 30万
- ・ 1歳児クラスのトイレ・水場の修繕

(3) 備品関係

ア. 備品購入予定（購入予定費用）

イ. 保育用品購入予定（購入予定費用）

- ・ おもちゃ・教材等の充実

ウ. 給食用品購入予定（購入予定費用）

エ. 固定資産物品購入予定（購入予定費用）

- ・ 各保育室の園児用ロッカー

(4) 災害対策

ア. 避難訓練 毎月 1回

イ. 防災設備の点検委託

年2回(内、届出1回)

ウ. 非常食糧の備蓄

- (全園児数+全職員数) ×3食×(3日分)
- 食料備蓄用の倉庫を購入予定

3 地域社会との連携

- ・ 近隣にある子育て支援センター・保健センター・小、中学校・保健所・児童相談所・子育て支援課とつながる事によって、虐待の可能性のある家庭、子育てに悩んでいる家庭の支援をしていく。
- ・ 一時保育の利用者等を通して感じた地域のニーズに添った支援をしていく。
- ・ 地域の小学校、学童クラブと連携をとりながら卒園児の育ちを見守っていく
- ・ 小学校とのつながりが義務化されてくるので保育要録等を通じて情報交換を行っていく。

- 新体制でのぞむ
 - ・園長が代わり新たなスタートとなる。役割分担をし、協力体制を強化していく。若手の育成をしながら、全体の資質を高めていけるようにする。
 - ・耐震検査から、その結果に応じて建て替えをするか又は、耐震工事のみにするかなどを決め、新しい計画の元で保育を考えていく。
 - ・引き続き今までの乳児・幼児の打ち合わせに加え、園内研修のあとのクラス打ち合わせ・パート職員を交えたクラス打ち合わせなども毎月行い、職員同士の共通理解を高めていく。
 - パートの雇用形体・時給など就業規則に沿って見直していく。
 - 保育の見直し、積み上げ
 - ・行政による子育て新システムの研修など学びを多くしていく。
 - ・今まで行ってきた保育の流れや内容をここで改めて見直していく。
それには室内環境についてはより家庭的で落ち着いた環境づくりをすすめていく。子どもたちが遊びたいと思うようなものを必要に応じて順次出していけるよう教材等の資料を作成する。
 - ・特別な支援を必要とする子どもが増え、一クラスに複数いる場合もある。他の子どもと共に活動するもの、個別に対応するものなどについて学び、共通理解を高めて保育にあたっていけるようにしていく。「かがわB（障がい児・者ブロック）」から学んだり、連携を進めて行く。
 - ・家庭環境が複雑な場合等、個別の対応を必要とするケースがととも増えている。適宜保護者との面接が出来るようにすることと共に、地域の民生児童委員・子ども家庭支援センター等との連携をより強固にしていく。
 - 新たなニーズを掘り起こす取り組み
 - ・昨年度に続き、「一時保育」他、親支援について学んでいく。
 - ・地域の子育て家庭が来園しやすい保育園となるように工夫していく。その交わりの中からも保護者のニーズが受け止められるようにしていく。
 - 設備の見直し。
 - ・耐震調査・耐震工事
 - ・床の張替え・床暖房・電気工事
 - ・その他にも利用者ニーズに対応出来るように考えていきたい。
- 1 施設運営
- (1) 実施事業
- ア 特別保育等
- ・零歳児保育特別対策事業実施
 - ・産休明け保育実施
 - ・延長保育実施（1時間延長）

- ・延長保育事業（零歳児の受入れ）
- ・障害児保育事業実施（特児対象：1名）
- ・アレルギー児に対する除去食及び代替食実施

イ 地域子育て推進

- ・小中高生の育児体験受入れ（夏期ボランティア受け入れ） 年28日間受入れ予定
- ・保育所体験（園開放） 年10回
- ・出前保育（子育てサロン） 年11回実施予定
- ・年末保育
- ・小学生低学年児童の受け入れ（12名）

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障害児数	備考
つぼみ	0歳	2名	6名		+パート補助1名（看護師代行）
たんぼぼ	1歳	2名	10名		+パート補助1名
ちゅうりっぷ	2歳	2名	14名		+パート補助1名
れんげ	3歳	2名	20名		+パート補助1名
すみれ	4歳	1名	23名		+パート補助1名
いちよう	5歳	1名	24名	1名	+パート補助1名
	フリー	1名			1名は乳児増加の備え
ひろば		1名			
合計		12名	97名	1名	+パート補助1名

☆保育士数合計は、主任保育士を除いた数である。

イ 月別保育予定日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計 297 日
25日	23日	26日	26日	26日	24日	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26日	24日	24日	25日	23日	25日	

ウ 健康管理

健康診断

- 入所前 前年度3月
- 乳児 毎月
- 幼児 年2回（4月、10月）
- 歯科検診 年1回（6月）
- 蟯虫卵検査 年1回（5月）

エ 保 育

保育目標（保育ブロック統一）

- 1 ありのままの自分が受け入れられ、自己発揮でき、考えて行動できる子ども
- 2 のびのびとしなやかに、体を動かして遊ぶ子ども
- 3 基本的な生活習慣が身につく、見通しをもってできることを自分でする子ども
- 4 さまざまな人との関わりを大切に、思いやりをもって共に生きる子ども
- 5 自然や命あるものとの出会いを大切に、豊かに感じ取り表現する子ども

各組の保育目標

いちよう組（5歳児）の年間目標

- ① 様々な活動に取り組み、仲間に認められることによって自信を得、自己発揮する。
- ② 様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通してからだを動かすことを楽しむ。
- ③ 健康、安全に必要な基本的な習慣や自主・自立の態度を身に付け、理解して行動する。
- ④ 様々な事物や事象と自分達の生活との関係に気づき、それらを生活や遊びに取り入れ、生活の経験を広げる。
異年齢や様々な人と関わる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようにする。
人の話をよく聞き自分で考え、自分の意見を相手あるいは集団の中に伝えられるようになる。
- ⑤ 自分のもつ好奇心や知的探究心を働かせることにより、考える力が育ち、表現力が豊かになり、感じたことや思ったこと、想像したことなどを自由に工夫して表現する。

すみれ組（4歳児）の年間目標

- ① 一人ひとりの子どもの要求を十分に満たし、情緒の安定を図る。
- ② 友達と遊ぶことの喜びや楽しさを感じ、集団で活動することを楽しむ。
意欲的に色々なことに挑戦し、からだを動かして遊ぶことを楽しむ。
- ③ 健康、安全などの生活がわかり基本的な習慣を次第に身に付ける。
- ④ 人の話を聞いたり、自分の経験したことや思っていることを話したりして、言葉で伝えることを楽しむ。
- ⑤ 自然や身近な事柄に触れ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、そのことを表現しようとする。

れんげ組（3歳児）の年間目標

- ① 生活が自立してくることで自信をもち、自分のやりたいことが実現できるようになる。
- ② 外遊びを十分にするなど遊びの中で体を動かす楽しさを知る。
- ③ 食事・排泄・睡眠・衣服の着脱等の生活に必要な基本的な習慣が身につくようになる。
- ④ 自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、一緒に遊ぶ喜びを知る。
- ⑤ 様々なものを見たり触れたりして、面白さ・美しさなどに気づき感性を豊かにする。

ちゅうりっぷ組（2歳児）の年間目標

- ①たくさんの自己主張や思いの表れを大人に受け止めてもらうことで、安心して気持ちを出せるようになる。
- ②体を動かすことが楽しくなり、いっぱい遊ぶ。
- ③簡単な身の周りの活動を自分でしようとする。
- ④保育士を仲立ちとして生活や遊びの中で、ごっこ遊びや言葉のやりとりを楽しむ。
- ⑤大人や回りのことに興味をもち、みたて・つもり遊びを通してイメージを豊かに広げていく。

たんぽぽ組（1歳児）の年間目標

- ①一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。
- ②保育士に見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分に行いからだを動かすことを楽しむ。
- ③安心出来る保育士との関係のもとで、食事、排泄等を自分でしようとする気持ちが芽生える。
- ④安心出来る大人に見守られる中で、他の子どもに関心をもち、関わろうとする。
- ⑤身の回りの様々なものを見たり、いじったり、身のまわりの自然や事象に対する好奇心や関心を持つ。

つぼみ組（0歳児）の年間目標

- ①一人ひとりの子どもの甘えなどの依存的欲求を満たし、情緒の安定を図る。
- ②安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を整えたり、移動したりして、色々な身体活動を十分に行う。
- ③保健的で安全な環境をつくり、常に身体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め快適な生活が出来るようにする。
一人ひとりの子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的要求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。
個人差に応じて離乳を進め、いろいろな食品に慣れ幼児食への移行を図る。
- ④優しく語りかけたり、発声や喃語に応答し、発語の意欲を育てる。
- ⑤聞く、見る、触る等の経験を通して、感覚や手指の機能の発達を促す。
安心出来る人的物的環境の下で絵本や玩具、身近な生活用具等を、見たり、触ったりする機会を通して、身の回りのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。

主な行事予定

(行事費用)	4月	入園式 (5万円)
	5月	幼児親子遠足 (10万円)
	6月	こどもの日、花の日 (2.5万円)
	7月	お泊まり保育 (10万円)
		夏まつり (5万円)

8月	卒園児キャンプ（10万円）
9月	祖父母の集い（2万円）
10月	運動会（10万円）、幼児遠足（5万円）、2歳クラス親子遠足（5万円）
11月	感謝祭（2万円）
12月	もちつき大会（5万円）、クリスマス会（15万円）
1月	新年挨拶会（5万円）、6年生同窓会（3.5万円） つくし講座（母親講座）（2万円）
2月	子ども食堂（5万円）
3月	お別れ遠足（10万円）、卒園式（5万円）、進級式（5万円）

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年 12 回

栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成

季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成。

給食供給者としての諸管理

園児の畑での種まき・苗植え体験。野菜・果物（キュウイフルーツ）の収穫体験。

食材の放射能汚染への対応に万全を期していく。

カ 安全管理

非常災害時の避難訓練 毎月

引き渡し訓練の実施（ 9 月 ）

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園 長	1 名
主 任	2 名
保 育 士	13 名（主任保育士除いた数）（うち 2 名は臨時職員。） （ひろば 1 名）
調 理 員	3 名（栄養士含む）
看 護 師	(1 名・・・主任と兼任)
嘱 託 医	1 名（非常勤）
パート職員	29 名

イ 健康管理

健康診断 年 1 回（ 10 月 ）

細菌検査 年 12 回 全員

インフルエンザ予防接種

ウ 職員会議

- 定例職員会議 毎月 1 回
- 園内研修＋クラス打ち合わせ 毎月 1 回
- パート職員を交えたクラス打ち合わせ 毎月 1 回
- 乳児クラス、幼児クラス各打ち合わせ等 各月 2 回
- パート職員の研修 夜年 2 回

エ 研修計画（研修費用）

- ・園内研修（15 万円）
- ・法人内研修（40 万円）
- ・他施設見学研修（20 万円）
- ・その他研修（5 万円）

オ 退職・福利厚生

- 社会福祉・医療機構 退職共済制度加入
- 東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入
- 福祉厚生倶楽部加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務、・実費徴収事務・・・トータルネット
- ・労務管理（出勤管理、有給休暇管理 等）

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・保育指導計画等の作成
- ・給食献立表等の作成
- ・健康診断記録表等の作成
- ・かんたんメールでの伝達

(2) 設備関係

ア 老朽箇所の見直し

- ・耐震調査・耐震工事
- ・保育室床の修繕、ペンキ塗り。
- ・園庭の倉庫改修工事

イ 部屋の使い勝手を変えるために（乳児の保育ニーズにこたえるために）

- ・二階乳児室内トイレの改修二箇所。調乳コーナー・沐浴コーナーの設備。
- ・電気配線工事
- ・床暖房工事

- ウ 新しいチャレンジにむけての準備として
 - ・ニーズを受け止めながら、一時保育室または学童保育室の設置を考える。

(3) 備品関係

- ア 備品購入予定（購入予定費用）
 - ロッカー・机・椅子・筆筒等の購入
 - パソコン
- イ 保育用品購入予定（購入予定費用）
 - 三輪車等の保育用品購入
 - 保育玩具・教材の購入
- ウ 給食用品購入予定（購入予定費用）
 - 箸・お皿の類
- エ 固定資産物品購入予定（購入予定費用）

(4) 災害対策

- ア 避難訓練
 - 毎月1回
- イ 防災設備の点検委託
 - 年2回（内、届け出1回）
- ウ 非常食糧の備蓄
 - （全園児数＋全職員数）×3食×（1日～3日）分 倉庫内整理。

3 地域社会との連携

障害児者施設、小学校・中学校・高校との交流。老人ホームとの交流。
民生委員、支援センター、保健相談所、児童相談所との連携。
小学校とのつながりが義務化されてくるので、保育要録等を通じて情報交換を行う。

4 その他

卒園児キャンプ。6年生同窓会。
「ワークスタジオかがわ」との連携を考えていく。

※子育てひろば事業「いつかいち」

2011年9月より子育て、子育ての拠点として、乳幼児とその保護者の安心・安全な居場所として、交流の場として事業を展開してきた。開館当初から登録数も増加の傾向を辿っている。

課題として、環境及びプログラムの充実と「ひろば」の存在を幅広く周知していきたい。

記入者 伊藤 美代子

創立 60 年を機に改築への思いを確かなものとしたいと願っている。現実には狭い敷地や仮設園舎を作る場所の確保等課題は多い。補助金の動きをみると今年度中に動き出したところだが、法人内の改築計画を確かなものにしてもらい、計画を進めていきたい。歴史を振り返りつつ、大事にしていくところを確認しながらこれからの保育を見つめ、職員一人一人の成長、人材育成を少しずつでも果たしていきたい。

園内研修では昨年、1 年をかけて行事の見直しを進めてきた。「子どもたちにとって」という視点を第一に「職員の負担の軽減」という二つ目の視点も合わせて話し合いを進め、だいぶ整理できたと思う。しかし、職員にとって何のために仕事をするのか…の視点も欠かせない。職場の働きやすさややりがいは自分たちで作っていくものだし、そのための時間を惜しんではならないと思うので働きかけていきたいと思う。

今年は改築に向けて大きく動き出せるかどうか、今はまだわからない。それに伴い園舎の補修をどう考えていくのか変わってくると思うので、計画も流動的にならざるを得ないと思っている。

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・ 零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：9名）
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育実施（1時間延長）
- ・ 延長保育事業（零歳時の受け入れ・スポットの受け入れ）
- ・ 障碍児保育事業実施
- ・ アレルギー児に対する除去食及び代替食実施

イ 地域子育て推進

- ・ 育児講座 年6回実施予定
- ・ お年寄りとの交流 年6回実施予定
- ・ 退所児童との交流 年6回実施予定
- ・ 小中高生の育児体験受入れ 年30日間受入れ予定
- ・ 育児相談 随時実施
- ・ 保育所体験 年20回・30人受入れ実施予定
- ・ 出前保育 年11回実施予定
- ・ 出産を迎える方の体験保育 年9回・20人受け入れ実施予定
- ・ 子育てサークル支援 年10回実施予定
- ・ 子育て情報誌の発行 年5回発行予定

- ・ 育児困難家庭への支援
- ・ 自主的取組 障害児との交流保育

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障害児数	備考
つくし	0歳	3	9	0	
たんぽぽ	1歳	2	10	0	
もも	2歳	2	14	0	
ちゅうりっぷ	3歳	1	15	0	
ひまわり・年中	4歳	1	15	0	
ひまわり・年長	5歳	1	16	1	
子育てひろば	その他	1			
合 計		11	79	1	

イ 月別保育予定日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 295日
24	24	26	25	27	23	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26	24	23	23	24	26	

ウ 健康管理

健康診断

乳児 毎月

幼児 年2回（5月、11月）

歯科検診 年2回（6月、11月）

蟻虫卵検査 年2回（6月、11月）

エ 保 育

保育目標（保育ブロック統一）

- 1 ありのままの自分が受け入れられ、自己発揮でき、考えて行動できる子ども
- 2 のびのびとしなやかに、体を動かして遊ぶ子ども
- 3 基本的な生活習慣が身につき、見通しをもってできることを自分でする子ども
- 4 さまざまな人との関わりを大切に、思いやりをもって共に生きる子ども
- 5 自然や命あるものとの出会いを大切に、豊かに感じ取り表現する子ども

各組の保育目標

ひまわり組（5歳児）の年間目標

- ・ 様々な活動に取り組み、仲間に認められることによって自信を得、自己発揮する。
- ・ しなやかな体で、のびのびと自分の体を動かして遊ぶ。
- ・ 人の話をよく聞き、自分で考え、自分の意見を相手、あるいは集団の中に伝えられるようになる。
- ・ 友だちと同じ目的に向かって活動するようになり、自分のやらなければならないことや、必要性がわかってくる。
- ・ 異年齢や様々な子ども達とかかわる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようになる。
- ・ 友だちと共通のイメージを持って、自分たちの遊びをより楽しいものにしていく。
- ・ 自分の持つ好奇心や知的探究心を働かせることにより、考える力が育ち、表現力が豊かになり、感じたことや思ったこと、想像した事などを自由に工夫して表現する。

ひまわり組（4歳児）の年間目標

- ・ 友だちとの楽しい経験を重ねることで、自分の気持ちに気づき、行動しようとする。
- ・ 意欲的にいろいろなことに挑戦し、体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- ・ 人の話を聞いたり、自分の思っていることを話したりして、言葉で伝え合うことを楽しむ。
- ・ 友達と遊ぶことの喜びや楽しさをお互いに感じ、一緒に遊ぶ中で他の子ども達の考え方も受け入れようとする。
- ・ 異年齢の子どもにも関心をもち、かかわりを広げる。
- ・ 遊びの中から想像が豊かになり、それを表現する。
- ・ 自然の身近な事柄に触れ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、その事を表現しようとする。

ちゅうりっぷ組（3歳児）の年間目標

- ・ 生活が自立してくることで自信を持ち、自分のやりたいことが実現できるようになる。
- ・ 色々な遊びを通して、体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- ・ 自分の思ったことや感じたことを言葉に表現し、保育者や友達と遊ぶ中で言葉を楽しんで使う。
- ・ 気の合う仲間と一緒に遊ぶことを楽しむ。
- ・ 友だちの事がわかるようになり、助けてあげたり手伝ってあげるようになる。
- ・ 体験したことをもとに色々なことを発想してごっこ遊びを作っていく。
- ・ 自然の中で身近な動植物に触れあいたくさん遊ぶ。

もも組（2歳児）の年間目標

- ・ たくさんの自己主張や思いの表出を保育者に受けとめてもらうことで、安心して気持ちを出せるようになる。
- ・ 体を動かすことが楽しくなり、体をいっぱい動かしてあそぶ。
- ・ 保育者に助けてもらうことで、自分の気持ちを言葉で伝えようとし、思いがぶつかった時

も、“どうしようかな”と少しずつ考えようとする。

- ・ 他の子ども達と遊ぶことが楽しくなり、一緒に遊びたいと思う仲間ができてくる。
- ・ 保育者や周りのことに興味を持ち、みたて・ふり遊びを通してイメージを豊かに広げていく。
- ・ 自然物や生き物を身近に感じ、喜んで触れ合う。

たんぽぽ組（1歳児）の年間目標

- ・ 「ジブンノ」「ジブンガ」の主張に見られるような自我が芽生え、その表出を保育者に受けとめてもらうことにより、安心して自分の思いを出す。
- ・ 歩くことを喜び、体が動くことを楽しむようになる。また、手指など自分の体を使って、探索活動を十分に楽しむ。
- ・ 保育者と子どものゆったりした信頼関係の中で、ことばやしぐさで自分の思いを伝える。そして、その中で覚えた言葉を使うことを楽しむようになる。
- ・ 安心できる保育者に見守られる中で、他の子どもにも関心をもちかかわろうとする。
- ・ 身近な保育者の様子を真似しながら、みたて・ふり遊びを楽しむ。
- ・ 身近な自然とのふれあいを十分に体験する。また、小動物に対する興味や関心が育つ。

つくし組（0歳児）の年間目標

- ・ 一人ひとりの子どもの甘えなどの依存欲求を満たし、情緒の安定を図る。また、一人ひとりの生活リズムを大切にして、食欲、睡眠、排泄などの生理欲求をもたし、生活の安定を図る。
- ・ 大好きな人や欲しいものに興味を示し、自分から近づいていこうと姿勢を変えたり、移動するなど体を十分に動かす。
- ・ 寝返り、おすわり、はいはい、伝い歩き、歩くなどそれぞれの状態にあった遊びを楽しむ。
- ・ 聞く、見る、握る、つまむ、たたく、ひっぱる、しゃぶるなどの遊びを楽しむ。
- ・ 嬉しい、悲しいなどの感情が育ち、泣く、笑う、表情、しぐさ、喃語、片言などでじぶんのきもちを表す。
- ・ 保育者が歌う唄を喜んで聞いたり、手足や体を動かして楽しむ。また、保育者の動作を見て、まねをすることを楽しむ。
- ・ 身近な自然とのふれあいを十分に体験する。

主な行事予定	4月	入園式（1万円）
（行事費用）	5月	日曜大工の日（5万円）
	6月	親子遠足（25万円） 花の日、子どもの日（1万円）
	7月	夕涼み会（5万円） 保育園キャンプ（30万円）
	9月	おじいちゃん、おばあちゃんと親しむ会（2万円）

10月	運動会 (5万円)
	いもほり遠足 (3～5歳児) (17万円)
11月	しんあいまつり (4万円)
12月	子ども会クリスマス会 (4万円)
	親子クリスマス会 (12万円)
	年長観劇 (5万円)
1月	餅つき (3万円)
3月	卒園遠足 (3万円)
3月	お別れ会、卒園式 (10万円)
月例行事	誕生会 (8万円)
	リズム遊び講師謝礼 (6万円)
	遊び道場謝礼 (20万円)
	礼拝牧師謝礼 (8万円)
	園外保育 (3万円)

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年4回

栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成

季節の素材・安心できる素材（生協の利用・自然食品店・アレルギー食材店の利用）を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成

給食供給者としての諸管理

地域の親に向けた献立の紹介

食材の放射能汚染への対応に万全を期していく。

カ 安全管理

交通安全教育（11月）

非常災害時の避難訓練（毎月1回）

引き渡し訓練の実施（9月1日）

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任	1名
保育士	12名
調理員	3名（栄養士含む）
看護師	1名
嘱託医	2名（非常勤）
臨時職員、パート職員	15名

イ 健康管理

- 健康診断 年1回（10月）
- 細菌検査 年2回
- 給食、0歳児調乳担当のみ毎月1回

ウ 職員会議

- 定例会 毎月2回
- 行事前打合せ会（随時）
- 期別反省会（年2回）
- 園内研修（年4～5回）

エ 研修計画（研修費用）

- ・ 園内研修（10万円）
- ・ 法人内研修（10万円）
- ・ キ保連保育研修（10万円）
- ・ 保育総合研修（10万円）
- ・ 全私保連カウンセラー養成講座（10万円）
- ・ 全私保連全国研究大会（10万円）
- ・ その他（15万円）

オ 退職・福利厚生

- 社会福祉・医療機構 退職共済制度加入
- 東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入
- 福利厚生倶楽部加入

2 施設管理

（1）事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・ 小口現金出納事務、・ 実費徴収事務
- ・ 労務管理（出勤管理、有給休暇管理 等）

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・ 保育指導計画等の作成
- ・ 給食献立表等の作成
- ・ 健康診断記録表等の作成

（2）設備関係

- ア 固定遊具の設備点検（点検費用）
- イ 老朽設備の点検、老朽箇所の更新（点検・更新費用）
 - 1、2階保育室のワックス塗り（50万円）
 - 1階保育室の床の補修（50万円）

（3）備品関係

- ア 備品購入予定（購入予定費用）
 - 3階談話室のカーテン取り付け（5万円）
- イ 保育用品購入予定（購入予定費用）
 - 各クラス遊具（60万円）
 - 教材費（80万円）
 - 功技台（10万円）
- ウ 給食用品購入予定（購入予定費用）
 - 換気扇（30万円）
- エ 固定資産物品購入予定（購入予定費用）
 - 1歳児室 サッシの取り換え（80万円）

（4）災害対策

- ア 避難訓練
 - 毎月1回
- イ 防災設備の点検委託
 - 年2回（内、届け出1回）
- ウ 非常食糧の備蓄
 - （全園児数＋全職員数）×3食×（1日～3日）分

3 地域社会との連携

ネットワーク作りに力を入れ地域の各施設機関とつながることによって、子育て支援の輪を地域の中に広げ、人と人をつないでいくことを引き続き目標にする。60周年も地域の方々と共に中でお祝いしたが、地域の中でのつながりを今後も大切にしたい。

区内にある雲柱社の施設と連携を取り合い、利用者のニーズにそった支援をしていくためにも、改築に向けての地域の話し合いを続けていきたい。

地域の民生委員、児童委員、保育ママに子育てひろば『ひだまり』で発行している情報誌を送り、情報

を発信していく。そして、地域のお年寄りの力を園内に吹き込んでもらうことも具体的に考え実行していく。これらのことを今年はまだもう一歩でも進めたい。

また、小学・中学・高校生が地域の中であまり関わることのない乳幼児と触れ合う機会を作るためにも江東区のボランティアセンターと連絡をとったり、近隣の小、中学校との連携をとっているが、今後も大切に続けていく。

新保育所保育指針に義務付けられた地域の小学校との連携は、近くにある地域の3つの保育園と協働して学校に働きかけ、講演会や交流を形あるものにしてきた。学校側も意識を変えてきていることはうれしいことである。これからも子どもにとっての育ちの連続性を保障できるよう、保育要録等を通じてさらに実のあるものにしていきたい。

また、2010年に始めた「近隣地域の保育施設の勉強会」は公私立の認可保育園、認証保育園、保育ママさん、幼稚園等も含めた形で継続している。今後も仲間を増やしながらか、引き続き深川北子ども家庭支援センターの協力のもと、勉強会をしていく中で交流もしていけたらと願っている。

社会福祉法人雲柱社 祖師谷保育園 2012（平成24）年度 事業計画

記入者 菊地 せい子

2012年度から本園と分園が一体化して運営されることとなり、本園園長が分園を統括し、分園に園長代行を配置することとなる。本園職員は分園職員との連携、一体化への意識を強め保育内容をより充実したものにし、子どもたちに寄り添い、保護者に信頼される保育園作りをさらに進めていくことが必要である。家庭的保育事業も3年目を迎えるが、各方面の関心も高く視察者も多い。現在のところ世田谷区で実施園は雲柱社だけであるが、その原因は何か現場の経験から課題を整理していきたい。

また、数年中に首都圏直下型地震発生の可能性も云われており、3.11大震災の教訓を踏まえ、まずは、子どもたちの命を守るため防災に対する意識を高め防災訓練等を強化していかねばならない。また、昨年度に引き続き放射能汚染への注意も怠ってはならない。

組織体制に関しては、2010年度に戻り、園長、主任、リーダー体制をとる。そして職員間のコミュニケーションをより密にし、円滑な業務遂行が常にできるよう、報告・連絡・相談をしっかりとあっている職員集団を作りあげていきたい。

子ども達が限りなく豊かに伸びていく力を信じ、子ども目線、親目線、地域目線にも配慮し、保護者と共に子ども達が安全で健康な生活ができるようなバランスの良いやさしく温かい保育園づくりを目指していきたい。

保育目標

- ① 神と人から愛されていることを知り、自分やまわりの人を大切にする子ども
- ② ありのままの自分が受け入れられ、自己発揮でき、考えて行動できる子ども
- ③ のびのびとしなやかに、自分のからだを動かして遊ぶ子ども
- ④ 基本的な生活習慣が身につく、見通しをもってできることを自分でする子ども
- ⑤ さまざまな人との関わりを大切にし、思いやりをもって共に生きる子ども
- ⑥ 自然や命あるものとの出会いを大切にし、豊かに感じとり表現する子ども

環境整備

園庭整備（30万円）

ホールの玩具棚（30万円）

施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・ 零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：9名）
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育事業（2時間延長、0歳児の受け入れ、スポット利用の受け入れ）
- ・ 障がい児保育事業実施
- ・ アレルギー児に対する除去食及び代替食実施
- ・ 年末保育
- ・ 家庭的保育事業

イ 地域子育て推進

- ・ 中高生の育児体験受入れ

- ・出前保育
- ・保育所体験
- ・お年寄りとの交流
- ・「地域の部屋」の開放

(2) 児童の処遇

ア 本園クラス編成 認可定員(108名) 現員(111名)

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障碍児数	備考
うさぎ組	0歳	3名	9名		看護師・1名は非常勤保育士
あひる組	1歳	3名	15名		
はな組	2歳	3名	17名		
つき組	3歳	2名	22名		
ほし組	4歳	2名	24名	1名	
ゆき組	5歳	2名	24名		1名は非常勤保育士
	その他	2名			
合計		17名	111名		

イ 月別保育予定日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計 294日
24日	24日	26日	25日	27日	23日	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26日	24日	24日	23日	23日	25日	

ウ 健康管理

健康診断

乳児 毎月1回
 幼児 年2回(5月、10月)

歯科検診 年1回(6月)

蟯虫卵検査 年1回(6月)

視力測定「4, 5歳児」(11月)

耳鼻科検診 年1回(5月)

エ 保育

各年齢の保育目標

5歳児の年間目標

- ①・様々な活動に取り組み、仲間に認められることによって自信を得、自己発揮する。
- ②・様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して体を動かすことを楽しむ。
- ③・健康、安全に必要な基本的な習慣や自主・自律の態度を身につけ、理解して行動する。
- ④・様々な事物や事象と自分たちの生活との関係に気づき、それらを生活や遊びに取り入れ、生活の経験を広げる。
 - ・年齢や様々な人とかかわる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようにする。
 - ・人の話をよく聞き、自分で考え、自分の意見を相手あるいは集団の中に伝えられるようになる。

- ⑤・自分のもつ好奇心や知的探求心を動かせることにより、考える力が育ち、表現力が豊かになり感じたことや思ったこと、想像したことなどを自由に工夫して表現する。

4歳児の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの要求を十分に満たし、情緒の安定を図る。
- ②・友達と遊ぶことの喜びや楽しさを感じ、集団で活動することを楽しむ。
 - ・意欲的にいろいろなことに挑戦し、体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- ③・健康、安全などの生活がわかり基本的な習慣を次第に身につける。
- ④・人に話を聞いたり、自分の経験したことや思っていることを話したりして、言葉で伝えることを楽しむ。
- ⑤・自然や身近の事がらにふれ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、そのことを表現しようとする。

3歳児の年間目標

- ①・生活が自立してくることで自信もち、自分のやりたいことが実現できるようになる。
- ②・外遊びを十分にするなど遊びの中で体を動かすことを楽しむ。
- ③・食事、排泄、睡眠、衣服の着脱等の生活に必要な基本的な習慣が身につくようにする。
- ④・自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、一緒に遊ぶ喜びを知る。
- ⑤・様々なものを見たり触れたりして、面白さ・美しさなどに気づき感性を豊かにしていく。

2歳児の年間目標

- ①・たくさんの自己主張や思いの表れを大人に受け止めてもらうことで、安心して気持ちを出せるようになる。
- ②・体を動かすことが楽しくなり、いっぱい遊ぶ。
- ③・簡単な身の回りの活動を自分でしようとする。
- ④・保育士を仲立ちとして生活や遊びの中で、ごっこ遊びや言葉のやりとりを楽しむ。
- ⑤・大人やまわりのことに興味をもち、みたく・つもり遊びを通してイメージを豊かに広げていく。

1歳児の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。
- ②・保育士にも見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分に行い体を動かすことを楽しむ。
- ③・安心できる保育士との関係のもとで、食事、排泄等を自分でしようとする気持ちが芽生える。
- ④・安心できる大人に見守られ中で、他の子どもにも関心をもち、関わろうとする。
- ⑤・身のまわりの様々なものを見たり、いじったり、身のまわりの自然や事象に対する好奇心や関心をもつ。

0歳児の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの甘えなどの依存的欲求を満たし、情緒の安定を図る。
- ②・安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を整えたり、移動したりして、いろいろな身体活動を十分に行う。
- ③・保健的で安全な環境をつくり、常に体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め快

適な生活ができるようにする。

- ・一人ひとりの子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。
 - ・個人差に応じて離乳を勧め、いろいろな食品に慣れ幼児食への移行を図る。
- ④・優しく語りかけたり、発声や喃語に応答し、発語の意欲を育てる。
- ⑤・聞く、見る、触れるなどの経験を通して、感覚や手指の機能の発達を促す。
- ・安心できる人的物的環境のもとで絵本や玩具、身近な生活用具などを、見たり、触れたりする機会を通して、身の回りのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。

主な行事予定	4月	入園式（3万5千円）
(行事費用)		3、4、5歳児親子遠足（22万）
	5月	各クラス懇談会
	6月	花の日、子どもの日、（6万円） 5歳児お泊まり①（3万） 保育参加・参観 プール開き
	7月	夕涼み会（16万円）
	8月	卒園生遊ぼう会（3万円）
	9月	個人面談開始 ほのぼの会（3万円）
	10月	運動会（18万円） 5歳児お泊まり②（1万） 5歳児プラネタリウム観覧（3万円）
	11月	そしがや祭り（25万） 収穫感謝祭・会食
	12月	クリスマス会（30万円）
	1月	餅つき
	2月	豆まき 大きくなったよの会 保育参加・参観 各クラス懇談会
	3月	お別れ会、卒園式（25万円） 進級式（4万円）

月例行事	誕生会、避難訓練 おにぎりの日（年3回 3歳児以上） 縦割り保育（毎週水曜日、年3回3～5日間）
------	--

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年 4 回
栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成
季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成
給食供給者としての諸管理
食材の放射能汚染への対応に万全を期していく。

カ 安全管理

非常災害時の避難訓練

引き渡し訓練の実施（9月）

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任	1名
保育士	15名
看護師	1名
栄養士	2名
調理員	2名
非常勤職員	10名
嘱託医（非常勤）	1名
音楽講師（非常勤）	1名

イ 健康管理

健康診断	年 1 回（6月）
細菌検査	年 1 2回（全職員及び非常勤職員 毎月1回）

ウ 会議

・職員会議	毎月 1 回	・主任会	毎月 2 回
・幼児打ち合わせ	毎月 2 回	・乳児打ち合わせ	毎月 2 回
・各クラス打ち合わせ	年 6 回	・食事打ち合わせ	毎月 1 回
・行事前打合せ会（随時）		・振りかえり（年 2 回）	
・新年度打ち合わせ			

エ 研修計画（研修費用）

- ・園内研修（20万円）
- ・法人内研修（10万円）
- ・民間保育園連盟研修（30万円）
- ・その他の研修（40万円）

オ 退職・福利厚生

社会福祉・医療機構 退職共済制度加入
 東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入
 福利厚生倶楽部

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務、・実費徴収事務
- ・労務管理（出勤管理、有給休暇管理 等）

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・保育指導計画等の作成
- ・給食献立表等の作成
- ・健康診断記録表等の作成

(2) 設備関係

- ア 固定遊具の設備点検（点検費用）

(3) 備品関係

- ア 備品購入予定（購入予定費用）

- イ 保育用品購入予定（購入予定費用）

- ・クラス用遊具、環境整備用品（100万）

- ウ 給食用品購入予定（購入予定費用）

- ・調理器具（20万）

- エ 固定資産物品購入予定（購入予定費用）

- ・テラス用日よけ（30万）

(4) 災害対策

- ア 避難訓練

毎月1回

- イ 防災設備の点検委託

年2回（内、届け出1回）

- ウ 非常食糧の備蓄

○（全園児数＋全職員数）×3食×（2日）分

3 地域社会との連携

- ・烏山地域子育て支援の「保育ネット烏山」に参加。
- ・トライアングルフェスタに参加、児童館懇談会に情報交換の場として参加。
- ・民政委員の方と相談しながら、一人暮らしのお年寄り宅を訪問する。
- ・地域のお年寄りとお食事会「年4回」
- ・地域の部屋を週二回、地域の子育て中の親子に開放する。
- ・出前保育、園開放
- ・小学校とのつながりが義務化されてくるので、保育要録等を通じて情報交換を行う。

4 祖師谷保育園分園、家庭的保育との連携、協力

- ・職員人材育成（合同園内研修を実施）
- ・園外保育、5歳児お泊まり
- ・本園、分園合同主任会を定期的に持ち、情報交換や確認する
- ・食事に関すること（共通献立や食育の工夫など）
- ・施設長、事務、主任等の打ち合わせを持ち、情報交換を行う

社会福祉法人雲柱社 祖師谷保育園分園 2012（平成24）年度 事業計画

記入者 佐藤 洋子

2012年度から分園と本園が一体化して運営されることとなり、本園園長が分園を統一し、分園に園長代行を配置することとなる。分園職員は本園職員との連携、一体化への意識強め保育内容をより充実したものにし、子どもたちに寄り添い、保護者に信頼される保育園作りをさらに進めていくことが必要である。家庭的保育事業も3年目を迎えるが、各方面の関心も高く視察者も多いが、現在のところ世田谷区で実施園は雲柱社だけであるが、その原因は何か現場の経験から課題を整理していきたい。

また、数年中に首都圏直下型地震発生の可能性も云われており、3.11大震災の教訓を踏まえ、まずは、子どもたちの命を守るため防災に対する意識を高め防災訓練等を強化していかねばならない。また、昨年度に引き続き放射能汚染への注意も怠ってはならない。

環境整備については、室内、園庭等の整備をより充実していきたい。また、職員間のコミュニケーションを密にし、円滑な業務遂行が常にできるよう、報告・連絡・相談をしっかりと行っている職員集団を作りあげていきたい。

子ども達が限りなく豊かに伸びていく力を信じ、子ども目線、親目線、地域目線にも配慮し、保護者と共に子ども達が安全で健康な生活ができるようなバランスの良いやさしく温かい保育園づくりを目指していきたい。

保育目標

神と人から愛されていることを知り、自分やまわりの人を大切にする子ども

- ① ありのままの自分が受け入れられ、自己発揮でき、考えて行動できる子ども
- ② のびのびとしなやかに、自分のからだを動かして遊ぶ子ども
- ③ 基本的な生活習慣が身につく、見通しをもってできることを自分でする子ども
- ④ さまざまな人との関わりを大切にし、思いやりをもって共に生きる子ども
- ⑤ 自然や命あるものとの出会いを大切にし、豊かに感じとり表現する子ども

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・家庭的保育事業実施
- ・零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：9名）
- ・産休明け保育実施
- ・延長保育事業（1時間延長）
- ・年末保育（12/29、）
- ・緊急保育利用
- ・障害児保育事業実施（1名）
- ・アレルギー児に対する代替食実施
- ・家庭的保育事業

イ 地域子育て推進

- ・中高生の育児体験受入れ
- ・出前保育
- ・園開放

(2) 児童の処遇

ア クラス編成 認可定員 名

クラス名	年 齢	保育士数	園児数	障害児数	備 考
つくし組	0歳	3名	9名		看護師
すみれ組	1歳	3名	14名		
たんぽぽ組	2歳	2名	15名		
ちゅうりっぷ組	3歳	1名	15名		
ひまわり組	4歳	1名	16名		
さくら組	5歳	1名	15名		
	その他	1名			
合 計		12名	84名		

イ 月別保育予定日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 293日
24日	24日	26日	25日	27日	23日	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26日	24日	23日	23日	23日	25日	

ウ 健康管理

健康診断

乳児 毎月1回

幼児 年2回(5月、10月)

歯科検診 年1回(6月)

蟻虫卵検査 年1回(6月)

視力測定「4, 5歳児」(11月)

耳鼻科検診 年1回(5月)

エ 保 育

各年齢の保育目標(本園・分園共通)

5歳児の年間目標

- ①・様々な活動に取り組み、仲間に認められることによって自信を得、自己発揮する。
- ②・様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して体を動かすことを楽しむ。
- ③・健康、安全に必要な基本的な習慣や自主・自律の態度を身につけ、理解して行動する。
- ④・様々な事物や事象と自分たちの生活との関係に気づき、それらを生活や遊びに取り入れ、生活の経験を広げる。
 - ・年齢や様々な人とかかわる中で、それぞれの違いを認め合っているようにする。
 - ・人の話をよく聞き、自分で考え、自分の意見を相手あるいは集団の中に伝えられるようになる。
- ⑤・自分のもつ好奇心や知的探求心を動かせることにより、考える力が育ち、表現力が豊かに

なり感じたことや思ったこと、想像したことなどを自由に工夫して表現する。

4歳児の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの要求を十分に満たし、情緒の安定を図る。
- ②・友達と遊ぶことの喜びや楽しさを感じ、集団で活動することを楽しむ。
 - ・意欲的にいろいろなことに挑戦し、体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- ③・健康、安全などの生活がわかり基本的な習慣を次第に身につける。
- ④・人に話を聞いたり、自分の経験したことや思っていることを話したりして、言葉で伝えることを楽しむ。
- ⑤・自然や身近の事がらにふれ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、そのことを表現しようとする。

3歳児の年間目標

- ①・生活が自立してくることで自信もち、自分のやりたいことが実現できるようになる。
- ②・外遊びを十分にするなど遊びの中で体を動かす楽しさを味わう。
- ③・食事、排泄、睡眠、衣服の着脱等の生活に必要な基本的な習慣が身につくようにする。
- ④・自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、一緒に遊ぶ喜びを知る。
- ⑤・様々なものを見たり触れたりして、面白さ・美しさなどに気づき感性を豊かにしていく。

2歳児の年間目標

- ①・たくさんの自己主張や思いの表れを大人に受け止めてもらうことで、安心して気持ちを出せるようになる。
- ②・体を動かすことが楽しくなり、いっぱい遊ぶ。
- ③・簡単な身の回りの活動を自分でしようとする。
- ④・保育士を仲立ちとして生活や遊びの中で、ごっこ遊びや言葉のやりとりを楽しむ。
- ⑤・大人やまわりのことに興味をもち、みたく・つもり遊びを通してイメージを豊かに広げていく。

1歳児の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。
- ②・保育士にも見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分に行い体を動かすことを楽しむ。
- ③・安心できる保育士との関係のもとで、食事、排泄等を自分でしようとする気持ちが芽生える。
- ④・安心できる大人に見守られ中で、他の子どもにも関心をもち、関わろうとする。
- ⑤・身のまわりの様々なものを見たり、いじったり、身のまわりの自然や事象に対する好奇心や関心をもつ。

0歳児の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの甘えなどの依存的欲求を満たし、情緒の安定を図る。
- ②・安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を整えたり、移動したりして、いろいろな身体活動を十分に行う。
- ③・保健的で安全な環境をつくり、常に体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め快

適な生活ができるようにする。

- ・一人ひとりの子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。
- ・個人差に応じて離乳を勧め、いろいろな食品に慣れ幼児食への移行を図る。
- ④・優しく語りかけたり、発声や喃語に応答し、発語の意欲を育てる。
- ⑤・聞く、見る、触れるなどの経験を通して、感覚や手指の機能の発達を促す。
- ・安心できる人的物的環境のもとで絵本や玩具、身近な生活用具などを、見たり、触れたりする機会を通して、身の回りのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。

主な行事予定	4月	入園式（2万円）、イースター（1万）
(行事費用)	5月	3、4、5歳児親子遠足（25万） 各クラス懇談会
	6月	花の日、子どもの日、（3万円） 5歳児プラネタリウム（1万5千円） プール開き
	7月	夕涼み会（10万円）
	8月	卒園生遊ぼう会（4万円）
	9月	個人面談開始
	10月	運動会（10万円）ほのぼの会（3万円）
	11月	そしがや祭り（10万） 一週間縦割り 収穫感謝祭・会食
	12月	クリスマス会（10万円）
	1月	餅つき（2万円）
	2月	5歳児観劇（3万円） 各クラス懇談会
	3月	お別れ会、卒園式（10万円） 進級式（4万円）
	月例行事	誕生会（1万円） おにぎりの日（年3回 3歳児以上）

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年 4 回
栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成
季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成
給食供給者としての諸管理
保育園における食育計画づくりをしていく
食材の放射能汚染への対応に万全を期していく。

カ 安全管理

非常災害時の避難訓練
引き渡し訓練の実施（9月）

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長（代行）	1名
保育士	12名
看護師	1名
調理員（栄養士含む）	2名
非常勤職員	13名
嘱託医（非常勤）	1名
音楽講師（非常勤）	1名

イ 健康管理

健康診断	年 1 回（6月）
細菌検査	年 1 2回
全職員及び非常勤職員	毎月 1 回

ウ 会議

・職員会議	毎月 1 回	・主任会	毎月 2 回
・幼児打ち合わせ	毎月 2 回	・乳児打ち合わせ	毎月 2 回
・各クラス打ち合わせ	年 6 回	・食事打ち合わせ	毎月 1 回
・行事前打合せ会（随時）		・反省会（年 2 回）	
・新年度打ち合わせ			

エ 研修計画（研修費用）

- ・園内研修（15万円）
- ・法人内研修（10万円）
- ・民間保育園連盟研修（10万円）
- ・その他の研修（30万円）

オ 退職・福利厚生

社会福祉・医療機構 退職共済制度加入
 東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入
 福利厚生倶楽部加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務、・実費徴収事務
- ・労務管理（出勤管理、有給休暇管理 等）

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・保育指導計画等の作成
- ・給食献立表等の作成

- ・健康診断記録表等の作成

(2) 設備関係

- ア 固定遊具の設備点検（点検費用）

(3) 備品関係

- ア 備品購入予定（購入予定費用）

災害対策：ホール室避難用電話機設置・園庭用火災報知機設置（50万円）

地震対策：落下防止用全クラスの棚に枠取り付け（25万）

玄関エントランス雨風除け目隠し（15万）

- イ 保育用品購入予定（購入予定費用）

- ・園庭遊具（30万円）

- ・クラス用遊具、環境整備用品（30万）

- ウ 給食用品購入予定（購入予定費用）

- ・食器類（30万）

- エ 固定資産物品購入予定（購入予定費用）

(4) 災害対策

- ア 避難訓練

毎月1回

- イ 防災設備の点検委託

年2回（内、届け出1回）

- ウ 非常食糧の備蓄

○（全園児数＋全職員数）×3食×（2日）分

3 地域社会との連携

- ・烏山地域子育て支援の「保育ネット烏山」に参加
- ・トライアングルフェスタに参加し、児童館懇談会に情報交換の場として参加
- ・近隣老人施設との交流
- ・隣接中学校との交流
- ・地域乳幼児の園開放
- ・小学校とのつながりが義務化されてくるので保育要録等を通じて情報交換を行う。

立ち上げから5年経ち、利用者の気持ちに寄り添う姿勢を大切に、思いやりと誠実さを持って働く職員集団を目指してきました。昨年度途中より、鳥山保育園の園の方針を見直し「一人ひとりを大切に、日々の成長を楽しみ、保護者と共有する」ことを基盤にしました。昨年度より作成した中期計画にも盛り込み、2012年度の重点課題を示していきます。

保育方針

法人の理念、保育事業目標に基づき、上記を基に以下のように方針を明記しました。

「日々限りなく豊かに伸びていく子ども達の力を信じて保育に取り組みます。

保護者とともに安全・安心を基盤に、子どもたちが健康で情緒の安定した生活がおくれるよう環境を整えます。

自己を十分に発揮しながら成長することのできる、やさしく温かい保育をめざします。」

保育目標

- ① ありのままの自分が受け入れられ、自己発揮でき、考えて行動できる子ども
- ② のびのびとしなやかに、自分のからだを動かして遊ぶ子ども
- ③ 基本的生活習慣が身につく、見通しをもってできることを自分でする子ども
- ④ さまざまな人との関わりを大切に、思いやりをもって共に生きる子ども
- ⑤ 自然や命あるものとの出会いを大切に、豊かに感じとり表現する子ども

2012年度 重点課題

- I、保育方針に沿い、子どもの姿を丁寧に把握し、養護の観点から子どもの気持ちを汲みとり、適切な支援を行っていく。
～個及びグループ・集団の成長・発達に応じた、環境設定、遊びの実践、生活習慣確立の援助を充実させる。子どもたちの「やりたい」「やってみたい」気持ちに沿った「満足」できる充実した時間を持つ保育を行う。
- II、子どもを中心に、園や家庭で子ども達が愛着関係を持ち、情緒の安定が図れるよう、日々の保育の共有を基に保護者との連携を強める。
～長時間保育の子どもが多く、連絡帳に頼りがちであるが、朝夕の送迎時など機会をみつけて、より保護者と子どもの情報を共有する中で信頼関係を築いていく。行事は、日常生活のメリハリやわかりやすい保育の姿の紹介・共有の大切な場としてとらえ、鳥山保育園に必要なものを見直していく。
- III、上記のことが実現できるよう、組織力の向上、業務の合理化を図り、日常業務の中に余裕をつくり保育内容の向上を目指す。
～会議・打ち合わせの内容や回数を見直す。全体職員会議を年3回、昼職員会議を定例にし、クラスの打ち合わせをしっかりと持つ。

中期計画（2011～2015年度）

子ども・子育て新システムなど保育の制度が大きく変わる。そのような時でも、選ばれ、ニーズにきちんと応える園であるために、以下のことに力をいれていきたい。

1. 現在行っている保育の土台を明確にし、継続できるよう「開かれた組織と一体感のある園運営」を目指す。

① 烏山保育園を利用する子どもの発達に即した保育内容を確立していきたい。養護と教育の視点を持ち、心の土台作りと日常を大切にした保育の実践を行なう。

② 「思いやりと誠実さ」をもった職場の人材育成と組織作りに取り組む。

ステップ1～職員間で目標を共有すること、報告・連絡・相談の徹底は行われている。その上で、園全体のことを考え、職員各自が積極的に協力体制をとっていく。

ステップ2～自分の役割を越え、チーム全体を視野に入れ、園の運営が促進するような行動をとれる。

ステップ3～他者の発想に自己の考えをさりげなく伝える。自己の着想に他者の助言を取り入れる。

ステップ2の途中まで達成していると感じる。段階を追ってすすめたい。

2. 時代やニーズに沿った、園運営を目指す。

① 保育の柱を以下の4本柱とし、園の特色を打ち出していく。

総合課題～生活力を身につけ、豊かな経験をつむ中で、自分を発揮する～

乳児保育 ・ひとり一人を大切にした保育を基盤とした、生活の流れをつくる。

- ・安心安全な中で、子どもが主体的に生活し、遊べる環境を目指す。
- ・子どもの気持ちを汲み取る力を養い、記録により保育の振り返りを行う。

幼児保育 ・発達に即した遊びの提供、課題活動（音楽、絵画など）の充実。

- ・自律した生活力を身につけることを目指し、生活習慣の見直しをする。
- ・上記のねらいを達成できるように、環境の見直しを続ける。
- ・子どもをよく観察し、自己の保育を振り返り、チームで検討していく。

特別保育 夜10時過ぎまで、361日あいている保育園として、利用者や地域のニーズに応え、子ども達とその家族の、幸せの一助となるような働きを目指す。

食育活動 長時間保育の子どもが多く、子どもにも保護者へも生活力の育成が必要である。

そこで、以下の事柄にわたり、保育と調理で協力し深めていきたい。

園内での食事提供

畑活動を含めたクッキング保育

保健指導と連携した食育指導

発達に即した食事指導など

食材の放射能汚染への対応に万全を期していく。

②予算の適正な使用と方針に沿った園運営に必要な人材配置を目指していく。

経験者と新人職員のバランス、常勤者の中の非正規雇用者のバランスを、烏山保育園の特性と照らし合わせて考えていく。

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・ 0歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：13名）
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育事業（4時間延長）
- ・ 休日保育
- ・ 障害児保育事業実施（1名）
- ・ アレルギー児に対する除去食及び代替食実施
- ・ 育児困難家庭受け入れ（2家庭2名）

イ 地域子育て推進

- ・ 退所児童との交流
- ・ 中高生の育児体験受入れ
- ・ 保育所体験（パートナー登録）
- ・ 地域交流、出前保育
- ・ 年末保育 12/29、30実施予定

(2) 児童の処遇

ア クラス編成 認可定員 116名（現員 119名）

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障害児数	育児困難家庭	備考
ひよこ組	0歳	5名	13名			*看護師
ちょうちょ組	1歳	4名	19名		1名	
うさぎ組	2歳	4名	21名			
たんぽぽ組	3歳	2名	22名			
やま組	4歳	2名	22名		1名	
ひ組	5歳	2名	22名	1名		
つき・ほし組	全	2名	登録56名			
にじ組	全	2名	1日10名			
	その他	2名				主任・副主任
合計		25名	119名			

イ 月別保育予定日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 361日
30日	31日	30日	31日	31日	30日	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
31日	30日	30日	28日	28日	31日	

ウ 健康管理

○心身ともに健やかで元気な子どもになる。

○自分の身体も、友達の身体も大切に思えるような、関わりをする。

健康診断

乳児 毎月 1回

幼児 年3回（5月、プール前、10月）

歯科検診 年1回（6月）

蟯虫卵検査 年1回（6月）

耳鼻科健診 9月

保健指導

エ 保 育

【幼児の保育目標】

基本的な生活習慣を身につけ、主体的に生活を営み、友達と遊ぶことを楽しむ。

その中で、異年齢との関わり喜び、楽しさを感じる。

発達に即した遊びの提供、課題活動（音楽、絵画など）の充実を図る。

ひ組（5歳児）の年間目標

○相手の話をきき、自分の思いも相手に伝え、コミュニケーション力の基礎を養う。

○自分の得意なものを見つけ、自信につなげる機会を多く持ち、自己肯定感を育てる。

①・様々な活動に取り組み、仲間に認められることによって自信を得、自己発揮する。

②・様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して体を動かすことを楽しみ、新しい体験にチャレンジする。

③・健康、安全に必要な基本的な習慣や自主・自律の態度を身につけ、理解して行動する。

④・様々な事物や事象と自分たちの生活との関係に気づき、それらを生活や遊びに取り入れ、生活の経験を広げる。

・異年齢や様々な人とかかわる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようにする。

・人の話をよく聞き、自分で考え、自分の意見を相手あるいは集団の中に伝えられるようになる。

⑤・自分のもつ好奇心や知的探求心を動かせることにより、考える力が育ち、表現力が豊かになり感じたことや思ったこと、想像したことなどを自由に工夫して表現する。

やま組（4歳児）の年間目標

- 自分の思いを言葉で伝える力や、相手の話を聞く力を身に付ける機会を多く経験する。
- ルールのある集団遊びを通し、一人ひとりの力を充実させ、仲間関係を作る。
 - ①・一人ひとりの子どもの要求を十分に満たし、情緒の安定を図る。
 - ②・友達と遊ぶことの喜びや楽しさを感じ、集団で活動することを楽しむ。
 - ・意欲的にいろいろなことに挑戦し、体を動かして遊ぶことを楽しむ。
 - ③・健康、安全などの生活がわかり基本的な習慣を次第に身につける。
 - ④・人に話を聞いたり、自分の経験したことや思っていることを話したりして、言葉で伝えることを楽しむ。
 - ⑤・自然や身近の事がらにふれ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、そのことを表現しようとする。

たんぼぼ組（3歳児）の年間目標

- 基本的生活習慣が身に付くよう、丁寧に関わる。
- 遊びを通して、友達との関わりが深まるよう、人的物的環境を整える。
 - ①・生活が自立してくることで自信をもち、自分のやりたいことが実現できるようになる。
 - ②・外遊びを十分にするなど遊びの中で体を動かす楽しむ。
 - ③・食事、排泄、睡眠、衣服の着脱等の生活に必要な基本的な習慣が身につくようにする。
 - ④・自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、一緒に遊ぶ喜びを知る。
 - ⑤・様々なものを見たり触れたりして、面白さ・美しさなどに気づき感性を豊かにしていく。

【乳児の保育目標】

ひとり一人を大切にした保育を見直し、確立していく。

着脱、排泄、食事などの、0～2歳児の年間カリキュラムの流れを見直し、整えていく。

うさぎ組（2歳児）の年間目標

- 自己主張を受け止め、安心して気持ちが出せるようにしていく。
- 徐々に自分の気持ちを切り替えられるよう援助していく。
 - ①・たくさんの自己主張や思いの表れを大人に受け止めてもらうことで、安心して気持ちを出せるようになる。
 - ②・体を動かすことが楽しくなり、いっぱい遊ぶ。
 - ③・簡単な身の回りの活動を自分でしようとする。
 - ④・保育士を仲立ちとして生活や遊びの中で、ごっこ遊びや言葉のやりとりを楽しむ。
 - ⑤・大人やまわりのことに興味をもち、みため・つもり遊びを通してイメージを豊かに広げていく。

ちょうちょ組（1歳児）の年間目標

- 自我を受け止め、丁寧に対応することで、安心してきもちが出せ、身の回りのことに意欲が出るようにしていく。
- 大人との信頼関係のもとに、他の世界へも興味を広げていけるよう、人的物的環境設定に

努める。

- ①・一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。
- ②・保育士にも見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分に行い体を動かすことを楽しむ。
- ③・安心できる大人に見守られる中で、食事、排泄等を自分でしようとする気持ちが芽生える。
- ④・安心できる大人に見守られ中で、他の子どもにも関心をもち、関わろうとする。
- ⑤・身のまわりの様々なものを見たり、いじったり、身のまわりの自然や事象に対する好奇心や関心をもち。

ひよこ組（0歳児）の年間目標

- 一人ひとりの気持ちを大切に受け止め、安定した大人との関係を基地に、安心して園生活を送れるように配慮する。子どもの気持ちを大事に受けとめ、ひとり一人が無理なく園のリズムに慣れる。
- いろいろな経験や人との関わりを通して、心身共にのびのびと個性豊かに育つよう援助する。
 - ①・一人ひとりの子どもの甘えなどの依存的欲求を満たし、情緒の安定を図る。
 - ②・安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を整えたり、移動したりして、いろいろな身体活動を十分に行う。
 - ③・保健的で安全な環境をつくり、常に身体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め快適な生活ができるようにする。
 - ・一人ひとりの子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。
 - ・個人差に応じて離乳を勧め、いろいろな食品に慣れ幼児食への移行を図る。
 - ④・優しく語りかけたり、発声や喃語に应答し、発語の意欲を育てる。
 - ⑤・聞く、見る、触れるなどの経験を通して、感覚や手指の機能の発達を促す。
 - ・安心できる人的物的環境のもとで絵本や玩具、身近な生活用具などを、見たり、触れたりする機会を通して、身の回りのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。

つき・ほし組（延長）の年間目標

- 家庭的で落ち着いた雰囲気の中で、自己を発揮し、生活を楽しむ力を養う。
- 個別の配慮をすると共に、日中の保育とのバランスを考え、保護者と連携を深める。

にじ組（休日）の年間目標

- 0～5歳児の異年齢児が10名というアットホームな環境の中で、安心できる大人と共に、他児に興味をもち、楽しく過ごす。
- 単発または継続利用するそれぞれの子どもの欲求や情緒の安定を図りながら、無理なく安全に生活をする。

【行事】

公立時代から踏襲してきた行事を見直し、日々の成長を楽しみ、保護者と共有するために必要な機

会としてとらえ、それぞれのねらいを確認しながら進める。

<行事予定>

- 4月 入園式 (8万円)
- 5月 保護者会
- 6月 5歳児バス遠足 (12万円)
- 7月 夏祭り (10万円)
年長児宿泊保育 (8万円)
- 8月 プール遊び (5万円)
- 9月 水遊び (3万円)
お月見 (1万円)
敬老会 (ほのぼの) 会 (5万円)
- 10月 運動会 (15万円)
- 11月 3, 4歳児バス遠足 (14万円)
収穫祭 (豚汁会) (5万円)
- 12月 生活発表会 (10万円)
クリスマス会 (5万円)
- 1月 餅つき (2万円)
- 2月 節分 (1万円)
保護者会
- 3月 ひなまつり (1万円)
卒園式・卒園を祝う会 (30万円)
5歳児お別れバス遠足 (15万円)
- 通年行事 誕生会 (10万円)
ひまわりタイム (異年齢交流) (5万円)
卒園生の会 年6回 (8万円)

オ 栄養管理

○保育園として一貫性のある、食育のねらいを共有し、基盤作りに力をいれる。

○0～1才児の月齢にあった食事の提供を確立する。

集団給食施設栄養報告 年 2 回

栄養のバランスを考えた献立表を作成

季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成

保育と連携した食育活動の推進、園内外の畑など (10万)

給食供給者としての諸管理

食材の放射能汚染への対応に万全を期していく。

カ 安全管理

非常災害時の避難訓練

引き渡し訓練の実施 (9月)

(3) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任	1名
副主任保育士	1名
幼児リーダー保育士	1名
乳児リーダー保育士	1名
保育士	21名（再雇用嘱託職員1名、男性職員8名）
栄養士	3名
看護師	1名
保育パート職員	9名
調理パート職員	5名
見回り、用務	3名（シルバー人材センター）
嘱託医	1名（非常勤）
音楽講師	1名（非常勤）

イ 健康管理

○職員の働く環境の向上のため、看護師の衛生管理者の資格取得を目指す。

健康診断 年 1 回

細菌検査 年 1 2 回（全職員及びパート職員毎月1回）

ウ 会議

・職員会議	毎月 1 回
・運営会議1（園長、主任、副主任）	毎月 2 回
・運営会議2（上記+幼児・乳児リーダー）	毎月 2 回
・幼児カリキュラム打ち合わせ	毎月 1 回
・乳児カリキュラム打ち合わせ	毎月 1 回
・幼児打ち合わせ	毎月 2 回
・乳児打ち合わせ	毎月 2 回
・保育振り返り	年 2 回
・新年度打ち合わせ	年 1 回

エ 研修計画（研修費用）

- ・園内研修（15万円）
- ・法人内研修（40万円）
- ・都私立保育園連盟研修（10万円）
- ・都社会福祉協議会研修（5万円）

- ・その他の研修 (20万円)

オ 退職・福利厚生

- 社会福祉・医療機構 退職共済制度加入
- 東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入
- 福利厚生倶楽部加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務、・実費徴収事務
- ・労務管理（出勤管理、有給休暇管理 等）

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・保育指導計画等の作成
- ・給食献立表等の作成
- ・健康診断記録表等の作成

(2) 設備・修繕関係

ア 室内及び固定遊具の設備点検（40万）

イ 砂場入れ替え、消毒（10万）

ウ 布団乾燥、クリーニング、ワックス

エ 幼児トイレ1台和式から洋式へ

職員トイレ1台和式から洋式へ（90万）

(3) 備品関係

ア 備品購入予定（購入予定費用）

親父の会（5万円）

イ 保育用品購入予定（購入予定費用）

玩具（30万）

乳児用肋木（50万）

テント（30万）

ウ 給食用品購入予定（購入予定費用）

食器類（18万）

エ 固定資産物品購入予定（購入予定費用）

本棚、収納棚（80万）

避難用乳母車（15万）

オ リース関係

食器乾燥庫1台

(4) 災害対策

ア 避難訓練

年主題「協働する」 一法人事業理念 保育理念にそって一

今年度は創立60周年を迎える。日常の保育をじっくりと捉えなおし、職員と共に初心に帰ってこの地に必要とされる保育園としてあり続けてきたことを振りかえりたい。東日本大震災を経て、子どもの命を守り育てることが保育園の第一の目的であることが再確認され、危機管理はまさに最優先課題である。子どもをめぐる園内外での危機管理体制を整備し、地震対策や放射能によるリスクの軽減も引き続き行っていく。園舎改築後3年がたち、室内の家具、門扉や園庭など修繕が必要な箇所もでてきた。優先順位を決めて取り組んでいく。

創立60周年では、すこし大きな同窓会のように卒園児や元職員など保育園に親しんできた方や地域の方々を招いて、思い出会のような記念の会をもちたい。

保育方針 「神と人から愛されかけがえのない存在であることを知る」

「一人ひとりを大切にする」

保育目標 神と人から愛されていることを知り、自分やまわりの人を大切にする子ども

- 1、ありのままの自分が受け入れられ、自己発揮でき、考えて行動できる子ども
- 2、のびのびとしなやかに、からだを動かして遊ぶ子ども
- 3、基本的な生活習慣が身につく、見通しをもってできることを自分でする子ども
- 4、さまざまな人との関わりを大切にし、思いやりをもって共に生きる子ども
- 5、自然や命あるものとの出会いを大切にし、豊かに感じとり表現する子ども

配慮点

- *誰もが神と人から愛され、かけがえのない存在であることを知るように保育する。
- *子ども達一人ひとりの個性や権利を尊重して保育する。
- *保護者が安心して働くことができ、子ども達が心身共に健やかに育つよう保育する。
- *保護者と共に、地域との交流をもって子育てを援助する。

事業の内容と展開

1 非定型一時保育の満1歳児の受け入れ

今までは年度途中で1歳になっても4月当初が0歳児クラスである場合は登録もできなかったが、地域の要望に応じて、1歳を過ぎていれば受け入れていく（1歳児の人数は制限する）

2 職員研修

外部の講師に依頼せず、職員の中から出てきた課題を元に園内研修を進めていく。また会議の持ち方を検討し、じっくり話し合う時間を保障していく。

3 子育てひろばの充実

3階多目的室を有効活用して、オープンスペースの充実、リフレッシュ講座の内容を利用者の要望に応える形で柔軟に開いていく。また、日常の保育園行事にも参加を促していく。

4 創立60周年記念会にむけて

準備委員会を立ち上げて計画的に無理のないようにすすめていく。
記念に残るものを作成する。

施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・ 零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：12名）
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育実施（2時間延長）
- ・ 障碍児保育事業実施
- ・ アレルギー児に対する除去食及び代替食実施
- ・ 非定型一時保育（4時間を超える）実施

イ 地域子育て推進

- ・ 育児講座 年6回実施予定
- ・ お年寄りとの交流 年10回実施予定
- ・ 退所児童との交流 年6回実施予定
- ・ 中高生の育児体験受入れ 年間随時受入れ予定
- ・ 育児相談 随時実施
- ・ 保育所体験 毎週水・金受入れ実施予定
- ・ 子育てサークル支援 年6回実施予定
- ・ 子育て情報誌の発行 年12回発行予定
- ・ 外国人児童受入れ（4名受入れ在籍）
- ・ 年末保育 12/29～12/30実施予定
- ・ 育児困難家庭への支援
- ・ 出前保育 年6回実施予定

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障碍児数	備考
ひよこ	0歳	4	12		看護師1
りす	1歳	4	19		保育補助1
うさぎ	2歳	3	19		保育補助1

こぐま	3歳	2	20		
ぱんだ	4歳	1	20		幼児保育補助フリー2
きりん	5歳	1	20		
こあら	一時保育	1	10		保育補助2
合 計		16	110		

イ 月別保育予定日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 294日
24	24	26	25	27	23	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26	24	23	23	24	25	

ウ 健康管理

健康診断

乳児 毎月 1回 (0歳児クラス)

乳児・幼児 年2回 (5月、10月)

歯科検診 年2回 (5月、10月) 歯科指導 (年5回)

蟯虫卵検査 年2回 (5月、11月)

エ 保 育

各組の保育目標

きりん組 (5歳児) の年間目標

- ①様々な活動に取り組み、仲間に認められることによって自信を得、自己発揮する。
- ②様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して体を動かすことを楽しむ。
- ③健康、安全に必要な基本的な習慣や自主・自律の態度を身につけ、理解して行動する。
- ④様々な事物や事象と自分たちの生活との関係に気づき、それらを生活や遊びに取り入れ生活の経験を広げる。
異年齢や様々な人とかかわる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようにする。
人の話をよく聞き、自分で考え、自分の意見を相手あるいは集団の中に伝えられるようになる。
- ⑤自分のもつ好奇心や知的探究心を働かせることにより、考える力が育ち、表現力が豊かになり感じたことや思ったこと、想像したことなどを自由に工夫して表現する。

ぱんだ組 (4歳児) の年間目標

- ①一人ひとりの子どもの要求を十分に満たし、情緒の安定を図る。
- ②友達と遊ぶことの喜びや楽しさを感じ、体を動かして遊ぶことを楽しむ。
意欲的にいろいろなことに挑戦し、体を動かして遊ぶことを楽しむ。

- ③健康、安全などの生活がわかり基本的な習慣を次第に身につける。
- ④人の話を聞いたり、自分の経験したことや思っていることを話したりして、言葉で伝えることを楽しむ。
- ⑤自然や身近な事柄にふれ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、そのことを表現しようとする。

こぐま組（3歳児）の年間目標

- ①生活が自立してくることで自信をもち、自分のやりたいことが実現できるようになる。
- ②外あそびを十分にするなど遊びの中で身体を動かす楽しむ。
- ③食事・排泄・睡眠・衣服の着脱等の生活に必要な基本的な習慣が身につくようにする。
- ④自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、一緒に遊ぶ喜びを知る。
- ⑤様々なものを見たり触れたりして、面白さ・美しさなどに気づき感性を豊かにしていく。

うさぎ組（2歳児）の年間目標

- ①たくさんの自己主張や思いの表れを大人に受け止めてもらうことで、安心して気持ちをだせるとともに、自分の気持ちを切り替えられるようになる。
- ②身体を動かすことが楽しくなり、いっぱい遊ぶ。
- ③簡単な身の回りの活動を自分でしようとする。
- ④保育士を仲立ちとして生活や遊びの中で、ごっこ遊びや言葉のやりとりを楽しむ。
- ⑤大人やまわりのことに興味をもち、見立て・つもり遊びを通してイメージを豊かに広げていく。

りす組（1歳児）の年間目標

- ①一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。
- ②保育士に見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分に行い体を動かすことを楽しむ。
- ③安心できる保育士との関係のもとで、食事、排泄等を自分でしようとする気持ちが芽生える。
- ④安心できる大人に見守られる中で、他の子どもにも関心を持ち、関わろうとする。
- ⑤身のまわりの様々なものを見たり、いじったり、身のまわりの自然や事象に対する好奇心や関心をもつ。

ひよこ組（0歳児）の年間目標

- ①一人ひとりの子どもの甘えなどの依存欲求を満たし、情緒の安定を図る。
- ②安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を整えたり、移動したりして、いろいろな身体活動を十分に行う。
- ③保健的で安全な環境をつくり、常に身体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め快適な生活ができるようにする。

- ・一人ひとりの子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的要求を満たし、生命の保持と生活の安定を図り、甘えなどの依存的欲求を満たし、情緒の安定を図る。
- ・個人差に応じて離乳を進め、いろいろな食品に慣れて幼児食への移行を図る。

- ④優しく語りかけたり、発声やなん語に応答したりして、発語の意欲を育てる。
- ⑤聞く、見る、触れるなどの経験を通して、感覚や手指の機能の発達を促す。

安心できる人的物的環境の下で絵本や玩具、身近な生活用具などを、見たり、触ったりする機会を通して、身の回りのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。

こあら組（一時保育）の目標

- ①一人ひとりの子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。
- ②保育士に見守られながら、様々な生活や遊びを通して身体を動かすことを楽しむ。
- ③一人ひとりの家庭での生活リズムに考慮して、無理なく食事や午睡をする。
- ④安心できる大人の見守りの中で、他の子どもにも関心を持ち一緒に遊ぶ喜びを知る。
- ⑤身のまわりの様々なものを見たり、触れたりして、自然や事象に興味・関心をもつ。

主な行事予定	4月	入園式（10万円）
（行事費用）	5月	親子遠足（25万円）
	6月	こどもの日花の日（5千円）
	7月	夕涼み会（10万円）年長お泊まり保育（15万円）
	8月	小中学生キャンプ（70万円：内参加者負担金55万円） 中高生ボランティア受け入れ
	9月	祖父母会（2万円）
	10月	ファミリーデー（10万円）芋掘り遠足（18万円）
	11月	収穫感謝祭 創立60周年記念会（80万円）
	12月	クリスマス礼拝・祝会（30万円）
	1月	餅つき会（1万円）
	2月	お別れ遠足（6万円）
	3月	お別れ会、卒園式（20万円）
月例行事		誕生会（5万円）

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年4回

食事目標（ねらい） (配慮)

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 1. 食事を楽しく食べる。 2. 旬の食材を通して四季をしる。 | <ul style="list-style-type: none"> 1. 楽しい雰囲気の中で、保育士や好きな友達と一緒に楽しく食べる。 2. 安全性に配慮した旬の食材を取り入れ、季節に合った献立を立てる。 |
|--|---|

- | | |
|---------------|---|
| 3. 手作りの楽しさを知る | 3. 行事やクッキング保育を通して手作りの楽しさを伝える。 |
| 4. 食べる力をつける。 | 4. よく遊び運動することでお腹がすき、必要な食品や分量が食べられるようにする。（保育士との連携） |
| 5. 噛む力をつける。 | 5. 咀嚼して噛める食材を取り入れる。 |

※食材の放射能汚染への対応に万全を期していく。

カ 安全管理

- 非常災害時の避難訓練 毎月1回
- 引き渡し訓練の実施（9月）
- 上級救命救急講習会（2月）

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任	1名
副主任	1名
保育士	16名
調理員	2名（栄養士含む）
看護師	1名
嘱託医	2名（非常勤医師・歯科医師）
臨時職員、パート職員	18名

イ 健康管理

- 健康診断 年2回（5月、10月）
- 細菌検査 年12回
- 保健衛生費（7万円）

ウ 職員会議

- 定例会 毎月1回 乳児・幼児カリキュラム会 毎月1回
- 行事前打合せ会（随時）
- 期別反省会（年3回）年度末会議6回

エ 研修計画（研修費用）

- ・園内研修
- ・年齢別保育研修（10万円）
- ・法人内研修 階層別・職種別研修（10万円）

- ・私保連カウンセリング研修（35万円：江東区子育てひろば補助金）
- ・厚労省・江東区保育課・全国保育協議会・東京都社会福祉協議会・全国私保連東京私保連などによる研修（20万円）

オ 退職・福利厚生

- 社会福祉・医療機構 退職共済制度加入
- 東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入
- 福祉厚生倶楽部加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務、・実費徴収事務
- ・労務管理（出勤管理、有給休暇管理 等）

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・保育指導計画等の作成
- ・給食献立表等の作成
- ・健康診断記録表等の作成

(2) 設備関係

ア 固定遊具の設備点検（点検費用）

・

イ 設備の点検・修繕（点検・修繕費用）

- ・毎月の修繕費用（月3万円）
- ・園内消毒（10万円）
- ・ダスキンモップリース（月1万円）
- ・エレベーター定期点検（月3万5千円）
- ・グリストラップ定期清掃（8万円）
- ・布団だなの修理（50万円）
- ・布団クリーニング 年1回（30万円）

ウ 環境整備

- ・園庭整備のための工事（50万円）

(3) 備品関係

ア 備品購入予定（購入予定費用）

- ・事務用ノートパソコン（15万円）
- ・図書コーナーソファ（10万円）
- ・会議用長テーブル 2客（3万円）

イ 保育用品購入予定（購入予定費用）

- ・新年度準備（30万円）
- ・各クラス遊具（21万円）
- ・コーナー用ついで（10万円）

ウ 給食用品購入予定（購入予定費用）

エ 固定資産物品購入予定（購入予定費用）

(4) 災害対策

ア 避難訓練

毎月1回

避難降園訓練（引渡し訓練）年1回 不審者侵入想定訓練 年1回

水害避難訓練 年1回 大津波での避難場所として石黒製作所屋上を依頼

イ 防災設備の点検委託

年2回（内、届け出1回）

ウ 非常食糧の備蓄

- ・（120）×3食×（2日）分（アルファ米、水、缶入り味噌汁、乾パン）
- ・1年に1回 備蓄用食料を食べてみる。

エ 防犯対策

- ・年度初めや年末など、自転車整理に職員が交代で立つ。
- ・緊急時の家庭連絡法としての簡単メール（ジャクエツ）システムの活用。
- ・災害時優先電話（携帯電話・自園の電話）

3 地域社会との連携

- ・第五砂町小学校や近隣の小学校との交流、連携。特に五砂小の5年生と年長組との5・5交流を安定的にすすめていく。
- ・コーラスともしび（中高齢者コーラス活動）との交流、園行事の参加
- ・南砂、東陽、大島、深川北子ども家庭支援センター（みずべ）との連携。とくに南砂子ども家庭支援センターは地元でもあるので、出前保育をみずべで行わせてもらう。（1回程度）
- ・江東区内の中学、都立高校をはじめとする地元の中高生ボランティアや職業体験の受け入れを積極的にしていく。
- ・小学校とのつながりが義務化されてくるので保育要録等を通じて情報交換を行っていく。

記入者 酒井真理子

法人の事業基本理念、保育事業目標をいつも心にとめ、光の園保育学校が大切にしている「子どもたちの保育を通して、子ども達だけではなく親も家族も職員や地域もキリストの愛によって共に育ち合う保育」が日常の保育の中で実践できるようにしていく。2012年度は新しく担任となる職員も1人増えることもあり、職員一人一人が互いに支え合い、共にチームワークを意識し自覚しながら協働していくために更なる向上を目指していきたい。そのためには、それぞれの役割や連携をしっかりと行いながら、各委員会の動き、働きや機能を明確にして組織的に動くよう努力していく。

1. 今年度、新しい事業として、墨田区の要請を受けて、本園の近隣に「グループ型小規模保育事業」を立ち上げ開所する。
2. モラルサーベイの課題を職員間で共有し、職場環境や働き方を考え工夫し整えていく。
3. 昨年度受けた第三者評価の利用者アンケートを踏まえて、利用者にとっての最善の利益を探究する為に園内研修の中で、保育内容の検討、傾聴、受容、関わり方などを学ぶ。
4. 地域福祉を推進していく中で、衛生委員会を充実させ、産業医との定期的会議を深め職員の心身の健康管理に力を注いでいく。また、地域と共に情報を共有しそこから課題や協働できる事柄を見出し、点から線へそして面へと繋がりが地域と持てるように学びと実践を高めていく。
 【・衛生委員会 ・地域連絡懇談会 ・幼、小、中連絡協議会
 ・館運営委員会 ・みつばち園との連携など 】
5. 建物が老朽化してきていることもあり、今年度も清潔、安全面から園内環境の点検や補修を行っていくと共に、これからの事業展開等を見据えながら建物のことを考えていく。
6. 心理相談員から学び、気になる子どもたちの成長発達を見守り、支援しながら日々の統合保育の中で、共に育ち合える環境を築いていく。

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・ 零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：18名）
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育実施（2時間延長）
- ・ 延長保育事業（零歳児の受入れ）
- ・ 障害児保育事業実施
- ・ アレルギー児に対する除去食及び代替食実施

イ 地域子育て推進

- ・ 育児講座（調理講習会）年3回実施予定

- ・お年寄りとの交流 年26回実施予定
- ・退所児童との交流 年7回実施予定
- ・小中高生の育児体験受入れ 年10日間以上
- ・育児相談 随時実施
- ・保育所体験 年26回・370人受入れ実施予定
- ・調理講習会（離乳食・幼児食） 年3回
- ・外国籍児童の受入れ （2名受入れ在籍）
- ・出前保育 6回
- ・年末保育 12/29 実施予定（若干名地域の子どもを受け入れる）

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障害児数	備考
つぼみ組	0歳	6名	18名	0名	
もも組 さくら組	1歳	4名	24名	0名	
たんぼぼ組 すみれ組	2歳	4名	24名	0名	
ちゅうりっぷ 組	3歳	2名	28名	0名	気になる子 1名
ばら組	4歳	2名	28名	0名	気になる子 3名
ゆり組	5歳	2名	28名	0名	気になる子 2名
	その他				
合 計			150名	0名	

*気になる子とは、区が認める子で心理相談にかけられる対象児

イ 月別保育予定日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 295 日
24日	24日	26日	25日	27日	23日	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26日	24日	23日	25日	23日	25日	

ウ 健康管理

健康診断

乳児 毎月

幼児 年2回（5月、10月）

歯科検診 年2回（5月、10月）

蟻虫卵検査 年2回（6月、11月）

エ 保 育

保育目標（保育ブロック統一）

- 1 ありのままの自分が受け入れられ、自己発揮でき、考えて行動できる子ども
- 2 のびのびとしなやかに、体を動かして遊ぶ子ども
- 3 基本的生活習慣が身につき、見通しをもってできることを自分でする子ども
- 4 さまざまな人との関わりを大切にし、思いやりをもって共に生きる子ども
- 5 自然や命あるものとの出会いを大切にし、豊かに感じ取り表現する子ども

各クラスの保育目標

ゆり組（5歳児）の保育目標

- ・ 様々な活動に取り組み、仲間認められることによって自信を得、自己発揮する。
- ・ しなやかな体でのびのびと自分の体を動かして遊ぶ。
- ・ 人の話をよく聞き、自分で考え、自分の意見を相手あるいは集団の中に伝えられるようになる。
- ・ 友だちと同じ目的に向かって活動するようになり、自分のやらなければならないことや、必要性がわかってくる。
- ・ 異年齢や様々な子どもたちと関わる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようになる。
- ・ 友だちと共通のイメージを持って、自分たちの遊びをより楽しいものにしていく。
- ・ 自分の持つ好奇心や知的探究心を働かせることにより、考える力が育ち、表現力が豊かになり、感じたことや思ったこと、想像した事などを自由に工夫して表現する。

ばら組（4歳児）の年間目標

- ・ 友だちとの楽しい経験を重ねることで、自分の気持ちに気付き、行動しようとする。
- ・ 意欲的にいろいろなことに挑戦し、体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- ・ 人の話を聞いたり、自分の思っていることを話したりして、言葉で伝え合うことを楽しむ。
- ・ 友だちと遊ぶことの喜びや楽しさをお互いに感じ、一緒に遊ぶ中で他の子どもたちの考え方も受け入れようとする。
- ・ 異年齢の子どもにも関心を持ち、かかわりを広める。
- ・ 遊びの中から想像が豊かになり、それを表現する。
- ・ 自然の身近な事柄に触れ、驚いたり、感動したりして関心は深まる中で、その事を表現しようとする。

ちゅうりっぷ組（3歳児）の保育目標

- ・ 生活が自立してくることで自信を持ち、自分のやりたいことが実現できるようになる。
- ・ 色々な遊びを通して、体を動かして遊ぶことを喜ぶ。
- ・ 自分の思ったことや感じた事を言葉に表現し、保育者や友だちと遊ぶ中で言葉を楽しんで使

う。

- ・ 友だちの事がわかるようになり、助けてあげたり手伝ってあげるようになる。
- ・ 体験したことをもとに色々な事を発想して「ごっこ遊び」を作っていく。
- ・ 自然の中で身近な動植物に触れ合いたくさん遊ぶ。

すみれ、たんぼぼ組（2歳児）の保育目標

- ・ たくさんの自己主張や思いの表出を保育者に受けとめてもらうことで、安心して気持ちをだせるようになる。
- ・ 体を動かすことが楽しくなり、体をいっぱい動かして遊ぶ。
- ・ 保育者に助けてもらうことで、自分の気持ちを言葉で伝えようとし、思いがぶつかった時も、「どうしようかな」と少しずつ考えようとする。
- ・ 他の子どもたちと遊ぶことが楽しくなり、一緒に遊びたいと思う仲間ができてくる。
- ・ 保育者や周りのことに興味を持ち、みため、ふり遊びを通してイメージを豊かに広げていく。
- ・ 自然物や生き物を身近に感じ、喜んで触れ合う。

さくら、もも組（1歳児）の保育目標

- ・ 「ジブンノ」「ジブンノ」の主張に見られるような自我が芽生え、その表出を保育者に受けとめてもらうことにより安心して自分の思いをだす。
- ・ 歩くことを喜び、体が動くことを楽しむようになる。また、手指など自分の体を使って探索活動を十分に楽しむ。
- ・ 保育者と子どものゆったりした信頼関係の中で、言葉やしぐさが自分の思いを伝える。そして、その中で覚えた言葉を使うことを楽しむ。
- ・ 安心できる保育者に見守られる中で、他の子どもにも関心を持ち関わろうとする。
- ・ 身近な保育者の様子を真似しながら、みため、ふり遊びを楽しむ。
- ・ 身近な自然との触れ合いを十分に体験する。又、小動物に対する興味や関心が育つ。

つぼみ組（0歳児）の保育目標

- ・ 一人一人の子どもの甘えなどの依存欲求を満たし、情緒の安定を図る。また、一人ひとりの生活リズムを大切にして、食欲、睡眠、排泄などの整理欲求をもたし、生活の安定を図る。
- ・ 大好きな人や欲しいものに興味を示し、自分から近づいていこうと姿勢を変えたり、移動するなど体を十分に動かす。
- ・ 寝返り、おすわり、はいはい、伝い歩き、歩くなどそれぞれの状態のあった遊びを楽しむ。
- ・ 聞く、見る、握る、つまむ、たたく、ひっぱる、しゃぶるなどの遊びを楽しむ。
- ・ 嬉しい、悲しいなどの感情が育ち、泣く、笑う、表現、しぐさ、喃語、片言などで自分の気持ちを表す。
- ・ 保育者が歌う唄を喜んで聞いたり、手足や体を動かして楽しむ。また、保育者の動作を見て、真似をすることを喜ぶ。
- ・ 身近な自然との触れ合いを十分に体験する。

主な行事予定	4月	・入園式(10万円)	・家庭訪問
(行事費用)		・イースター(3万円)	
	5月	・4歳児、5歳児親子遠足(30万円)	・健康診断
	6月	・保育参加(幼児)	・幼児懇談会
		・プラネタリウム見学(4~5才児クラス)	・蟻虫卵検査
	7月	・お泊まり保育 年長組(30万円)	・プール開き(9万円)
		・年中お泊り保育(2万円)	・サマーキャンプ(10万円)
			(小学1・2・3年生)
	9月	・祖父母招待会(5才児クラス)	
	10月	・ファミリーデー(10万円)	・2歳児、3歳児親子遠足
		・芋堀遠足(5、4歳児クラス)(15万円)	・保育参加(乳児)
		・健康診断	・歯科検診
	11月	・バザー、子ども劇場(10万円)	・祝福式
		・料理パーティ	・収穫感謝祭
		・蟻虫卵検査	
	12月	・クリスマスお楽しみ会(5万円)	・1、2年生クリスマス(3万円)
		・餅つき(3万円)	・年末保育
			・6年生の会(1万円)
	2月	・お別れ食事会(5歳児クラス)	・保育参加、
		・お店やさんごっこ	・保護者懇談会
	3月	・卒園式(40万円)	・5歳児お別れ親子遠足(15万円)
月例行事		誕生会お花代(5万円)	

オ 栄養管理

- ・ 集団給食施設栄養報告 年 2回
- ・ 栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成
- ・ 季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成
- ・ アレルギー児への代替食
- ・ 給食供給者としての諸管理
- ・ 放射線量を把握し安全な産地、安全な食材を取り入れている。

カ 安全管理

- ・ 安全委員会を立ち上げ安全チェックリストを用いて環境の点検をする。(月1回)
- ・ 非常災害時の避難訓練 (月1回)
- ・ 引き渡し訓練の実施 (9月 1日)
- ・ 広域災害時に素早く確実に保護者に連絡をながすための訓練(かんたんメールを使用) 年1回

- ・ 防犯訓練 年1回
- ・ 交通安全教育 年1回

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任	1名
保育士	24名
調理員	3名(栄養士含む)
看護師	1名
嘱託医	2名(非常勤)
臨時職員、パート職員	24名

イ 健康管理

健康診断	職員	年1回
細菌検査		年6回
給食、0歳児調乳担当のみ		毎月1回

ウ 職員会議

定例会	毎月	1回
行事前打合せ会		(随時)
期別反省会		(年3回)
0才、乳児、幼児、各カリキュラム会議	毎月	1回
食事カリキュラム会議	毎月	1回

エ 研修計画(研修費用)

- ・ 園内研修 年7回(10万円)
- ・ 法人内研修(40万円)
- ・ 全国私立保育団体研修(東京私保連)(30万円)
- ・ 墨田区保育団体研修(5万円)
- ・ その他の研修(30万円)

オ 退職・福利厚生

社会福祉・医療機構	退職共済制度加入
東京都社会福祉協議会	従事者共済会加入
	福利厚生倶楽部加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・ 小口現金出納事務、・ 実費徴収事務
- ・ 労務管理(出勤管理、有給休暇管理 等)

- イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）
 - ・ 保育指導計画等の作成
 - ・ 給食献立表等の作成
 - ・ 健康診断記録表等の作成

- (2) 設備関係
 - ア 固定遊具の設備点検（点検費用） （100万円）

 - イ 老朽設備の点検、老朽箇所の更新（点検・更新費用）
 - ・ もも組 トイレ、手洗い （150万円）
 - ・ ネット整備 （50万円）
 - ウ 建物補修 （100万円）
 - ・

- (3) 備品関係
 - ア 備品購入予定（購入予定費用）
 - ・ IT環境のため （30万円）
 - ・ もちつきの杵 （20万円）
 - イ 保育用品購入予定（購入予定費用）
 - ・ 2時間延長保育実施にあたり玩具をそろえる （3万円）
 - ・ 分園地域活動用玩具をそろえる （2万円）
 - ・ 午睡用布団クリーニング （10万円）
 - エ 固定資産物品購入予定（購入予定費用）
なし

- (4) 災害対策
 - ア 避難訓練
毎月1回
 - イ 防災設備の点検委託
本園、分園 年2回（内、届け出1回）
 - ウ 非常食糧の備蓄
○（全園児数＋全職員数）×3食×3日分

- 3 地域社会との連携 （定期的に実施している）
 - ・ 地域連絡懇談会 （年2回）
 - ・ 幼、小、中連絡協議会 （年2回）
 - ・ みつばち園との連携 （随時）
 - ・ 東駒形教会、賀川記念館との連携
 - ・ 「どすこいくらぶ」のボランティアとの定期的な交流（墨田区在中のおじいちゃん）など
 - ・ ぶどうの会 （22回）おばあちゃんとの交流

- ・ 小学校とのつながりが義務化されてくるので保育要録等を通じて情報交換を行う。

4 人事採用他

異動職員 練馬光が丘第6保育園へ保育士2名・・・2011年12月から
異動職員 押上保育園から・・・保育士1名（正職）・・・2011年12月から
採用 保育士1名・・・・（正職）

5 その他

2012年度は新人採用はないが法人内異動や学童保育との配置換えがあり、新しい体制で役割分担をしながら仕事を進めていく。法人理念、保育目標を念頭におき、学童保育、一時保育、各事業との連携を取りつつ、地域のニーズに応える保育を展開していく。

また、園舎は修理やメンテナンスの必要箇所が増えてきている。今後、予想される地震に対する備えをしながら、将来的な建て替えに向けて、隣接する堀切教会と話し合いをすすめていく。教会の方々とも協働しながら、地域の子育て支援の拠点として子どもたちの育ちを支えていきたい。

今年度の課題

子どもたちの心身共に豊かな育ちを支援できているか、保護者に寄り添う支援ができているか、職員同士支えあう職場が形成できているか、この三つの視点を土台に据えながら下記の課題に取り組んでいく。

- ① 日々の保育の見直し、園内研修、SDSなどを通して園全体の保育を見直し、職員の育成、保育の質の向上を図る。
- ② 保育園と学童保育が職務の援助をしあい、連携をしっかりととっていく。
- ③ 地域活動の目的をしっかりととらえ、地域のニーズに応える活動を行う。
～出産を迎える親の体験学習の開始～
- ④ 防災の備えを整え、安全な環境づくりを行う。

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・ 零歳児保育特別対策事業実施（零歳児人員：10名）
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育実施（1時間延長）
- ・ 延長保育事業
- ・ 障害児保育事業実施
- ・ アレルギー児に対する除去食及び代替食実施
- ・ 一時保育事業

イ 地域子育て推進

- ・ お年寄りとの交流 年10回
- ・ 小学生との交流 年6回
- ・ 小中高生の育児体験受入れ 年10日間
- ・ 子育て情報誌の発行 年10回発行予定
- ・ 年末保育 12/29 実施予定
- ・ 出前保育 年6回

- ・子育て講座 年6回
- ・出産を迎える親の体験学習 年6回
- ・家庭で子育てをおこなっている保護者との連携 年10回

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障碍児数	備考
ひよこ	0歳	3	10		
うさぎ	1歳	3	15		
こあら	2歳	3	18		
ひつじ	3歳	2	19		
ぱんだ	4歳	1	19		
きりん	5歳	1	16	1	
一時保育		2	10/日		
合計		15	100		

イ 月別保育予定日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計 294 日
24	24	26	25	27	23	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26	24	24	23	23	25	

ウ 健康管理

健康診断

- 乳児 (0歳児) 毎月
- 0歳以外の乳幼児 年2回 (5月、11月)
- 歯科検診 年2回 (6月、11月)
- 蟯虫卵検査 年1回 (6月)

エ 保 育

保育目標 (保育ブロック統一)

- 1 ありのままの自分が受け入れられ、自己発揮でき、考えて行動できる子ども
- 2 のびのびとしなやかに、体を動かして遊ぶ子ども
- 3 基本的な生活習慣が身につく、見通しをもってできることを自分でする子ども
- 4 さまざまな人との関わりを大切に、思いやりをもって共に生きる子ども
- 5 自然や命あるものとの出会いを大切に、豊かに感じ取り表現する子ども

各組の保育目標

きりん組（5歳児）の年間目標

- ・様々な活動に取り組み、仲間に認められることによって自信を得、自己発揮する。
- ・様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して体を動かすことを楽しみ、新しい体験にチャレンジする。
- ・健康、安全に必要な基本的な習慣や自主・自律の態度を身につけ、理解して行動する。
- ・様々な事物や事象と自分たちの生活との関係に気づき、それらを生活や遊びに取り入れ、生活の経験を広げる。
- ・異年齢や様々な人と関わるなかでそれぞれの違いを認め合っていけるようにする。
- ・人の話をよく聞き、自分で考え、自分の意見を相手あるいは集団の中に伝えられるようになる。
- ・自分のもつ好奇心や知的探究心を働かせることにより、考える力が育ち、表現力が豊かになり感じたことや思ったこと、想像したことなどを自由に工夫して表現する。

ぱんだ組（4歳児）の年間目標

- ・ひとり一人の子どもの要求を十分に満たし、情緒の安定を図る。
- ・友だちと遊ぶことの喜びや楽しさを感じ、集団で活動することを楽しむ。
- ・意欲的にいろいろなことに挑戦し、体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- ・健康、安全などの生活がわかり基本的な習慣を次第に身につける。
- ・人の話を聞いたり、自分の経験したことや思っていることを話したりして、言葉で伝えることを楽しむ。
- ・自然や身近な事柄にふれ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、そのことを表現しようとする。

ひつじ組（3歳児）の年間目標

- ・生活が自立してくることで自信を持ち、自分のやりたいことが実現できるようになる。
- ・外遊びを十分にするなど遊びの中で身体を動かす楽しさを知る。
- ・食事、排泄、睡眠、衣服の着脱等の生活に必要な基本的な習慣が身につくようにする。
- ・自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、一緒に遊ぶ喜びを知る。
- ・様々なものを見たり触れたりして、面白さ、美しさなどに気づき感性を豊かにしていく。

こあら組（2歳児）の年間目標

- ・たくさんの自己主張や思いの表れを大人に受け止めてもらうことで、安心して気持ちを出せるようになる。
- ・身体を動かすことが楽しくなり、いっぱい遊ぶ。
- ・簡単な身の回りの活動を自分でしようとする。
- ・保育士を仲立ちとして生活や遊びの中で、ごっこ遊びや言葉のやりとりを楽しむ。
- ・大人やまわりのことに興味を持ち、みたて、つもり遊びを通してイメージを豊かに広げていく。

うさぎ組（1歳児）の年間目標

- ・ひとり一人の子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。
- ・保育士に見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分に行い、身体を動かすことを楽しむ。

- ・安心できる保育士との関係のもとで、食事、排泄等を自分でしようとする気持ちが芽生える。
- ・安心できる大人に見守られる中で、他の子どもにも関心を持ち、関わろうとする。
- ・身のまわりの様々なものを見たり触れたりし、自然や事象に対する好奇心や関心をもつ。

ひよこ組（0歳児）の年間目標

- ・ひとり一人の甘えなどの依存的欲求を満たし、情緒の安定を図る。
- ・安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を整えたり移動したりして、いろいろな身体活動を十分に行う。
- ・保健的で安全な環境をつくり、常に身体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め快適な生活ができるようにする。
- ・ひとり一人の子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。
- ・個人差に応じて離乳を進め、いろいろな食品に慣れ、幼児食への移行を図る。
- ・優しく語りかけたり、発声や喃語に応答し、発語の意欲を育てる。
- ・聞く、見る、触れるなどの経験を通して、感覚や手指の機能の発達を促す。
- ・安心できる人的、物的環境のもとで絵本や玩具、身近な生活用具などを見たり、触れたりする機会を通して、身のまわりのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。

こぶた組（一時保育）の年間目標

- ・ひとり一人の子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。
- ・保育士に見守られながら、様々な生活、遊びを通して探索活動を十分に行い、身体を動かすことを楽しむ。
- ・安心できる大人に見守られる中で他の子に関心を持ち、関わろうとする。
- ・身のまわりの自然や事象に関心を持つ。

主な行事予定	4月	入園式（2万円）・イースター礼拝（3万円）
（行事費用）	5月	ファミリーデー（1万円）
	6月	こどもの日花の日礼拝・訪問（3万円）
	7月	宿泊保育（年長児）（13万円）・新1年生の会（3万円）
	9月	おじいちゃん・おばあちゃん遊ぼう会（5万円）
	10月	運動会（15万円）・いもほり遠足（3～5歳児）（15万円）
	11月	おまつり広場（13万円） 収穫感謝祭礼拝・訪問（2万円）
	12月	クリスマス・一時保育クリスマス（20万円）
	1月	餅つき（3万円）
	3月	お別れ遠足（13万円）・卒園式（13万円）
月例行事		誕生会・身体測定

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年 2 回

栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成

季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成
 給食供給者としての諸管理・食育の指導
 アレルギー対応食実施
 食材の放射能汚染への対応に万全を期していく。

カ 安全管理

安全点検（毎月1日）
 非常災害時の避難訓練（月1回）
 引き渡し訓練の実施・かんたんメール配信（9月1日）

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任	1名
保育士	18名
調理員	2名（栄養士含む）
看護師	1名
嘱託医	1名（非常勤）
パート職員	18名

イ 健康管理

健康診断 年 1 回
 細菌検査 毎月（全職員）

ウ 職員会議

定例会 毎月 1 回
 乳幼児カリキュラム会議 月 1 回 乳幼児打合せ 月 2 回
 行事前打合せ会（随時）
 期別反省会（年 2 回）

エ 研修計画（研修費用）

- ・園内研修（20万円）
- ・法人内研修
- ・葛飾区・東京都・全国私立保育園連盟・厚生労働省・その他（50万円）

オ 退職・福利厚生

社会福祉・医療機構 退職共済制度加入
 東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入

福利厚生倶楽部加入

カ 「マタニティヨガ」「親子リトミック」「ファミリーコンサート」「和太鼓演奏
「手芸」「離乳食」など地域活動 (30万円)

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務、・実費徴収事務
- ・労務管理（出勤管理、有給休暇管理 等）

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・保育指導計画等の作成
- ・給食献立表等の作成
- ・健康診断記録表等の作成

(2) 設備関係

ア 固定遊具の設備点検（点検費用） 20万円

イ 老朽設備の点検、老朽箇所の更新（点検・更新費用） 100万円

ウ 保育室ワックスがけ 15万円

(3) 備品関係

ア 備品購入予定（購入予定費用）

50万円

イ 保育用品購入予定（購入予定費用）

50万円

ウ 給食用品購入予定（購入予定費用）

30万円

エ 固定資産物品購入予定（購入予定費用）

- ・ボイラー取り換え 90万円
- ・倉庫 20万円
- ・エアコン 50万円

(4) 災害対策

ア 避難訓練

毎月1回

イ 防災設備の点検委託

年2回（内、届け出1回）

ウ 非常食糧の備蓄

○（全園児数＋全職員数）×3食×（1日～3日）分
20万円

3 地域社会との連携

- ・おまつり広場・もちつき・一時保育・お楽しみ会・出前保育・子育て講座などの地域活動の実施
- ・区立小菅東保育園との交流（年3回）
- ・高齢者施設訪問（年2回）
- ・京南町会との連携：お祭り（9月）ロードレース（11月）もちつき会（12月）
- ・堀切教会との連携：職員交流会・収穫感謝祭豚汁パーティー・アドベント礼拝・もちつき教会との連絡会（毎月1回）
- ・小学校とのつながりが義務化されてくるので保育要録等を通じて情報交換を行う。

4 その他

記入者 土屋 恵子

事業の内容と展開

2012年度の入園申込状況は、第一次募集で概ね定員を満たしている。今後、二次募集があるので、定員を超えると予測している。前年度は、現況のクラス定員を重視したため、結局希望者が他の保育園に移る事となってしまった。今年度は、希望者をなるべく受け入れ、それに伴う職員体制などはその後整備をしていきたい。これは経営の安定を図る上で、必要な事だと思う。

子ども達が安心して安全に生活できるよう、十分な配慮をするとともに、集団生活を通じて社会性をはぐくむ為様々な活動を展開する。日本の伝統文化であるお茶のお点前（21年間実施中）や、元保護者（英語のネイティブスピーカー）の協力を得て、英語で歌ったり遊んだり、また男性の指導者による「体育あそび」も引き続き実施していく。これらの事業は、いずれも保護者から高い評価を得ている。

また、地域の子育て支援センターでは、利用者が再び増加傾向にある。これは、市が新たに中央施設を建設し利用者が移行したが、その後、当施設の支援内容や職員の対応が評価されたため、増加したと考えている。一昨年より地区の地域福祉と連携をしながら出張型の支援活動をはじめている。今後もより積極的に地区に出かけ、支援活動を充実させていく。

そして、これらの仕事をしていく為にもっとも基本となる「神と人にとに仕える仕事」をするため、御殿場教会中島牧師を招いて、賀川豊彦の思想実践（キリスト精神）を学んでいく。

1. 3歳未満児の希望者が多くなっている。この要望に応える為、本年度は、受け入れ態勢を強化し、保育の質と量を確保する。
2. 一時預かり事業は、集団保育の利点を生かす為、各クラスにて対応する。
3. 様々な文化に親しむ為、お茶のお点前を引き続き実施するとともに、元保護者（ネイティブスピーカー）の協力を得て「英語で遊ぼう」並びに、「体育あそび」も実施する。
4. 子育て支援センターでは、体験保育・子育て講座・年齢別クラブ等を実施するとともに、妊婦を対象とした「ママの会」を実施する。また、地域と連携を密にして、引き続き2地区にて出前保育を行う。
5. 御殿場教会中島牧師を招いて、「神と人にとに仕える仕事」をする為、賀川豊彦の思想と実践（キリスト精神）を学んでいく。

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・産休明け保育実施
- ・延長保育実施（1時間延長）
- ・乳児保育促進保育事業（零歳児の受入れ）
- ・一時預かり事業
- ・アレルギー児に対する除去食及び代替食実施

イ 地域子育て支援の推進

- ・子育て講座 年5回実施予定
- ・地域のお年寄りとの交流 年4回実施予定
- ・退所児童との交流 年4回実施予定
- ・小中高生の育児体験受入れ 年間約120名受入れ予定
- ・育児相談 随時実施
- ・保育所体験 年6回・18人受入れ実施予定
- ・子育てサークル支援 1才児クラブ14回、2才児クラブ14回
- ・子育て情報誌の発行 年12回発行予定
- ・外国人児童受入れ (3名受入れ在籍)
- ・出前保育 (36回)

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障害児数	備考
ちゅうりっぷ	0歳	3	9		
たんぽぽ	1歳	7	20		
ひまわり2クラス	2歳		18		
もも	3歳	2	26		
すみれ	4歳	1	30		
ゆり	5歳	1	24		
	その他	6			子育て支援・延長保育・一時預かり・フリー
合計		20	127		

イ 月別保育予定日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計 293日
24	24	26	25	27	23	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26	24	23	23	23	25	

ウ 健康管理

健康診断

- 乳児 年2回 (5月、10月)
- 幼児 年2回 (5月、10月)
- 歯科検診 年1回 (5月)
- 蟻虫卵検査 年1回 (6月)

エ 保育

保育目標 (保育ブロック統一)

- 1 ありのままの自分が受け入れられ、自己発揮でき、考えて行動できる子ども
- 2 のびのびとしなやかに、体を動かして遊ぶ子ども

- 3 基本的な生活習慣が身につく、見通しをもってできることを自分でする子ども
- 4 さまざまな人との関わりを大切に、思いやりをもって共に生きる子ども
- 5 自然や命あるものとの出会いを大切に、豊かに感じ取り表現する子ども

各組の保育目標

ゆり組（5歳児）の年間目標

- ① 様々な活動に取り組み、仲間認められることによって自信を得、自己発揮する。
- ② 様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して体を動かすことを楽しみ、新しい体験にチャレンジする。
- ③ 健康、安全に必要な基本的な習慣や自主・自律の態度を身につけ、理解して行動する。
- ④ 様々な事物や事象と自分たちの生活との関係に気づき、それらを生活や遊びに取り入れ、生活の経験を広げる。
 - ・ 異年齢や様々な人とかかわる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようにする。
 - ・ 人の話をよく聞き、自分で考え、自分の意見を相手あるいは集団の中に伝えられるようになる。
- ⑤ 自分のもつ好奇心や知的探究心を働かせることにより、考える力が育ち、表現力が豊かになり感じたことや思ったこと、想像したことなどを自由に工夫して表現する。

すみれ組（4歳児）の年間目標

- ① 一人ひとりの子どもの要求を十分に満たし、情緒の安定を図る。
- ② 友達と遊ぶことの喜びや楽しさを感じ、集団で活動することを楽しむ。
 - ・ 意欲的にいろいろなことに挑戦し、体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- ③ 健康、安全などの生活がわかり基本的な習慣を次第に身につける。
- ④ 人の話を聞いたり、自分の経験したことや思っていることを話したりして、言葉で伝えることを楽しむ。
- ⑤ 自然や身近な事柄にふれ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、そのことを表現しようとする。

もも組（3歳児）の年間目標

- ① 生活が自立してくることで自信をもち、自分のやりたいことが実現できるようになる。
- ② 外遊びを十分にするなど遊びの中で身体を動かすことを楽しむ。
- ③ 食事・排泄・睡眠・衣服の着脱等の生活に必要な基本的な習慣が身につくようにする。
- ④ 自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、一緒に遊ぶ喜びを知る。
- ⑤ 様々なものを見たり触れたりして、面白さ・美しさなどに気づき感性を豊かに育む。

ひまわり組（2歳児）の年間目標

- ① たくさんの自己主張や思いの表れを大人に受け止めてもらうことで、安心して気持ちを出せるようになる。

- ②・身体を動かすことが楽しくなり、いっぱい遊ぶ。
- ③・簡単な身の回りの活動を自分でしようとする。
- ④・保育士を仲立ちとして生活や遊びの中で、ごっこ遊びや言葉のやりとりと楽しむ。
- ⑤・大人やまわりのことに興味をもち、みため、つもり遊びを通してイメージを豊かに広げていく。

たんぽぽ組（1歳児）の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。
- ②・保育士に見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分に行い体を動かすことを楽しむ。
- ③・安心できる保育士との関係のもとで、食事、排泄等を自分でしようとする気持ちが芽生える。
- ④・安心できる大人に見守られる中で、他の子どもにも関心をもち、関わろうとする。
- ⑤・身のまわりの様々なものを見たり、いじったり、身のまわりの自然や事象に対する好奇心や関心をもつ。

ちゅうりっぷ組（0歳児）の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの甘えなどの依存的欲求を満たし、情緒の安定を図る。
- ②・安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を整えたり、移動したりして、いろいろな身体活動を十分に行う。
- ③・保健的で安全な環境をつくり、常に身体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め快適な生活ができるようにする。
 - ・一人ひとりの子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。
 - ・個人差に応じて離乳を進め、いろいろな食品に慣れ幼児食への移行を図る。
- ④・優しく語りかけたり、発音や喃語に応答し、発語の意欲を育てる。
- ⑤・聞く、見る、触るなどの経験を通して、感覚や手指の機能の発達を促す。
 - ・安心できる人的物的環境のもとで絵本や玩具、身近な生活用具などを、見たり、触れたりする機会を通して、身の回りのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。

主な行事予定

(行事費用)	4月	親子遠足 (10万円)
	7月	プール開き (4万円)
	9月	敬老の日 (3万円)
	9月	運動会 (11万円)
	10月	秋の遠足 (5万円)
	11月	幼児祝福式 (2万円)
	12月	クリスマス会 (12万円)

12月	イブ礼拝 (1万円)
1月	雪あそび (7万円)
3月	ふれあいピクニック (2万円)
3月	卒園式 (22万円)

オ 栄養管理

給食供給者としての諸管理

カ 安全管理

交通安全教育 (年3回) 7月、11月、2月

非常災害時の避難訓練

引き渡し訓練の実施 (9月 1日)

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任	1名
副主任	1名
保育士	15名
保育士 (パート)	5名 (子育て支援センター・一時預かり)
調理員	2名
栄養士	1名
事務員	1名
看護師	0名
嘱託医	2名 (非常勤)

イ 健康管理

健康診断 年1回 (11月と1月に分かれて)

細菌検査 年24回

調理師、保育士 毎月2回

ウ 職員会議

定例会 毎月1回 (行事前打合せ会を含む)

期別反省会 (年3回)

エ 研修計画 (研修費用)

- ・園内研修 (11万円)
- ・法人内研修 (14万円)
- ・その他研修 (11万円)

オ 退職・福利厚生

社会福祉・医療機構 退職共済制度加入
静岡県社会福祉協議会 従事者共済会加入
福利厚生倶楽部加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務、・実費徴収事務
- ・労務管理（出勤管理、有給休暇管理 等）

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・保育指導計画等の作成
- ・健康診断記録表等の作成

(2) 設備関係

ア 固定遊具の設備点検（点検費用）

点検予定有り（無料）

イ 老朽設備の点検、老朽箇所の更新（点検・更新費用）

（今年度なし）

(3) 備品関係

ア 備品購入予定（今年度なし）

イ 保育用品購入予定（今年度なし）

ウ 給食用品購入予定（今年度なし）

エ 固定資産物品購入予定（今年度なし）

(4) 災害対策

ア 避難訓練

毎月1回

イ 防災設備の点検委託

年2回（内、届け出1回）

ウ 非常食糧の備蓄

○（全園児数＋全職員数）×3食×（1日～3日）分

3 地域社会との連携

○地域老人クラブとの交流 年 4 回

○地域の文化祭に参加（出場、絵の出展）

○小学校とのつながりが義務化されてくるので保育要録等を通じて情報交換を行う

4 その他

- ・ 法人の理念、保育目標をいつも念頭におき日常のなかに具現化していくことに努める。特に法人の事業が「点から面へ」と第二次中期計画を考える上に大事なつながりとして同法人の保育園や児童館、また地域の福祉保健センターや清風園、また学校などとの関係を深めていく。
- ・ 昨年の1月から開始した「園庭開放」をもっと地域の方々に知らせ利用していただけるよう努力していく。
- ・ 民営化4年目、公立園の良さを継承していきながらも雲柱社の保育園として子どもたちが心身ともに健やかに成長できるよう保育内容の見直しをしていく。さらに民営化前の保育内容を変えるに当たっては事前に保護者に十分説明し理解が得られるよう努力し、信頼関係を構築していく。
- ・ 4時間延長保育の実施園として保護者の就労支援をはかりながら、子どもたちが豊かに過ごせるよう職員間で十分話し合い環境を整えていく。
- ・ 第三者評価の実施に伴い、結果内容をよく把握し改善策を職員と一緒に検討し保育の質の向上につながるよう取り組んでいく。
- ・ 職員1人ひとりの意見が反映され共通の認識をもてるようになる為に乳児リーダー、幼児リーダーとして各1人ずつ入り主任会を構成するようにして、昨年以上に、クラスの枠をこえて、助け合える職員集団をめざしていく。特に新人職員へのOJTや研修、看護師、栄養士も専門職として役割が自覚できるよう専門職会議を充実していく、また、モラルサーベイの取り組みを継続し、職場がより働きやすい環境になる為に職員同士の信頼関係を深める。
- ・ 保育ブロック研修の見学の受け入れ施設として、環境委員は引き続き取り組んでいく。

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・ 零歳児保育特別対策事業実施
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育実施（4時間延長）
- ・ 延長保育事業（零歳児の受入れ）
- ・ 障がい児保育事業実施
- ・ アレルギー児に対する除去食及び代替食実施
- ・ 一時保育 定員4名

イ 地域子育て推進

- ・ 退所児童との交流 年1回実施
- ・ 育児相談 随時実施
- ・ 外国人児童受入れ
- ・ 年末保育 12/29（土）実施予定（地域拠点園）
- ・ 子育て安心ステーション登録者とのつながりを強める

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障碍児数	備考
いるか組	0歳	4名	9名	0名	
りす組	1歳	4名	14名	0名	
うさぎ組	2歳	4名	18名	0名	
こあら組	3歳	2名	20名	0名	
ぱんだ組	4歳	2名	20名	0名	
らいおん組	5歳	2名	20名	0名	
	その他				
合計			101名	0名	

イ 月別保育予定日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計 297日
24日	24日	26日	25日	27日	23日	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26日	24日	25日	25日	23日	25日	

ウ 健康管理

健康診断

乳児(0歳) 毎月 3回

幼児 年2回(6月、11月)

歯科検診 年2回(5月、2月)

蟻虫卵検査 年2回(6月、11月)

エ 保 育

保育目標(保育ブロック統一)

- 1 ありのままの自分が受け入れられ、自己発揮でき、考えて行動できる子ども
- 2 のびのびとしなやかに、体を動かして遊ぶ子ども
- 3 基本的な生活習慣が身につき、見通しをもってできることを自分でする子ども
- 4 さまざまな人との関わりを大切にし、思いやりをもって共に生きる子ども
- 5 自然や命あるものとの出会いを大切にし、豊かに感じ取り表現する子ども

主な行事予定 4月 進級入園おめでとうの会(3万円)

(行事費用) 5月 4,5歳春遠足(3万)

7月 子ども夏祭り

	プール開き
8月	一年生の会 (1万円)
9月	おじいちゃんおばあちゃん会 (3万円)
10月	運動会 (10万円)
	いもほり遠足 (5、4歳児) (15万円)
12月	お楽しみ会 (1万円) ・餅つき
	クリスマス会 (1万円)
2月	お茶会 (2万円) ・5歳親子バス遠足 (15万円)
3月	さよなら遠足3歳・4歳 (1万) ・ 卒園式、茶話会 (13万円)

月例行事 (お誕生日)

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年 4回
 栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成
 季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成
 アレルギー児への代替食
 給食供給者としての諸管理
 食材の放射能汚染への対応に万全を期していく。

カ 安全管理

安全委員会を立ち上げ安全チェックリストを用いて環境の点検をする。(月1回)
 非常災害時の避難訓練 12回
 引き渡し訓練の実施(9月 1日)
 防犯訓練 年3回

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任	2名
保育士	20名
調理員	3名 (栄養士含む)
看護師	1名
嘱託医	2名 (非常勤)
臨時職員、パート職員	20名

イ 健康管理

健康診断 年 1 回
細菌検査 年 1 2 回
給食担当 保育担当全員

ウ 職員会議

定例会 毎月 1 回
行事前打合せ会（随時）
年間反省会（年 1 回）
乳児、幼児、各カリキュラム会議 毎月 1 回
食事カリキュラム会議 毎月 1 回
離乳食会議 毎月 1 回
献立会議（乳児・幼児それぞれ月 1 回）
アレルギー会議 毎月 1 回
昼礼 毎日

エ 研修計画（研修費用）

- ・園内研修（10万円）
- ・園内パート研修
- ・法人内研修
- ・全国私立保育団体研修（東京私保連）
- ・墨田区保育団体研修（2万円）
- ・その他の研修（10万円）

オ 退職・福利厚生

社会福祉・医療機構 退職共済制度加入
東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入
福利厚生倶楽部加入

2 施設管理

（1）事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務、・実費徴収事務
- ・労務管理（出勤管理、有給休暇管理 等）

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・保育指導計画等の作成
- ・給食献立表等の作成

- ・健康診断記録表等の作成
- (2) 設備関係
 - ア 固定遊具の設備点検
職員による環境整備（月1回）
 - イ 老朽設備の点検、老朽箇所の更新（点検・更新費用）
保育室床研磨
- (3) 備品関係
 - ア 備品購入予定（購入予定費用）
 - ・ たたみがえ
 - ・ 散歩車
 - ・ 棚
 - イ 保育用品購入予定（購入予定費用）
 - ・ カラー積み木
 - エ 固定資産物品購入予定（購入予定費用）
 - (4) 災害対策
 - ア 避難訓練
毎月1回
 - イ 防犯訓練 年3回
 - ウ 防災設備の点検委託
年2回（内、届け出1回）
 - エ 防災備蓄
○（全園児数＋全職員数）×3食×（1日～3日）分
- 3 地域社会との連携
 - ・ 東駒形教会、賀川記念館、光の園保育学校との連携として今年度から合同研修は全員出席。
 - ・ 「どすこいくらぶ」のボランティアとの定期的な交流（墨田区在住のおじいちゃん）
 - ・ 同法人運営の児童館との連携
 - ・ 保育所保育指針の改定に伴う保育要録の義務化により、近隣の小学校との連携をより深める
 - ・ 福祉保健センターとの交流会
 - ・ 認証保育園との交流会
- 4 人事採用他
 - 異動職員 3名
 - 産休あけ職員 2名
- 5 その他

2012年度 雲柱社 児童館ブロック事業計画

<p>児童館ブロック</p> <p>事業目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちは、みんなの居場所となる児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちが多くの人と出会い、遊びや行事などへの参加を通して社会力を培う児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちやその家庭が抱えている問題を担う児童館を目指します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちは、世界の人たちと共に生きるための学習や異文化体験。ボランティア活動などに取り組む児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちが平和を愛し、差別や偏見に立ち向かう力を育む児童館を目指します。
----------------------------	---	--

< 1 > 事業計画

	子育て支援活動（乳幼児・親）	学童クラブ	小学生を対象とした活動	中・高校生を対象とした活動
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域での子育て、子育て支援の拠点となるよう、活動を展開、していく。 ・ 「乳幼児とお母さんのつどい」の活動を中心に在宅で子育てをしているお母さん同士が気軽に日常の中で情報交換や友達作りができる場としていく。 ・ 乳児だけでなく、マタニティ、幼児、父親参加の活動にも目を向け、様々な形の子育て支援プログラムを行うとともに、いつでもほっとして立ち寄れるような居場所作りや環境整備を行う。 ・ 親子で参加できる行事作りを心がけ、仲間とともに楽しい育児を支援していく。 <p>・お母さんのための七宝焼教室の継続、ボランティア講師との連携にて講座などを展開。</p> <p>・子育てをしている親子を対象(主に0・1歳児)にサークル作りを支援していく。</p> <p>・地域で子育てをしている経験豊富なお母さんに講師をしていただき、育児体験講座を行っていく</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちにとって家庭にかわる、安心・安全な生活の場としての活動を行なう。 ・ ひとり一人が、充実した毎日を過ごしていけるように、見守り、援助していく。 ・ 学童クラブの仲間として、集団として遊び、友達関係の輪を広げ、生活経験を豊かにする。 ・ 保護者が安心して働けるように支援していく。 ・ 地域の方との交流、イベントへの参加 <p>*墨田区学童クラブ条例に基づき、家庭にかわる安全で楽しい生活の場としての役割を担う。</p> <p>*本館学童クラブは児童館併設、分室は学校の協力の下でのよさを生かしていく。</p> <p>(両クラブ同士の連携をもち育成)</p> <p>・ 合同プログラムの実施で交流を図る。</p> <p>*特別支援学校に通う児童も、区の移動支援サービスを利用してセンターへ来館 放課後を地域の友達とすごしていく。</p> <p>*生活不安・心理的不安などかかえている児童・家庭への支援(他施設との連携)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ イベントや日常のグループ活動を中心としてたくさんの友達と知り合い、友達関係を広げ、生活経験を豊かにしていく ・ 子どもたちひとり一人が自分の力を発揮できるような活動を展開する。 ・ 友達と力を合わせて取り組む楽しさを体験していく。 ・ 生活スキルの向上 ・ 体力増進活動の展開 ・ 保護者とともに子どもたちの居場所づくりに努める。(安心・安全対策を始めた交流。それに加え、体験事業などの実施の中で学ぶ。) ・ ボランティア活動への取り組み(世界の様々な出来事、人々に関心を持つ) ・ ・ 児童文化に触れる機会を作り、こどもたちが情操を深める場とする。 ・ 身近なエコ活動への取り組み ・ 学習支援への取り組み <p>*地域ボランティアの方との協力の下、地域活動への参加を促進していく。</p>	<p>活動目標 <健全な余暇活動の場を提供する></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中、高校生の声を聞きながら、仲間同士の利用を中心としたプログラムを行っていく ・ 活動を通して他者を思いやる気持ちを育む、またスポーツ、学習、遊び、イベントを通して仲間との関わりを深める。 ・ 夜間の利用が主となるため、常に家庭との関わりを持ち安心して過ごせるようなプログラム作りを展開していく。(18:00~21:00) ・ 同じ目的を持った仲間との交流(音楽室活動・キャンプ) ・ コンサートの実施(7月・12月・3月)体験キャンプ ・ 学習支援活動の時間を設けいつでも学習のできる体制をとる。学習会:火・木 ・ 体育館の自由利用(夜間利用名簿あり) ・ 障がい児の受け入れ ・ ボランティア活動に参加
活動の内容・行事等	<p><乳幼児とお母さんのつどい> (10:30-11:30) 0歳児(ばんだ)・毎週金曜日 ※年度後半には低年齢のクラス(こパンダ)も実施 1歳児(うさぎ)・毎週木曜日 2歳児(りす)・毎週火曜日 3歳児(こあら)・毎週月曜日 ※幼稚園2年保育の方の支援クラス <幼児クラス> (午後2:30-3:30) 3歳児クラス・4歳、5歳児クラス <日常利用> ・ 幼児室の安全衛生面などの整備に努める。 9:00-18:00の自由利用 ・ プレイルーム・広い体育室を利用した活動遊具を準備し、交流の場として開放 水、土の午前中・午前クラス活動終了後 ランチタイム・11:45-13:00 <年間行事>遠足、うんどう会、劇団公演、よみきかせ、クリスマス会、子育て講座・講演会</p> <p><その他> ・ 各機関や専門家との連携(保健師、子育て相談員、保健センター、女性センター、民生委員、看護師、栄養士等)</p> <p>・ 子ども服りサイクル 6月 10月実施</p> <p>・ 子育てサークルへの支援 ・ ひととき保育(午前中)の実施 *自主事業</p>	<p><定員> *本館(さくら橋コミュニティセンター内) 40名(障がい児含む) *分室(言問小学校内) 40名(障がい児含む) <対象> 1年-3年 <育成時間> 通常 下校時間-17:00 延長 17:00-18:00 学校休業日 8:30- 4月 入会式 8月 おでかけ(言問) 9月 キャンプ 12月 クリスマス会 3月 お別れ会・3年生送る会・ハイキング <日常活動> 公園あそび・学童クラブレクリエーション 買い物体験・誕生日会・季節のイベント ・手作りおやつ・観劇・グループ活動</p> <p><その他> 保護者との連携 父母会活動(共催事業 他)・個人面接 アンケート(区作成) 実施 毎年1月予定</p> <p>* 区のイベントへ参加 6月 環境フェスティバル・ヤゴ救出作戦12月 ふれあいフェスティバルにミュージックバルにて参加。 手話や盲導犬体験 *その他・・・さくらパートナーシップへの参加(菜の花・コスモス)</p> <p>◎ 時には一般来館の子や利用者の方も交えて一緒に活動をしていく。</p>	<p><利用時間>下校時(9:00-)18:00まで *グループ活動 <低学年コミュニティクラブ 1年生-3年生> ・ 学年別の定例活動 週1回 期ごと ・ 毎週 火、木、金曜日 ・ 内容:スポーツ、手作り、生活技術体験、野外活動、ハイキング、キャンプ他 ・ 「クオレ」(小学生の一時預かり)の実施預かり預かり ※在宅で子育てをしている家庭への支援として(小1~小6まで)*自主事業 <高学年コミュニティクラブ 4年生-6年生> ・ 学年を越えての活動 ・ 週2回程度 水、土曜日 ・ 内容:スポーツ、レクリエーション、おかしづくり、イベントへの準備、ボランティア活動、学習、野外活動キャンプ、ハイキング 映画鑑賞、講座(しゃべり場)等 ・ 地域の福祉施設との交流 ・ 法人内児童館との交流イベント 自由利用 <日常プログラム> ・ スポーツ活動・設定スポーツ、自由遊び ・ 文化活動・・・映画、工作、手芸、うた、よみきかせ、おかしづくり、料理、伝承遊び 他 自分自身を見つめる機会や創造力を養う体験をする。 ・ レクリエーション・体力増進活動 子どもたちの成長に合わせた交流プログラムや体力増進の活動をおこなう。</p> <p><年間行事>こどもの日フェスタ、えんにち、ハイキング、キャンプ、クリスマス、もちつき、コミュニティ(ポイント)ラリー、ひろば(子どもまつり) その他:地域のお祭り、各町会の集まり ほか 墨田地区育成委員会との共催 ※東京芸術大学とのワークショップ(9月)</p>	<p><利用時間> 下校時(9:00-) 月、水、金 19:00 火、木、土 21:00 日、祝 19:00 <中学生コミュニティクラブ> <高校生コミュニティクラブ> ・ 体育館を利用したのスポーツ活動、他館とのスポーツ交流 ・ 文化活動 ・ ボランティア活動 ・ 学習会 火、木 19:00-20:00 ・ 中高生タイム 18:00-19:00・21:00 ・ イベント ・ 体験学習キャンプ「ワークキャンプ」実施 <音楽室活動> ・ バンド活動 音楽室の利用、機材の整備、技術講習会、音楽室利用者会議(毎月実施) ・ 年3回コンサートの実施 7月サマー・12月クリスマス・3月スプリング(センター内体育館) <ボランティア活動(登録制)> ・ センター行事のお手伝いをはじめ、各種プログラムの計画、実施</p> <p>※ 現在では中学生から一般成人までの幅広い登録がある</p> <p><学校との連携> 中学生実習、奉仕活動 高校生実習、奉仕活動 特別支援学校実習 大学・保育、教育専門学校実習受け入れ 区役所 夏ボランティア ほか</p>

施設名 さくら橋コミュニティセンター

記入者 柴田 克子

< 2 > 職員構成

・館長	1名
・統括リーダー	1名
・児童厚生員	8名
内 児童館担当	4名
本館学童担当	2名
言問分室担当	2名(内30時間1名)

< 3 > 研修

- ・ 施設内研修
- ・ 児童館ブロック研修
- ・ 法人研修
- ・ 所属する自治体の研修
- ・ 東京都児童館連絡協議会の研修
- ・ その他の研修
防犯、安全管理、救急 等

< 4 > その他

指定管理

さくら橋

2012年度 雲柱社 児童館ブロック事業計画

児童館ブロック 事業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちは、みんなの居場所となる児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちが多くの人と出会い、遊びや行事などへ参加を通して社会力を培う児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちやその家族が抱えている問題を受け止め、共に担う児童館を目指します。 ・私たちは、世界の人たちと共に生きるための学習や異文化体験、ボランティア活動などに取り組む児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちが平和を愛し、差別や偏見に立ち向かう力を育む児童館を目指します。
-----------------	---

施設名 フレンドリープラザ 墨田児童会館
 記入者 山口 修

< 1 > 事業計画

	子育て支援活動（乳幼児・親）	幼稚園児を対象とした活動	学童クラブ	小学生を対象とした活動	中高生を対象とした活動
活動目標	子育て中のお母さんたちが、子育ての喜びや不安と向き合い、子育てを通してウェルビーイングが達成されることを目指す。 そのため、以下の点に留意をする。 ○お母さん方が気兼ねなく話をしたり、情報を交換したり友だちつくる場となる。 ○子どもたちの成長を喜び合う場となる。 ○地域に子育ての共助の輪を広げる。 ○子育てに有効な情報を提供する。 ○地域内で利用できるサービスの充実	幼稚園児の心身の発達を促す諸活動を行う。特に、心身の調節機能を高めるためのカリキュラムや、情操を高めるための音楽活動の導入を念頭に置いた活動を行う。 基本的な活動内容は、以下のとおり。	子どもたちが、楽しく、安全に過ごし、保護者が安心して就労できるように援助する。また、関わる人たちが協力してクラブの活動を作る。 そのため、以下の点に留意をする。 ○子どもたちにとって、家庭に代わる安全な場となる。 ○子どもたちが安心して、楽しく過ごすことのできる場となる。 ○ひとつの集団として、遊び、友達の間をを広げ、生活体験を豊かにする。 ○困難状況にある子ども、家庭に必要な援助を行う。	子どもたちにとって、居心地のよい環境を土台にしつつ、小学生にとって必要な体験の機会を設け、心身の発達と情操の育み及び仲間作りを支援する。特に、体力の増進と社会性の涵養を促す。 そのため、以下の点に留意する。 ○子どもたちが創意工夫できるような活動を運動、文化の両面で展開する。 ○体育室活動を活性化し、 ○役割を通して、社会的有用感を育む。 ○野外活動を積極的に展開する。 ○地域における子ども社会の再生を目指し、縦のつながりを意識した活動を展開する。	思春期の子どもたちにとって必要である、人格的な交流ができる場を目指す。また、中高生の生活に即した支援を行なう。 そのため、以下の点に留意する。 ○健全な余暇活動の実施、 ○中・高生同士の交流を広げ、進める。 ○自己発揮の機会を作る。 ○ボランティア活動を通して、社会参加の機会を作る。 ○イベント作りなどを通して、協働の機会を作る。 ○読書会などを通して、世界の出来事や歴史を知る機会を作る。 ○補習を行なう。(主に英・数)
活動の内容・行事等	<グループ活動> ・0歳児（パンダクラス）… 毎週金曜日（参加者に応じて、2クラスに分ける） ・1歳児（うさぎクラス）… 毎週火曜日 ・2歳児（こあらクラス）… 毎週木曜日 活動時間… 10:20～11:20 <幼児一時預かり> ・保護者のレスパイト（休息・息抜き）のために、幼児の一時預かりを行う。 ・対象 1～3歳児 ・受入人数 2名 ・曜日および時間 月～金曜日 午前9時～12時 ・利用者負担 500円/1時間 <子育て講座> ・年間6回以上 育児の参考となる講演やワークショップを行う。 <日常活動> ・幼児室…安全、衛生面等の環境整備に努める。 <年間行事> ・ファミリーデイ ・劇団公演 ・クリスマス会 ・乳幼児ふゆまつり 他	<設定活動> ・未就園3歳児… 毎週木曜日 午後1時半～2時半 ・幼稚園児年少… 毎週木曜日 午後3時～4時 ・幼稚園児年中、年長… 毎週火曜日 午後3時～4時 内容：運動遊び、集団遊び、スポーツ等 <年間行事> ・ファミリーデイ ・遠足 ・クリスマス会	<定員> 定員第1 70名、第2 30名、二寺分室 60名、隅田分室 60名、梅若分室 40名 <育成時間> ・通常…下校時間～17:00 ・延長…17:00～19:00 ・学校休業日…8:30～ <年間行事> ・入会式 ・親子遠足、ハイキング ・お出かけ ・お別れ会 ・誕生会 <その他> ・お便りの発行（月1回）	<フレンドリークラブ 1・2年生> ・学年別、年3期に分けて定例活動（週1回） ・ハイキング、キャンプ、デイキャンプ <すみだあそび塾 3～6年> ・活動日…毎週水曜日 下校時～6:00 スポーツ、お菓子作り、イベントの準備、テーマに沿った話し合い等を行う ・ボランティア活動 ・キャンプ、ハイキング、デイキャンプ <スポーツ活動> ・設定スポーツ 週4回 ・スポーツ大会 月1回 <文化部門> 映画会、工作、手芸、お話の時間 他 <将棋教室> 土曜日 <囲碁教室> 土曜日 <お料理クラブ> 土曜日 <フットサルクラブ> 金曜日 <各種講座、ワークショップ> ボランティアに協力を依頼し、数回の講座を行なう <食育事業> 田植え、稲刈り体験、野菜栽培、地域との協力事業 <学習会> ・算数補習 週1回 <年間行事> こどもの日、えんいち、クリスマス、餅つき、ポイントラリー、合宿 他	自由来館とプログラム ・各種スポーツ ・トークタイム ・お菓子作り ・スポーツ大会 ・合宿 ・体験学習キャンプ ・キャンプ、デイキャンプ、ハイキング等の野外活動 <学習会> ・数学補習 週1回 ・英語補習 週1回 ・算数教室 週1回 <音楽室活動> ・中高生のバンド活動の支援 …音楽室の貸出し、機材の整備 ・年6回ライブの開催

< 2 > 職員構成

- ・館長 1名
- ・統括リーダー 1名
- ・児童厚生員 19名
- 内 児童館担当 5名
- 本館学童担当 6名
- 二寺分室担当 3名
- 隅田分室担当 3名
- 梅若分室担当 2名

< 3 > 研修

- ・施設内研修
- ・児童館ブロック研修
- ・法人研修
- ・所属する自治体の研修
- ・その他の研修

< 4 > その他

指定管理

墨田

2012年度 雲柱社 児童館ブロック事業計画

児童館ブロック 事業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちは、みんなの居場所となる児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちが多くの人と出会い、遊びや行事などへ参加を通して社会力を培う児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちやその家族が抱えている問題を受け止め、共に担う児童館を目指します。 ・私たちは、世界の人たちと共に生きるための学習や異文化体験、ボランティア活動などに取り組む児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちが平和を愛し、差別や偏見に立ち向かう力を育む児童館を目指します。
-----------------	---

< 1 > 事業計画

	子育て支援活動（乳幼児・親）	幼稚園児を対象とした活動	学童クラブ	小学生を対象とした活動	中高生を対象とした活動
活動目標	子育て中のお母さんたちが、子育ての喜びや不安と向き合い、子育てを通してウェルビーイングが達成されることを目指す。そのため、以下の点に留意をする。 ○お母さん方が気兼ねなく話をしたり、情報を交換したり友だちつくる場となる。 ○子どもたちの成長を喜び合う場となる。 ○地域に子育ての共助の輪を広げる。 ○子育てに有効な情報を提供する。 ○地域内で利用できるサービスの充実。	幼稚園児の心身の発達を促す諸活動を行う。特に、心身の調節機能を高めるためのカリキュラムや、情操を高めるための音楽活動の導入を念頭に置いた活動を行う。 基本的な活動内容は、以下のとおり。	子どもたちが、楽しく、安全に過ごし、保護者が安心して就労できるように援助する。また、関わる人たちが協力してクラブの活動を充実させていく。 そのため、以下の点に留意をする。 ○子どもたちにとって、家庭に代わる安全な場となる。 ○子どもたちが安心して、楽しく過ごすことのできる場となる。 ○ひとつの集団として、遊び、友達の間をを広げ、生活体験を豊かにする。 ○困難状況にある子ども、家庭に必要な援助を行う。	子どもたちにとって、居心地のよい環境づくりを基本にしつつ、小学生にとって必要な体験の機会を設け、心身の発達と情操の育ち及び仲間作りを支援する。特に、体力の増進と社会性の涵養を促す。 そのため、以下の点に留意する。 ○子どもたちが創意工夫できるような活動を運動、文化の両面で展開する。 ○体育室活動を活性化する。 ○役割を通して、社会的有用感を育む。 ○野外活動を積極的に展開する。 ○地域における子ども社会の再生を目指し、縦のつながりを中心とした活動を展開する。	思春期中にある中・高校生たちにとって必要である人格的交流ができる場を目指す。また、中高生の生活に即した支援を行なう。 そのため、以下の点に留意して活動を展開していく。 ○健全な余暇活動の実施。 ○子ども同士の交流を広げ、進める。 ○自己発揮の機会を作る。 ○ボランティア活動を通して、社会参加の機会を作る。 ○イベント作りなどを通して、協働の機会を作る。 ○読書会などを通して、世界の出来事や歴史を知る機会を作る。 ○教科（主に英・数）の補習を行なう。
活動の内容・行事等	<グループ活動> ・0歳児（パンダクラス）… 毎週火曜日（参加者に応じて、2クラスに分ける） ・1歳児（うさぎクラス）… 毎週木曜日 ・2・3歳児（こあらクラス）… 毎週金曜日 活動時間… 10:30～11:30 クラス終了後、13時まで2Fを開放 <子育てグループの活動支援> ・妊婦を対象にグループ作りと活動を支援する。 … 毎月1回 10:30～11:30 <幼児一時預かり> ・保護者のレスパイト（休息・息抜き）のために、幼児の一時預かりを行う。 ・対象 1～3歳児 ・受入人数 2名 ・曜日および時間 月～金曜日 午前9時～12時 ・利用者負担 500円/1時間 <子育て講座> ・年間6回 育児の参考となる講演やワークショップを行う。 <日常活動> ・乳幼児室…安全、衛生面等の環境整備に努める。 <年間行事> ・各クラス遠足 ・運動会 ・劇団公演 ・クリスマス会 ・乳幼児まつり ・子育て講座 ・子ども服リサイクル <その他> ・おたより発行（月1回）	<設定活動> ・ちびっ子… 毎週火・木曜日 午後2時半～3時半 内容：運動遊び、集団遊び、スポーツ等・以下のプログラムはちびっ子の時間に行う。 ・ちびっ子映画会 ・ちびっ子おはなしタイム ・ちびっ子スポーツタイム ・ちびっ子製作タイム ・トランポリン（月1回） ・出前保育（月1～2回） ・ちびっ子ミュージックタイム… 毎週金曜日 午後2時半～3時半 <年間行事> ・遠足 ・クリスマス会	<定員> 定員第1 50名、第2 30名 押上分室 40名 <育成時間> ・通常… 下校時間～17:00 ・延長… 17:00～18:00 ・学校休業日… 8:30～ <年間行事> ・入会式 ・親子遠足、ハイキング ・お出かけ ・お別れ会 ・誕生会 ・クリスマス ・館内合宿 ・ハロウィン <その他> ・お便りの発行（月1回）	<チャレンジクラブ 1・2年生> ・学年別、年3期に分けて定例活動（週1回） ・ハイキング、キャンプ、デイキャンプ <チャレンジクラブ 3年生> ・学年別、年3期に分けて定例活動（週1回） ・ハイキング、キャンプ、デイキャンプ <子ども会議4～6年（定例活動）> ・活動日… 毎週水曜日 5:00～6:00 スポーツ、お菓子作り、イベントの準備、テーマに沿った話し合い等を行う ・ボランティア活動 ・キャンプ、ハイキング、デイキャンプ <スポーツ活動> ・設定スポーツ 週4回 ・スポーツ大会 月1回 <文化部門> 映画会、工作、手芸、お話の時間、うたの時間、ふれあいクッキング、将棋教室（月1回）、交流将棋 <各種講座、ワークショップ> ボランティアに協力を依頼し、数回の講座を行なう <年間行事> こどもの日、えんにち、クリスマス、餅つき、ポイントラリー、合宿	自由来館とプログラム ・各種スポーツ ・中、高生トーキングタイム ・クッキング、食育活動 ・スポーツ大会 ・合宿 ・体験学習キャンプ ・キャンプ、デイキャンプ、ハイキング等の野外活動 <学習会> ・数学補習 週1回 ・英語補習 週1回 ・算数教室 週1回 <音楽室活動> ・中高生のバンド活動の支援 …音楽室の貸出し、機材の整備 ・年2回コンサートの開催

施設名 フレンドリープラザ 文花児童館

記入者 野口 啓子

< 2 > 職員構成

- ・館長 1名
- ・総括リーダー 1名
- ・児童厚生員 9名
- 内 児童館担当 4名
- 本館学童担当 3名
- 押上分室担当 2名

< 3 > 研修

- ・施設内研修
- ・児童館ブロック研修
- ・法人研修
- ・所属する自治体の研修
- ・その他の研修

< 4 > その他

指定管理

文花

2012年度 雲柱社 児童館ブロック事業計画

児童館ブロック 事業目標	・私たちは、みんなの居場所となる児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちが多くの人と出会い、遊びや行事などへ参加を通して社会力を培う児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちやその家族が抱えている問題を受け止め、共に担う児童館を目指します。 ・私たちは、世界の人たちと共に生きるための学習や異文化体験、ボランティア活動などに取り組む児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちが平和を愛し、差別や偏見に立ち向かう力を育む児童館を目指します。
-----------------	---

施設名 フレンドリープラザ 外手児童館

記入者 森 裕樹

< 1 > 事業計画

	子育て支援活動（乳幼児・親）	学童クラブ	小学生を対象とした活動	中・高校生を対象とした活動
活動 目 標	① 親と子の居場所環境の整備。 ② 子育て中の親子の交流の場の拡大。 ③ 子どもの育ちに配慮したグループ活動の展開。 ④ 子育てに関する情報の提供。 ⑤ 相談窓口として活動の展開。 （専門・行政との連携） ⑥ 幼児を中心に家族も楽しめる行事の実施。 ⑦ 子育て中の母親を対象としたプログラムの実施。 ⑧ その他	① 放課後、安全に生活できる居場所とする。 ② 友達との交流を広げる。 ③ 遊びを通して、心身を鍛え合う場となる。 ④ 野外活動などを通して、自然体験を深めていく。 ⑤ 諸活動の中で、生活のスキルを体得していく。 ⑥ 多様な人たちとふれあう中で、社会化を促していく。 ⑦ グループ活動を通して、協調性を育む。	① 地域における第3の居場所となる。 ② 地域における異年齢集団形成の場となる。 ③ 活動を通して心身の健康を増進していく。 ④ 地域の人たちや、友達との協力を通して社会性を育てていく。 ⑤ 野外活動を通して自然に親しみ、体験を広げていく。 ⑥ ボランティア活動を通し、『共に生きる』ことを学び体験していく。	①中・高校生の余暇活動の場として。 ②中・高校生の自立を支援する場として。 ③中・高校生の人間関係を広げる場として。 ④中・高校生の表現活動を展開する場として。 ⑤中・高校生のボランティア活動の場として。 ⑥中学生の障がい児受け入れ（中高生ルーム） ⑦高校を卒業した青年を対象とした活動の場として。
活動 の 内 容 ・ 行 事 等	① 妊婦（安定期前後で分けて）を対象とした行事を行う。（月1回） ② 子育て中の親と子の居場所、機能の充実。乳幼児室に玩具・絵本・親用の情報雑誌や子育てのための専門誌を置く。 ③ 新生児0歳から2歳までの乳幼児を対象とした、グループ活動を展開する。 ④ 保健師・子育て相談員の方々の協力を得て、相談活動を行う。 ⑤ 幼稚園児（3～5歳）を対象とした、放課後対策活動を展開する。 ⑥ 法人の認可保育園である光の園保育学校と共催して地域の乳幼児を対象とした出前保育を月1回行う。 ⑦ 区内在住の0～2歳を平日の午前中預かる。（ひととき預かり事業） ⑧ お母さんリフレッシュタイムを企画。 ⑨ お子さんの成育計測の場を提供。（すくすく測定） ⑩ 年間行事 ・親子えんそく・こどもの日スペシャル ・夏祭り・親子運動会・都民の日スペシャル・ハロウィンパーティー・外手合同クリスマス・親子スポーツ大会・芋煮会・もちつき・他	① 遊び 子どもの自主性と意欲を育むように支援する。 ② おやつ 栄養のバランス等に気をつける。手作りおやつを多くし、子どもにとって楽しいおやつを心がける。また季節のくだものや行事食もつけ加える。 3学童クラブのメニューを統一していく。 一週間ごとメニューを連絡帳で知らせる。 ③ 延長保育 17:00～18:00（区規定） ④ 年間行事 誕生会（月1回）・買い物おやつ（月1回）・手作りおやつ・工作・手芸・野外活動・クリスマス・長寿会参加（二葉）・他 ⑤ 二葉・業平分室は本館学童と異なるため、その環境にあう玩具類を整備する。 ⑥ 待機児童対策として、業平分室に子どもを10名を受け入れ、別室を提供してもらい、また、本館学童も同様に20名増加し、中高生ルームや地域集会室を使用して活動を行う。	① 日常の活動 スポーツ活動（体育室）、学習や読書及び創作活動（図書室） ② グループ・スポーツ活動 ドッジボール、ユニホック、キックベース、インドアサッカー、ポートボール、他 ③ 週間行事 一輪車検定、ビデオシアター、レクタイム（低・高）、他 ④ 月間行事 映画会、各種スポーツ大会、読み聞かせ、手作り教室、手芸教室、工作教室、パン作り外手農園他 ⑤ 学年別グループ活動（行政名称クラブ活動） 1. 2. 3年及び高学年（4～6年）の4クラブ（週1回） ⑥ 年間行事 一年生歓迎会、子どもの日 SP・夏祭り・野外活動・都民の日 SP・赤い羽根共同募金（街頭）・オーバーナイトハイク・ハロウィン・ユニセフハウス・クリスマス・ミニ縁日・合宿、七福神めぐり（高学年サイクリング）田植え・稲刈り体験・エコクラブ・国際交流・墨田家庭の日・幼児とふれあい事業・その他 すみだ家庭の日クッキング、国際交流 ※太字は新規事業。	① 地域の中の中高生の居場所として機能するために夜間開館する。 ② スポーツを中心とした活動 ドッジボール、バレーボール、バドミントン、卓球、サッカー、ゴルフ、他 ③ ボランティア活動の展開 児童館事業にボランティアとして参加 ④ 各種のスポーツ大会の実施（屋内） ⑤ 軟式野球大会の実施（年3回） ⑥ 中学生クラブ、高校生クラブ活動の実施 ⑦ 月間行事 映画会、クッキング、定例会、他 ⑧ 年間行事 夏祭り、キャンプ、合宿、ハイキング、サイクリング、他 ⑨ 高校卒業後の地域の青年たちの交流諸活動の展開

< 2 > 職員構成

- ・ 館長 1名
- ・ 統括リーダー 1名
- ・ 児童厚生員 10名
 - 内 児童館担当 3名
 - 本館学童担当 3名
 - 業平分室担当 2名
 - 分室担当 2名

< 3 > 研修

- ・ 施設内研修
- ・ 児童館ブロック研修
- ・ 法人研修
- ・ 所属する自治体の研修
- ・ その他の研修

< 4 > その他

児童館ブロック事業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちは、子どもたちの居場所となる児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちが多くの人と出会い、遊びや行事などへの参加を通して社会力を培う児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちやその家族が抱えている問題を受け止め、共に担う児童館を目指します。 ・私たちは、世界の人たちと共に生きるための学習や異文化体験、ボランティア活動などに取り組む児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちが平和を愛し、差別や偏見に立ち向かう力を育む児童館を目指します。
-------------	--

< 1 > 事業計画

	子育て支援活動（乳幼児・親）	幼稚園児を対象とした活動	学童クラブ	小学生を対象とした活動	中高生/その他を対象とした活動
活動目標	<p>○子育てをしている親同士の憩いと交流の場を設け、子育ての喜びや楽しさを共に分かち合える環境作りを目指す。</p> <p>○子育て講演会など育児に関わる知識を得る機会を積極的に設けると同時に、保護者の育児に対する悩みや不安を気軽に話してもらえるような雰囲気を作っていく。</p> <p>○わが子とのふれあいの時間を楽しく過ごせるようなプログラムやイベントを考案し、随時実施していく。</p> <p>○児童館から地域に出向き、地域の保育の課題やニーズをとらえたり、児童館の活動をお知らせ出来る工夫をする。</p> <p>○近隣保育園（無認可保育園含む）・幼稚園や子ども家庭支援センターと連携を取り、共に活動をしたり、保育の支援をし、繋がりを持つ。</p>	<p>○子育てをしている親同士の憩いと交流の場を設け、子育ての喜びや楽しさを共に分かち合える環境作りを目指す。</p> <p>○小学生へ向け、こどもたちの自立心を促すような関わりをしていく。</p> <p>○保護者、こども共に積極的に関わり、関係作りをすることで、小学生期へつなげていく。</p>	<p>○子ども達にとって家庭と同じように、安全かつ安らかな気持ちで過ごせるような居場所作りを目指す。</p> <p>○それぞれ年齢が異なる集団の中での生活や遊びを通じて、人間関係を前向きに築いていこうとする意欲や社会性、他人を思いやる心を育てていく。</p> <p>○保護者との連絡を密に取り、子ども達のクラブ内での生活の様子を積極的に伝え、親子関係や家庭における育児機能の維持と向上をサポートする。</p>	<p>○地域に住む子ども達が自由に遊びに来れる安全な居場所作りを目指す。</p> <p>○毎日の遊びや人間関係の中で起こる様々な経験を通じて、子ども達の心身の成長を支えていく。</p> <p>○子ども達が自分の気持ちを気軽に打ち明けられ、日々を楽しく過ごせる支えとなるための信頼関係を築く。</p> <p>○同世代のみならず、様々な立場や年齢層の人々と交わることで、視野をひろげられる様に様々な体験をする。</p>	<p>○中・高校生が放課後の時間を健全に過ごせる余暇活動の場とする。</p> <p>○勉強や進路相談、人間関係の悩みなどについても親身になって対応し、共に考えながらも本人が自ら結論を選べるような関わりを作っていく。</p>
活動の内容・行事等	<p>乳幼児・年齢別グループ活動</p> <p>☆0歳児 （ばんだ・いちご） 毎週火曜 10:15～11:00 （ばんだ・りんご） 毎週火曜 10:30～11:15</p> <p>☆1歳児（うさぎ） 毎週木曜 前半10:00～10:45 後半11:00～11:45</p> <p>☆2歳児（こあら） 毎週金曜 前半10:00～10:45 後半11:00～11:45</p> <p>☆3歳児（りす） 毎週月曜 10:00～11:00</p> <p>一般利用</p> <p>○遊戯室の利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつでも利用できる乳幼児専用の部屋 乳児専用スペースもあり。 ・安心して利用できるように、飲食・授乳・おむつ交換・午睡等ができる場所も確保。 <p>○集会室の開放（プレイルーム）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎週水曜日の9:00～13:00に設定。 ・遊具や巧技台を使って、親子で自由に遊べる時間。 <p>○育成室の開放（プレイルームひよこ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月1回、月曜日の11:00～11:45に設定。 ・マタニティーママ・0歳児とその保護者の憩いと交流の場。 <p>○ランチルームの開放</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日11:30～12:00 育成室を飲食スペースとして場所を提供 <p>○幼児の運動スペース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日13:00～14:00 集会室を一輪車や卓球・ボールあそびの場として開放 ・屋上ひろば 毎週水曜日13:00～14:00 屋上を遊具で遊べるように開放 <p>○出前保育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月1回、11:00～11:45に実施。 <p>・児童館前の公園（清澄児童遊園）にて、主に乳幼児親子対象のプログラムを展開する。加えて様々な地域住民の参加や、民生委員の協力も募る。</p> <p>・子育てプログラムの機能や効果をより多くの親子に体験してもらおうと共に、親子と地域住民が良い関係を築くことで、育児や保育に対する地域の理解を高める場とする。</p>	<p>○ランチルームの開放</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日11:30～12:00 育成室を飲食スペースとして場所を提供 <p>○幼児の運動スペース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日13:00～14:00 集会室を一輪車や卓球・ボールあそびの場として開放 ・屋上ひろば 毎週水曜日13:00～14:00 屋上を遊具で遊べるように開放 <p>○幼児の運動スペース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日13:00～14:00 集会室を一輪車や卓球・ボールあそびの場として開放 <p>○保育園の母子の集いの場（貸し部屋や行事とのコラボレーション）</p>	<p>（定員） 109名 （1クラス・69名・2クラス・40名）</p> <p>（育成時間） 通常 下校時～17:00 延長～18:00 学校休校日： 8:30～17:00 延長～18:00</p> <p>（1日の活動） 来室→宿題→遊び→おやつ→休憩→あそび→帰りの会・帰宅（延長保育）</p> <p>（学校休校時の活動） 8:30 来室→1時間勉強→遊び→昼食→休憩→遊び→おやつ→以降は（1日の活動）と同じ</p> <p>（あそび） けん玉・こま・わなげなどの昔遊びをはじめ、育成室ではままごと・レゴブロック・粘土遊び・お絵かき・読書・工作・パズルゲームなどが自由に遊べるよう、それらの器具を室内に常時設置。</p> <p>また併設されている児童館の設備や遊具を使用し、上記の遊びに加えて各種スポーツや一輪車・ボードゲームなども楽しめるよう設定している。</p> <p>（行事） 入会式・館内合宿・クッキング・遠足（年2回）・ハロウィンパーティー・水遊び・クリスマス会・節分・深川北部ドッチボール大会・お別れ遠足</p> <p>（毎月のプログラム） 誕生日会・キングコンテスト（ゲーム会）・おたのしみおやつ・手づくりおやつ・避難訓練</p> <p>（その他） ・新規入会児童対象説明会（3月） ・保護者会（5月・7月・3月） ・個人面談（11月～12月） ・クラブだより（毎月1回発行） ・父母会主催の交流会（年2回）</p>	<p>月間活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手芸タイム ・わなげ大会 ・一輪車検定 ・おはなし会 ・ビデオシアター ・わくわくひろば ・手づくり工作 ・映画会 ・スポーツ大会 ・避難訓練 ・将棋の会 <p>週間活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツタイム（5つの種目を日替わりで展開） ・1年生組織活動（1年生スマイルクラブ） ・2・3年生組織活動（2・3年生スマイルクラブ） ・高学年組織活動（高学年スマイルクラブ） ・習字の会 <p>年間行事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こどもの日スペシャル（地域めぐりラリー） ・相撲大会 ・夏まつり ・キャンプ（2～6年生） ・秋まつり ・いもほり遠足（低学年） ・1年生合宿（1年生） ・おでかけ合宿（高学年） ・クリスマス会 ・冬まつり ・雲柱社交流ドッジフェスタ ・深川北部ドッジボール大会（低学年） ・国際交流まつり ・親子遠足 ・出前児童館 <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おたよりの発行（月1回） 	<p>日常利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開館時間 月曜日～土曜日 9:00～19:00 第1・3・5日曜日 9:00～18:00 ・中高生専用時間（中高生タイム） 18:00～19:00 <p>活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ大会 ・クッキング ・手芸教室 ・クリスマスパーティー ・木工工作 <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビリヤードセットの設置 ・ダーツの設置 ・中学生用雑誌、おもちゃの設置 ・おたよりの発行（月1回）

< 2 > 職員構成

- ・館長 1名
- ・統括リーダー 1名
- ・児童厚生員 4名
- 内 児童館担当 2名
- 学童担当 2名

< 3 > 研修

- ・施設内研修
- ・児童館ブロック研修
- ・法人研修
- ・所属する自治体の研修
- ・その他の研修

< 4 > その他

- ・土曜江東きつずクラブ平野
主に、明治小学校と元加賀小学校の子ども達を対象にした活動

- ・法人間の合同プログラム

2012年度 雲柱社 児童館ブロック事業計画

<p>児童館ブロック 事業目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちは、みんなの居場所となる児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちが多くの人と出会い、遊びや行事などへの参加を通して社会力を培う児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちやその家庭が抱えている問題を担う児童館を目指します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちは、世界の人たちと共に生きるための学習や異文化体験、ボランティア活動などに取り組む児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちが平和を愛し、差別や偏見に立ち向かう力を育む児童館を目指します。
-------------------------	---	--

施設名 亀戸児童館

記入者 永澤 和男

< 1 > 事業計画

	子育て支援活動（乳幼児・親）	幼稚園児を対象とした活動	学童クラブ	小学生を対象とした活動	中高生/その他を対象とした活動
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・親子の関わりの楽しさを知り、成長を喜び合う場となる ・親同士のつながりのきっかけを作り、地域で子育てを支える場となる ・育児に関する悩み・ストレス解消の手助けとなること 	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期から中学生までの継続した受け皿となるために、幼稚園児も利用しやすい環境や活動を設ける。 ・遊びや経験を通して子どもたちの体力増進、情操の発達を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後並びに学校休業日、保護者が就労その他の理由で不在家庭の児童を対象に、生活の安全と楽しい遊び、様々な体験の場を提供し、その発達を支援する。 ・江東区条例に沿って事業を行う。 ・保護者と協力し、円滑なクラブ運営を行い、子供たちの成長発達に必要な支援をしていく。 ・地域の人との交流や協力により、地域に根ざした学童クラブを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子どもたちが自由に来られる居場所となる ・身体・運動機能発達、体力増進を図る ・遊びと様々な人間関係や体験からの学びにより心身の育ちを支援する。 (社会性、協調性、自分で考え行動できる想像力、生活技術、他) ・地域、社会、世界に関心を持ち、他者理解、思いやりの心を育てる場となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツや遊びの充実、様々な交流を通して、安心できる居場所となる。
活動の内容・行事等	<ul style="list-style-type: none"> ◆年齢別クラス活動 <ul style="list-style-type: none"> ・0歳児低月齢クラス（赤ちゃんばんだクラス） 毎週金曜日 10:00～10:45 ・0歳児高月齢クラス（ばんだクラス） 毎週金曜日 11:00～11:45 ・1歳児クラス（うさぎクラス） 毎週火曜日 10:30～11:15 ・2歳児クラス（こあらクラス） 毎週木曜日 10:30～11:15 ・3歳児クラス（りすクラス） 毎週木曜日 14:00～15:00 ◆日常活動 あそび場、プレイルーム、パパと遊ぼう、歌とお話、等 ◆子育て講座（年3回以上） ◆年間行事 子供服リサイクル、リフレッシュ企画、乳幼児運動会、 夏休み特別活動（水遊び等）、親子遠足、劇団公演、クリスマス会 (全館行事) こどもの日、なつまつり、ふれあいまつり 	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園児（親子）向け活動 <ul style="list-style-type: none"> ・集会室幼児優先時間（平日午後） ・設定活動（週1, 2回） 幼児の身体作り、製作、音楽活動など行う 年間行事 夏休み特別活動 全館行事 	<ul style="list-style-type: none"> ◆育成時間 <ul style="list-style-type: none"> ・通常時間 学校終了後～17:00 ・延長育成 17:00～18:00 ・学校休業日（振休、長期学校休業期間、等） 8:30～18:00（必要に応じて8:00～） ◆年間行事 入会式、交通安全運動、季節の製作、観劇会、 亀戸レストラン（昼食会）、遠足、引き渡し訓練、 クリスマス会、大掃除、思い出行事、 地域の施設訪問、乳幼児との交流 ◆月例 誕生日会、布芝居制作、防災訓練 	<ul style="list-style-type: none"> ◆児童館の施設利用 利用時間 午前9:00～午後6:00 ◆学年別グループ活動『かめっ子』 遊ぶ、学ぶ、ボランティアを活動の柱として交流する定例活動。 かめっ子1, 2年生 毎週金曜日4:00～5:00 かめっ子3, 4年生 毎週木曜日5:00～6:00 かめっ子5, 6年生 毎週火曜日5:00～5:00 ◆スポーツ活動 設定スポーツ、一輪車タイム、卓球クラブ、各種大会 文化活動 創作活動、おはなし会、クッキングなど ◆年間行事 1年生歓迎会、こどもの日、なつまつり、江東こどもまつり、亀戸地区まつり、交流フェスタ、クリスマス会、交流ドッジフェスタ、ふゆまつり、日帰り外出、館内合宿、キャンプ、等 ◆その他 地域清掃、エコキャップ収集、 使用済み古切手収集 	<ul style="list-style-type: none"> ◆利用時間 月曜日～土曜日 午後7:00まで 日曜日 午後6:00まで 集会室は 通常は5:00～7:00 小学生活動と棲み分けを行う ◆年間行事 中高生イベント、企画会議（自由に話したり意見を企画にしていこう） 学習会 ◆その他 ・中学生（高校生）たちの自主活動そ積極的に支援（場所提供、用具、その他）していく。 ・ボランティア活動、体験学習活動

< 2 > 職員構成

- ・館長 1名
- ・統括リーダー 1名
- ・児童厚生員
内 児童館担当 2名
学童担当 2名

< 3 > 研修

- 施設内研修
- 児童館ブロック研修
- 法人研修
- 所属する自治体の研修
- その他の研修

< 4 > その他

土曜江東きつずクラブの実施

2012 年度 雲柱社 児童館ブロック事業計画

児童館ブロック事業活動	<p>1 私たちは、みんなの居場所となる児童館を目指します。</p> <p>2 私たちは、子どもたちが多くの人と出会い、遊びや行事等への参加を通して 社会力を培う児童館を目指します。</p> <p>3 私たちは、子どもたちやその家庭が抱えている問題を受け止め、共に担う児童館を目指します。</p> <p>4 私たちは、世界の人たちと共に生きるための学習や異文化体験、ボランティア活動など に取り組む児童館を目指します。</p> <p>5 私たちは、子どもたちが平和を愛し、差別や偏見にたち向かう力を育む児童館を目指します。</p>
-------------	---

施設名 汐入ふれあい館

記入者 鶴澤 陽

< 1 > 事業計画

	子育て支援活動(乳幼児・親)	小学生	中学生・高校生	成人・高年者(高齢者)	貸室・貸館
活動目標	地域で乳幼児の子育てをしているお母さんたちが集い・交流し、子どもとの関わりを楽しみ、子育ての情報交換や悩みを相談できる場と活動を提供して子育て支援をしていく。	学校とは異なる環境で、異年齢の交流を大切にしつつ、遊びやグループ活動を通し、子どもの生きる力や社会力を培っていく。	学校や家庭とは異なった他者との関係や友人関係を広げながら、その関わりの中で自立への力を積み重ねるようにしていく。	地域の成人・高年者(高齢者)の方々の居場所・交流の拠点として、プログラムや自主的な活動の支援を企画展開していく。日常の生活を豊かにし、楽しめる活動を提供していく。	地域の方々の、自主的な活動の拠点を提供する。
活動の内容・行事等	<p>クラス活動(予定)</p> <p>0歳児〔毎月曜日〕 ひよこクラス(10:15~45) こぼんだクラス(10:15~45) ぱんだクラス(11:15~45)</p> <p>1歳児〔毎火曜日〕 こうさぎクラス(10:10~50) うさぎクラス(11:10~50)</p> <p>2歳児〔毎木曜日〕 りおクラス(10:30~11:30) 2歳児〔毎金曜日〕 こあらクラス(10:30~11:30)</p> <p>3歳児〔毎水曜日〕 ひつじクラス(14:00~45)</p> <p>4,5歳児〔毎木曜日〕 きりんクラス(15:00~45)</p> <p>子育て講座 救急法、歯の話、講演会等</p> <p>その他行事等 観劇、ハロウィン、クリスマス等 こども服リサイクル等</p> <p>育児相談〔保健所共催〕 プレイルーム開 プレイパーク(多目的室開放)等</p>	<p>多目的室 設定スポーツを実施する ドッジボール、バスケットボール、サッカー等 自由遊び 一輪車、縄跳び、レクリエーションゲーム等 一年生タイム(一年生の時間) 創作室 自由工作、折り紙タイム、絵手紙タイム、絵手紙教室(講師)、木工製作、手芸タイム等 図書室 お話し会：素喃、パネルシアター、紙芝居、読み聞かせ、手話と歌等 サロン 百人一首、オセロ、他ゲーム等 和室 映画会等</p> <p>年間行事 夏祭り、ふれあい祭り(秋祭り)、クリスマス等 小学生クラブ(登録制)ソルティークラブ(高学年組織活動) スポーツ、料理、ボランティア等</p> <p>区・地域 行事 南千住なかよし祭り、汐入町会文化祭、南千住新春たこあげ大会、荒川区ふれあい館交流フェスタ等</p>	<p>中学生タイム 多目的室 月～金曜 18:00~18:45 主に多目的室 バスケット、卓球等</p> <p>設定スポーツ大会 水、土曜日 17:00~18:45 土曜日 18時まで高学年と合同</p> <p>サロン 月～日曜日 18:00~19:00 雑誌、ゲーム類、手芸等</p> <p>図書室〔不定期〕 手芸、学習等</p> <p>洋室 第2水曜日 リトルキッチン おやつ作りと交流</p> <p>行事 クリスマス会 新年会 体験学習キャンプ 他館合同スポーツ大会 館活動の手伝い体験、ボランティア体験 各種ボランティア活動等</p>	<p>大人のスポーツタイム 毎火曜日 14:00~15:00 卓球 ニューススポーツ等</p> <p>卓球タイム 毎木曜日 13:00~14:30</p> <p>健康体操 毎火曜日 13:00~14:00 健康な生活を目指しストレッチ等を取り入れ、基礎的な運動を行う。</p> <p>その他、踊り、カラオケ、わなげ、パソコン体験(文字入力等の基本的な操作、インターネット体験、等)、書道タイム、絵手紙教室、カラオケ、映画会等</p> <p>ふれあい寄席(年1回)ころぼん体操(原則毎週)の実施〔区規定〕</p> <p>サロン：マッサージ機、血圧計、ヘルストロン、雑誌等の利用</p> <p>南千住演芸会、汐入町会文化祭、南千住ふれあい祭り等に参加の支援等</p>	<p>全て区規定による。 原則として 平日 19:00~22:00 日祝祭日 9:00~22:00 に貸し出しを行なう。</p> <p>図書室、創作室、和室、多目的室の貸し出し業務等(含予約業務)を行う。 ※使用料は荒川区に提出〔公金〕 館の備品等の貸し出し等に協力。 ※公務等(区の指示の業務)による貸し出しと協力を行なう。</p>

< 2 > 職員構成

- ・ 館長 1名
- ・ 統括リーダー 1名
- ・ 児童厚生員 6名

< 3 > 研修

- ・ 法人研修
- ・ 児童館ブロック研修
- ・ 施設内研修
- ・ 荒川区(所属する自治体)の研修
- ・ その他の研修

< 4 > その他

- ・ 年末年始以外は、全日開館。(8:30~22:00)
- ・ 関連する事業
学童クラブの統括管理
 - ・ 汐入学童クラブ
定員 60名
 - ・ 汐入小学童クラブ
定員 80名
- ※荒川区は待機児を出さなという方針なので、申請があれば定員を超えても受け入れる(区の決定)。
※各学童クラブは、障がい児を受け入れている。
※荒川区は、条例上、学童クラブは、ふれあい館とは別個の施設と規定されている。
※2012年度は、法人の方針により、七峡小学童クラブは、町屋ふれあい館(新規)の管轄下になる。

指定管理
汐入

2012年度 雲柱社 児童館ブロック事業計画

<p>・私たちは、みんなの居場所となる児童館を目指します。</p> <p>児童館ブロック</p> <p>・私たちは、子どもたちが多くの人と出会い、遊びや行事などへの参加を通じて社会力を</p> <p>事業目標</p> <p>培う児童館を目指します。</p> <p>・私たちは、子どもたちやその家族が抱えている問題を受け止め、共に担う児童館を目指します。</p>	<p>・私たちは、世界の人たちと共に生きるための学習や異文化体験、ボランティア活動などに取り組む児童館を目指します。</p> <p>・私たちは、子どもたちが平和を愛し、差別や偏見に立ち向かう力を育む児童館を目指します。</p>
--	---

施設名
狛江市立岩戸児童センター

記入者 日下 美恵子

< 1 > 事業計画

	子育てひろば事業	学童クラブ	小学生を対象とした活動	中・高校生を対象とした活動
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児と保護者の安心した居場所となる。 ・保護者が保護者同士や異世代間の交流を持ち、視野を広げる場となる。 ・地域に存在する子ども家庭支援システムと、有機的な協力体制を構築し、ソーシャルワークの視点に立つ相談、支援サービスを実施する。 ・支援センターとして関係機関とのネットワークを形成し、虐待の予防・防止対策に取り組んでいく。 ・利用者との関わりや、相談事業を充実させる (お母さんの自主プログラム実施、グループ懇談や参加型講座) 	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな生活背景を持つ子どもを受け止めながら、児童が安心して過ごせる場所となる。 ・自由な遊びの時間を通じて児童の心と体の成長を促す。 ・学習の場を設け、声かけとともに宿題などのサポートをする。 ・児童と児童、児童と職員間の交流を通じて人格の交流をもつ。 ・児童センターとの併設を活かし、異年齢集団での人間関係を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自由来館児童を積極的に受け入れる。 ・日常活動を大切にし、地域の子どもたちの居場所となるよう丁寧な受け入れをする。 ・児童センターを中心とした異年齢、異世代間の交流をはかる。 ・スポーツ・児童文化等に親しむ場、生活スキルを学ぶ場となる。 ・地域交流活動を積極的に取り入れ、地域に根差した児童館を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中高生来館を積極的に受け入れる。 ・中高生ボランティア活動の促進 社会参加の場となる。 ・近隣中学の職場体験を受け入れる。 ・スポーツ活動の推進をする。

< 2 > 職員構成

・センター長 1名

・主 事 1名

・児童厚生員 4名

内 児童館担当 2名

学童クラブ担当 2名

活動の内容・行事等	<p>子育て相談事業</p> <p>プレイルーム開放 9:00～18:00</p> <p>つどいの場提供事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よちよちクラブ (1才親子活動) ・とっとこクラブ (2才親子活動) ・ねんね赤ちゃんプレイルーム ・わんぱくプレイルーム <p>子育て啓発事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たんぼぼThinking ・Nobody's Perfect～市担当課との共催事業～ <p>その他併設する子ども家庭支援センターとの共催事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・班活動を通じての生活体験 ・学童児独自の活動実施 (誕生日会、遠足、料理など) ・親子参加の活動や保護者向け活動 親子交流会、保護者会 行事の保護者ボランティア募集 <p>定員 概ね50名</p> <p>内障がい児 7名</p> <p>育成時間 通常下校時～19:00</p> <p>休校日 8:00～19:00</p> <p>延長保育 19:00～20:00</p> <p>対象 小学1年生～6年生</p>	<p>《日常プログラム》</p> <p>スポーツタイム スポーツ大会 卓球教室 ロッキースイッチキッズ おはなし会 手作りタイム 工作タイム 料理タイム 折り紙教室 スタッフタイム</p> <p>夏休みプログラム (ウォーターアドベンチャー・火おこしチャレンジ)</p> <p>《組織活動》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生ロッキークラブ ・2、3年生ロッキークラブ ・高学年ロッキークラスリートクラブ ・高学年ビストロッキークラブ ・JJクラブ <p>《行事》</p> <p>1年生歓迎会 センター合宿 えんにちサマーキャンプ 家族キャンプ ファミリーデー 春まつり 遠足 法人ドッジフェスタ 法人交流フェスタ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中高生スポーツタイム (月～土曜日18:00～19:00) ・中高生スペシャルタイム(隔月1回) <p>※スポーツやお菓子作りなど</p>
-----------	--	---	--	---

< 3 > 研修

・職場内研修

・児童館ブロック研修

・法人研修

・外部研修

重点課題	<p>全体業務・行事 図書室開放、図書貸出、えんにち、クリスマス会、春まつり、他</p> <p>①利用者のニーズに丁寧に応えることのできる、専門性をもった職員集団を目指す。</p> <p>②他機関との連携とともに、センターの独自性を活かし地域にあって喜ばれる施設となる。</p> <p>③各事業の目的をはっきりと持ち、内容の充実をはかり、日常活動を活性化させる。利用者との共感関係を持ち、センターから地域の子ども文化や子育て情報を発信する。</p>	<p>< 4 > その他</p> <p>狛江市関係機関との連携</p>
------	--	---

指定管理

岩戸

2012年（平成24年）度事業計画書

施設名 狛江市子ども家庭支援センター
 記入者 日下 美恵子

指定管理

狛江支援セ

<p>事業の内容と展開</p>	<p>1. 子ども虐待防止対策事業 ○虐待通告・相談の窓口：市担当課と共に第一の窓口を担う。必要に応じて情報収集し、協議のうえ、関係機関を召集・サービス提供・指導・訪問などを適宜行う。 ○見守りサポート事業：児童相談所と連携し、虐待家庭等に対して、訪問・サービスの活用等の支援を行う。 ○虐待防止支援訪問事業：健康支援課・保健所等の関係機関と連携し、虐待等を未然に防止するため訪問等を行う。 ○育児支援ヘルパー事業：要支援家庭のための産前・産後支援ヘルパー派遣 ○在宅サービス基盤整備事業：養育家庭の普及に努め、体験発表会等を開催する</p> <p>2. 地域組織化事業 ○ねんね赤ちゃんプレイルーム・はいはいクラブ・よちよちクラブ・とっとこクラブ ○たんぽぽほっと room （4回連続講座 年間2回） ○Nobody's perfect ～市担当課との共催事業 年間3クール実施～ ○出張「子ども家庭支援センター」～野川たんぽぽひろば～ （月1回） ○すくすく測定・わくわく time・子ども服リサイクル ○たんぽぽ Thinking （年4回） ○季節の行事 （すいとん・えんにち・ハロウィン・クリスマス） ○Daddy's Kitchen （父親の料理企画 年間3回） ○リフレッシュヨガ、ベビーマッサージ （各年間3回）</p> <p>3. 子育て相談事業 ○ひろば相談 ○面接相談 ○電話相談 ○FAX・メール相談 ○専門相談（心理発達） ○あいとびあ出張育児相談（健康支援課による測定、保健師・助産師・栄養士・歯科衛生士による相談）</p> <p>4. サービス提供事業 ○一時保育 ○ショートステイ ○育児支援ヘルパー</p> <p>5. 情報提供 ○地域子育て情報の提供 ○ホームページでの情報発信 ○リサイクル情報 ○たんぽぽ通信 ○意見箱設置・センターからの返答掲示板 ○利用者同士のおすすめ情報掲示板</p> <p>6. ネットワーク・人材育成 ○各専門機関の担当者との連携強化 ○母親学級や3・4ヶ月健診などへの出張 ○運営協議会開催 ○近隣小学校・中学校へのボランティアの募集 ○スーパービジョン会議 ○ボランティア講座の講師</p> <p>7. スーパーバイザー ○龍野陽子（子どもの虐待防止センター 元専任相談員）</p>	<p>事業目標</p>	<p>目 標 <共に生きる・共に育てる></p> <p>1 私たちは、地域の子どもとその家族一人ひとりが、神に愛され、生かされているという事実に立って事業を行います。 2 私たちは、地域の子どもとその家族一人ひとりの人格と個性を尊重し、子ども達が心身ともに健やかに育つ街や社会を作ることを目指します。 3 私たちは、センターがそこに集うすべての子どもと大人にとって、安全で安心、大切にされていると感じることのできる場となるように日々努力します。 4 私たちは、地域の子どもとその家族か抱える問題を受け止め、よりよい解決に向えるよう、専門性に基づき対応します。 5 私たちは、地域の人々や他の専門機関と連携して、子どもとその家族のニーズにあわせて、必要な支援を行うことに努めます。</p>
<p>ネットワーク事業の展開</p>	<p>○児童相談を担う機関として、地域における子ども家庭支援システムと協力体制を構築し、ケースマネジメント手法により、子どもと家庭の問題に適切に対応する。 ○子育て相談、虐待に関する相談・通告等に対して、市担当課との密な連携の下、役割分担・連絡調整を明確化し、必要に応じて関係機関を召集して個別ケア会議を行う。 ○狛江市子ども家庭支援ネットワーク（要保護児童対策地域協議会）において、調整機関である市担当課と共に、各会議の企画・準備・開催や子ども虐待防止対策事業等、支援センターの役割を果たす。</p>	<p>方針・展開</p>	<p>1 ひろば事業 ・乳児と幼児がそれぞれ安全に過ごせるような環境を設定し、来館する親子が安心して過ごせる居場所となるようにスタッフが配慮していく。 ・センター内のひろば活動だけでなく、市内の遊びの広場や地域センターなどへの出張ひろばを展開し、センターの広報活動を充実させる。また、遠くてセンターまで来所できない家庭とのつながりをつくっていく。 ・近隣小学校・中学校保護者のママさん保育ボランティアをはじめ、手づくりおもちゃグループなどのボランティア活動を定着・拡大させていくとともに、利用者の中からも趣味や特技を活かしたプログラムの企画を実現していく。</p> <p>2 相談事業 ・スーパービジョン会議には、非常勤職員も出席し、先駆ケースだけでなく、ひろばや電話相談などでの対応が難しいケースもスーパービジョンを受けていく。また、職員会議等にも、状況に応じて保健師や他の専門機関を招き、ケースの情報共有をしていく。 ・3・4ヶ月健診への出張事業や必要に応じて新生児訪問に同行するなど、保健師・助産師との連携を強化し、相談やサービス提供に繋げていく。</p> <p>3 サービス事業 ・センターまで申請に来所できない家庭、または今後センターの支援が必要とされる家庭に対しては、センター職員が訪問をして申請書類を記入してもらうなど、きめ細かい配慮をしていく。また、受け入れ先の保育ママやヘルパー、児童養護施設などとの連携を強化し、利用前後のフォローを心掛ける。</p> <p>4 先駆型子ども家庭支援センター事業 ・狛江市子ども家庭支援ネットワーク（要保護児童対策地域協議会）において、関係機関と日常的に「顔の見える」連携のもと、虐待対応に努める。 ・虐待防止対策において、市担当課と協働のもと、通年を通して「オレンジリボン」の普及・啓発活動に工夫した取り組みを行う。併設の岩戸児童センター高学年組織活動時に作成した、貼り絵のオレンジリボンポスターを、通年を通して市内関係機関にリレー方式で掲示する。また、職場体験の中学生や児童センター利用時と共に作成した手づくりオレンジリボンを配付する等、普及啓発活動に努める。 ・在宅サービス整備基盤事業において、養育家庭体験発表会のみならず、関係機関に向けた学習会の開催・里親月間時の啓発活動等にも力を入れていく。</p> <p>5 狛江市のファミリー・サポート事業への関与</p>
<p>環境整備</p>	<p>1 明るく清潔で、来館した親子が安心して過ごせるような環境づくりを心掛ける。 2 0から3歳の子ども達が、好きな遊びを見つけて、十分に楽しめるような環境設定をしていく。 3 ボランティアや利用者参加による環境整備の充実（フェルトの手づくりおもちゃ・遊具の消毒など） 4 玩具・絵本・大人向け図書の充実 5 赤ちゃんコーナー・授乳コーナーの環境整備や充実</p>	<p>職員構成</p>	<p>センター長 1名 岩戸児童センター長との兼務 子ども家庭支援ワーカー 2名 非常勤支援ワーカー 1名 専門相談員（子ども家庭支援ワーカーが兼務）2名 地域活動ワーカー 1名 虐待対策ワーカー 1名 スーパーバイザー 1名</p>
		<p>主な研修</p>	<p>○職場内研修 ○法人主催研修（経験年数別・ブロック別・次世代育成） ○東京都子ども家庭支援センター自主研究会 ○子どもの虐待防止センター主催研修会 ○東京都主催研修各種 ○東京都精神福祉保健センター研修 ○子育てセンター実践研究会実践交流セミナー ○こころの健康財団精神保健講座</p>

2012年度 雲柱社 児童館ブロック事業計画

児童館ブロック 事業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちは、みんなの居場所となる児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちが多くの人と出会い、遊びや行事などへ参加を通して社会力を培う児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちやその家族が抱えている問題を受け止め、共に担う児童館を目指します。 ・私たちは、世界の人たちと共に生きるための学習や異文化体験、ボランティア活動などに取り組む児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちが平和を愛し、差別や偏見に立ち向かう力を育む児童館を目指します。
-----------------	---

施設名 和泉児童館

記入者 松元 新

< 1 > 事業計画

	子育て支援活動	小学生クラブ (学童)	小学生を対象とした活動	中高生を対象とした活動
活動 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・親が子育てにおける疑問や悩みを相談できる場、母親同士の交流の場の提供をする。 ・親子向けに組織活動を中心として、様々な活動を行う中で、子育て支援をはじめ母親のメンタルサポート等を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就労支援と放課後対策として学童を運営する。さまざまな生活背景を持つ子どもを受け止めながら、児童が安心して過ごせる場所となるようにする。 ・児童と職員間が人格の交流を持つ。 ・児童館併設型施設の利点を生かして、異年齢集団での人間関係を学べるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般来館者を積極的に受け入れる。 ・スポーツ、児童文化などに親しむ場。生活スキルを学ぶ場となるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般来館者の積極的受け入れ。 ・ボランティアを中心とした活動へのサポートを行う。 ・表現活動を通じた思春期で悩む児童への支援。 ・全ての中・高生の居場所の創造。
活動 の 内 容 ・ 行 事 等	<ul style="list-style-type: none"> ◆乳幼児子育て組織活動 (以下↓) ・妊婦クラス カンガルー ・0歳児クラス こぼんだ ・0歳児クラス ぼんだ ・1歳児クラス こうさぎ ・1歳児クラス うさぎ ・2・3歳クラス こあら ◇その他の日常活動 (以下↓) ・子育て広場運営 (ひまわりルーム) ・子育て相談員による子育て相談 ・ひまわりリトミック ・すくすく測定 (月の身体測定) ・地域での運動会 (ファミリーデー) ・子ども服リサイクル ・お母さんのリフレッシュ託児つき企画 ・わんぱくタイム (屋内・野外) ・わらべ唄と絵本の会 ・ひまわりコンサート ・狛江市栄養士会によるゼミナール ・お母さんの手作りタイム ・お母さんの折り紙教室 ・ベビーダンス ・ベビーオイルマッサージ ・乳幼児クリスマス会 ・児童館秋祭り ・児童館焼き芋 ・SL企画 ・バーベキュー 	<ul style="list-style-type: none"> ◆月プログラム (以下↓) ・わなげ大会 ・買い物おやつ ・誕生会 ・ロッカー掃除 ・手作りおやつ ・ランチ会 ◇その他のプログラム (以下↓) ・入室式 ・保護者懇談会 ・個人面談 ・利用アンケート ・バザー ・ダンスサークル (ポップキッズ) ・三味線教室 ・障害児のための音楽タイム ・夏の水遊び (プール) ・渋谷交歓フェスタ出場 ・小学生クラブディキャンプ ・親子での晩ごはん会 ・凧揚げ ・小学生クラブクリスマス会 ・児童館秋祭り ・児童館焼き芋 ・SL企画 ・バーベキュー 	<ul style="list-style-type: none"> ・1、2年どんぐりクラブ (組織活動) ・IzumiAdventureClub (3、4年生組織活動) ・野人王国 (組織活動) ・チームD (組織活動) ・1年生歓迎会 ・黒川キャンプ ・黒川デイキャンプ ・高学年アニメ会 ・一輪車検定 ・スポーツ大会 ・おりがみ教室 ・映画会 ・館内合宿 ・三味線教室 ・体験学習ワークキャンプ ・秋キャンプ ・市民祭り出場 ・市民平和のフェア出場 ・渋谷交歓フェア出場 ・岩戸10周年記念出場 ・小学生クリスマス会 	<ul style="list-style-type: none"> ・中高生タイムの実施 ・中高生クラブ (組織活動) ・中高生スペシャルタイム ・ボランティアの積極的受け入れと育成 ・デジタル機器プログラム ・食べ物企画 ・学習スペースの提供 ・中学校における体験学習の受け入れ ・館内合宿 ・体験学習ワークキャンプ

< 2 > 職員構成

- ・館長 1名
- ・統括リーダー 1名
- ・児童厚生員 4名

< 3 > 研修

- ・施設内研修児童館ブロック研修
- ・児童館ブロック研修
- ・法人研修
- ・所属する自治体の研修
- ・その他の研修
- ・ミッション研修

< 4 > その他

2012年（平成24年）度事業計画書

施設名 狛江市ファミリー・サポート・センター
 記入者 常務理事 小磯 満

事業の内容と展開	<p>「育児のお手伝いをしてほしい方（利用会員）」と「育児のお手伝いをしたい方（サポート会員）」をお互い引き合わせコーディネートすることで、地域で子どもたちを共に育てていく関係を拡げていく。 また、地域に福祉の心を根付かせ、互いに助け合える相互援助活動の輪を広げていく。 また、2013年1月から病児・病後児の預かり開始予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サポート会員と援助会員のそれぞれの募集、説明会、講座 ・会員の登録 ・会員の啓発 ・会員の援助活動の調整 ・サポート会員の講習 ・会員同士の交流会 ・会員のトラブルへの助言 ・通信を発行すること ・ステップアップ交流 ・小金井・小平また近隣のファミサポ連絡会 ・AED講習会 ・お母さんのリフレッシュのための託児つき企画 	<p>目 標 <共に生きる・共に育てる></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 私たちは、地域の子どもとその家族一人ひとりが、神に愛され、生かされているという事実を立てて事業を行います。 2 私たちは、地域の子どもとその家族一人ひとりの人格と個性を尊重し、子ども達が心身ともに健やかに育つ街や社会を作ることを目指します。 3 私たちは、センターがそこに集うすべての子どもと大人にとって、安全で安心、大切にされていると感じることのできる場となるように日々努力します。 4 私たちは、地域の子どもとその家族が抱える問題を受け止め、よりよい解決に向えるよう、専門性に基づき対応します。 5 私たちは、地域の人々や他の専門機関と連携して、子どもとその家族のニーズにあわせて、必要な支援を行うことに努めます。
		<p>職 員 構 成</p> <p>アドバイザー 4名</p>
		<p>主 な 研 修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人研修 ・所属する自治体の研修 ・その他の研修 ・ミッション研修

2012年度 雲柱社 児童館ブロック事業計画

<p>児童館ブロック</p> <p>事業目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちは、みんなの居場所となる児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちが多くの人と出会い、遊びや行事などへの参加を通して社会力を培う児童館を目指します。 ・私たちは、子どもやその家族が抱えている問題を受け止め、共に担う児童館を目指します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちは、世界の人たちと共に生きるための学習や異文化体験、ボランティア活動などに取り組む児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちが平和を愛し、差別や偏見に立ち向かう力を育む児童館を目指します。
----------------------------	--	--

施設名 たまだいら児童館ふれっしゅ

記入者 八重田 裕一郎

< 1 > 事業計画

	子育て支援活動（乳幼児・親）	学童クラブ	小学生を対象とした活動	中・高校生を対象とした活動
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 乳幼児と保護者（妊婦含む）が安心して過ごすことのできる居場所となる。 <input type="checkbox"/> 出会いの場、交流(子ども・保護者・家族)の場となる <input type="checkbox"/> 地域との連携・協働を通しての「子育て支援」と「子育て支援」の実施 	/	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 多くの他者との出会い・交流を通し子どもたち一人ひとりが感じ、考え、実行することのできる活動を目指す。 <input type="checkbox"/> 子どもたちが平和を創り出す力を育む活動とする。 <input type="checkbox"/> ボランティア活動を通し「受ける喜びよりも与える喜びを」の実践を目指す。 <input type="checkbox"/> 「人と共に生きる力」を伝え続ける実践 <p>【居場所として】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇利用しやすい環境の整備 <p>【共に創る】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇調理技術体験の実施 ◇クリスマス活動 	<p>〈子ども達の心の糧となる活動を目指す〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 出会いの場、交流の場、自己表現の場として <input type="checkbox"/> 中学生、高校生と職員の交流の充実 <input type="checkbox"/> 居場所としての機能の充実 <input type="checkbox"/> 「人と共に生きる力」を伝え続ける実践 <p>【居場所として】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇事業内容の充実 ◇職員との交流の充実 <p>【共に創る】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇中、高生活動行事への参加、企画、運営 ◇ボランティアとして <p>※日々の交流の充実を図りそこから彼らと共に活動という一つの形を創りあげていく。</p>
活動の内容・行事等	<p>【活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 月1回の定員登録制年齢別（0、1、歳児）クラス活動を実施し、居場所として、交流の場として機能していく。 ※1歳児のみ2クラス ◆ 月1回の年齢別（0、1、2、3）自由参加型活動を実施し親子同志の交流の拡大を図る。 ◆ 月2回の公園児童館（近隣の公園に職員が出向き公園利用者との交流を通し児童館をアピールする時とする） ◆ 地域活動団体との協力体制の構築より地域に根ざした活動を展開する。 <p>【日常】</p> <p>乳児と幼児がそれぞれ安心して過ごすことのできる環境を設定していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 乳幼児ルームの開放 AM9:30～PM7:00 ◆ 体育室の開放 火曜日～金曜日 土曜日、日曜日 AM10:00～PM3:00 AM10:00～PM1:00 ◆ 工作室の開放（遊び場と0・1歳児の居場所の拡大） 火曜日～金曜日：0、1歳児優先ルーム PM1:00～PM5:00 <p>【その他の活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育付講座（年2回）、親子遠足（年2回） 夕涼み会、餅つき・親子ファミリーデイ 焼いも、パンパマスポーツタイム <input type="checkbox"/> 父親参加型活動の展開 <input type="checkbox"/> 「母子健康手帳」交付受付事務 <input type="checkbox"/> 「おむつ袋」交付受付事務 	/	<p>【低学年活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆低学年タイム（月 1回） ◆低学年優先タイム（毎週水曜日） ◆親子クッキング（年 2回） ◆工作タイム（月 2回） ※年間行事：キャンプ、館内合宿 等 <p>【高学年活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆高学年タイム（月 2回） ◆登録制クッキング（月 1回） ◆子ども実行委員企画 ◆児童館ブロック体験学習キャンプ（5年生以上） ※年間行事：ハイキング、キャンプ、館内合宿 <p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ クリスマス活動 ◆ 5月子どもの日スペシャル（基幹型共催） ◆ 基幹型合同スポーツ大会 ◆ 手をつなごうこどもまつり（市内児童館合同） ◆ 被爆体験証言会◆餅つき・伝承遊び ◆ スポーツタイム（月2回）、映画会（月1回） <p>【地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 豊田駅北口商店連合会「ハロウィン祭」 ◆ 育成会「三世代の集い」◆小学校行事、授業への協力 ◆ 日野市放課後子どもプラン「ひのっち」への出向（五小・六小）◆日野ベーゴマクラブとの共催事業 <p>※雲柱社児童館ブロック合同行事への参加 ※保護者参加型活動を積極的に取り入れる。 ※子どもたちが企画・運営する行事を積極的に取り入れる。 ※ボランティア体験の充実</p>	<p>【スポーツ活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 火曜日～金曜日：18:00～19:00 土曜日、日曜日：17:00～19:00 における体育室の開放 ◆30X3大会（中、高生年 4回） ◆卓球大会（年 3回） ◆ダンス大会（講習も兼ねて）（年 2回） ※近隣中学校の先生との共催 <p>【文化活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆映画会（月 1回） ◆クッキング ◆音楽室（スタジオ）の開放 ◆音楽室交流会 ※スタジオ利用の交流の場（年3回） ◆E-69（市内児童館合同ロックコンサート） <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆基幹型児童館との合宿（年 1回） ◆体験学習キャンプ ◆スポーツ交流（年 1回） ◆ボランティアリーダーとの連携 <p>※小学生活動・地域行事におけるボランティア活動の展開</p>

< 2 > 職員構成

- ・館長 1名
- ・児童厚生員 2名
- 内 児童館担当 2名

< 3 > 研修

- ・施設内研修
- ・児童館ブロック研修
- ・法人研修
- ・所属する自治体の研修
- ・その他の研修（SDS等）

< 4 > その他

- ◇ 児童館評議委員会の開催（年2回）
- ◇ 地域行事（商店会・育成会等）への参加
- ◇ 日野市基幹型児童館の実施に伴うサービスの充実
- ◇ 子ども家庭支援センターとの連携・協働
- ◇ 市内各機関主催の連絡会への出席
- ◇ 利用者アンケートの実施

2012年(平成24年)度 事業計画書

施設名：江東区東陽子ども家庭支援センター
記入者：早川貴美子

指定管理

東陽

<p>事業の内容と展開</p>	<p>1 ひろば事業(遊びふれあいのひろば) ○親子で遊ぼう ○おはなし会 ○母の輪タイム ○季節の行事 ○3歳児グループ ○すこやかマンデー ○青空ひろば(プレイパーク)の開催、地域団体活動木場公園プレイパークとの協働 2 体験学習事業(学びあいのひろば) ○母親講座 ○父親講座 ○わらべうたで遊ぼう ○講習会(ゆる体操・リラクゼーション・ベビーマッサージ) 3 相談事業(支えあいのひろば) ○ひろばふれあい相談 ○電話相談 ○面接相談 ○専門相談(心理・家族問題) ○助産師による母と子の育児健康相談 4 子どもの成長を共に喜び合う(育て合いのひろば) ○誕生日会 ○すくすく成長記録 ○入園を祝う会 ○ふたごちゃんの集い 5 情報提供事業(わかちあいのひろば) ○センターだより「東陽みずべ かわらばん」毎月発行 ○交流掲示板、地域子育て情報掲示板、情報ファイル ○子育て情報ポータルサイト・ホームページでの情報発信・メールでの問い合わせ受付 ○リサイクル掲示板 6 人材育成事業 ○子ども家庭相談研修 ○こども家庭支援士(ひととき保育・出張ひろばへの協力者)養成講座—基礎講座・スキルアップⅠ・Ⅱ ○自主グループへの支援・協力 7 自主活動 ○ひろばミーティング(利用者参加の自主運営会議) ○ケーキサークル(年間4回) ○リサイクルバザー 8 リフレッシュひと時保育事業 9 出張ひろば ○地域のスポーツセンター(月2回)・潮見(枝川)地域にて地域子育てひろば定例開催 10 専門相談 心理相談 伊志嶺美津子(浦和大学教授 臨床心理) 家族相談 杉山由希子(東京メンタルヘルスアカデミー カウンセラー)8月まで 小川未佳(家族機能研究所 IFFセラピスト)9月から 11 スーパーバイザー 新澤誠治(みずべの会代表)・龍野陽子(子どもの虐待防止センター 元専任相談員)</p>	<p>事業目標・方針と展開</p>	<p>目標 <共に生きる・共に育てる> 1 私たちは、地域の子どもとその家族一人ひとりが、神に愛され、生かされているという事実に基づいて事業を行います。 2 私たちは、地域の子どもとその家族一人ひとりの人格と個性を尊重し、子ども達が心身ともに健やかに育つ街や社会を作ることを目指します。 3 私たちは、センターがそこに集うすべての子どもと大人にとって、安全で安心、大切にされていると感じることのできる場となるように日々努力します。 4 私たちは、地域の子どもとその家族が抱える問題を受け止め、よりよい解決に向えるよう、専門性に基づき対応します。 5 私たちは、地域の人々や他の専門機関と連携して、子どもとその家族のニーズにあわせて、必要な支援を行うことに努めます。</p> <p>方針 1 プレハブ仮設建屋(7月から年度末3月まで)でのひろば活動の充実 ・今までのひろばより手狭な仮設プレハブ建屋でのセンター事業となるが、これまでと同じく親子が安心して過ごせるひろば、乳幼児期の子どもたち存分に遊びを楽しめるひろばの環境を創っていく。ひと時保育も仮設センターにおいては、ひろばでの保育という形態になるがひろば型のメリットを発揮できるよう、スタッフ、支援士の協力、連携を図っていく。 ・日常の親子とのかかわりを丁寧に行なう中で安心できる関係を築きながら、子育てにかかわること家族に関する相談に対して問題の解決の方法をともに考えていく。 ・親同士の繋がりが豊かになるよう、まだ慣れない人や一人で来ている人へのサポートを心がける。 ・ひろばミーティングやアンケート調査で出された意見や、日常の会話の中からも来所者のニーズをとらえ、ひろばの環境づくり、プログラムの内容等について利用者、ボランティアと共に検討し実現できるようにしていく。 ・地域住民、関係機関の協力を得ながら、センター来所が困難な地域に出張ひろばを定期的で開催して行く。実施においてはスタッフとボランティアとの協働で行っていく。 2 相談活動の充実 ・子どもや親自身、また家族について安心して相談できる場を提供し、子どもと家族を支援する。 ・親自身の決断や考えを尊重し、隣に寄り添う姿勢をもつ。 ・専門相談員とのケースカンファレンス、ひろばのケース検討会などを定例で行い、親子への理解を深め、具体的な対応、支援の方向性を共有していく。 ・児童虐待の懸念があるケースに対しては迅速に南砂子ども家庭支援センターと連携をしていく。センターの役割、できること、できないことを明確にしなが、関係機関との連携を必要に応じて図っていく。 ・子どもの育てにくさや、親の育児疲れ等に対して、ひととき預り事業を有効に活用した支援を積極的に行う。 3 ボランティアとの協働 ・子どもと家族に優しい街づくりを目指し、広く地域に開かれたひろばをつくっていく。 ・保育専門学校や地域の高校(奉仕活動)・中学(職場体験)にもセンターの活動を伝え、ボランティア活動の場として、ひろばを活用する。 ・実習生を受け入れ、若い世代が、こどもと家族の現状を理解し、今後の支援に繋げていく。 ・リフレッシュひととき保育の担い手を養成し、必要な預かりを、安心した形で行えるようにする。 ・出張ひろばや訪問等、地域での活動を通して、自分の住む地域への理解と愛着を深めてもらえるようにしていく。 ・ひろばでは新たに子ども家庭支援士の協力を得、養育困難家庭への見守りや具体的な支援を行う。</p>
<p>ネットワーク事業の展開</p>	<p>1 関係機関や地域住民との積極的な地域ネットワークづくりを推進する。 ○江東区要保護児童対策地域協議会実務者会議 深川・深川南部保健相談所開催に参加 ○児童相談所・保健相談所・福祉事務所・助産師会等との連携 ○公私立保育園・児童館・幼稚園・学校・発達センター等との連携 ○保育室・保育ママ・ファミリーサポート事業との連携 ○出張子育てひろば・相談 ○運営協議会・地域情報交換会の開催 2 相談ケースに応じた関係者会議への出席 3 区内の雲柱社各施設との協力・連携を深める</p>		
<p>環境整備</p>	<p>1 東陽区民館改修工事のため、7月から3月の9ヶ月間、仮設プレハブ建屋で事業を行う。現在のセンターでの活動は6月中旬までとなる。移転のための引越準備、仮建屋での活動準備 仮設建屋は現在のセンターより大分狭くなり、ひと時保育もひろばで行うことになるが新たな環境のもとで ○清潔で安全なひろば・保育室作り ○子どもにとっても親にとっても、自分の居場所となる安心の場、良い人間関係をつくれる場となるように配慮していく 2 絵本・遊具・図書・情報資料の充実を図る ○絵本紹介・貸し出し図書のすすめ ○新しい情報(区内関係機関情報等) 3 室内の温度・湿度の管理に注意する。室内の装飾等は家庭的な穏やかで、おうちのような温かい雰囲気を大切にする。 4 防犯カメラの管理 5 個人情報などを多く扱うので保管場所や施錠の徹底・パソコン等のセキュリティや配線を整理する</p>	<p>職員構成</p>	<p>○センター長 1名 ○子ども家庭支援ワーカー 3名 ○保育支援ワーカー 2名 ○子ども家庭支援ワーカー 2名 (非常勤) ○保育支援ワーカー 1名 (非常勤)</p> <p>主な研修 ・職場内研修 ・法人研修(全体・経験年数別・ブロック別) ・東京都福祉保健局主催各種研修 ・子どもの虐待防止センター主催研修 ・ウイメンズプラザ主催各種研修 ・東京都精神福祉保健センター主催各種研修</p>

2012年(平成24年)度 事業計画書

施設名：江東区大島子ども家庭支援センター
 記入者：篠原 喜美

指定管理

大島

事業内容の展開	1 ひろば事業(遊びふれあいのひろば) ○みんなで遊ぼう ○おはなし会 ○夏のおはなし会 ○ハローみずべ ○手型・足型 ○避難訓練 ○プレーパーク ○青空ひろば(年3回) ○クリスマス会(おはなし会)	事業目標	(目標)〈共に生きる・共に育つ〉 1 私たちは、地域の子どもとその家族一人ひとりが、神に愛され、生かされているという事実によって事業を行ないます。 2 私たちは、地域の子どもとその家族一人ひとりの人格と個性を尊重し、子どもたちが心身ともに健やかに育つ街や社会を作ることを目指します。 3 私たちは、センターがそこに集うすべての子どもと大人にとって、安全で安心、大切にされていると感じることのできる場となるように日々努力します。 4 私たちは、地域の子どもとその家族が抱える問題を受け止め、より良い解決に向えるよう、専門性に基づき対応します。 5 私たちは、地域の人々や他の専門機関と連携して、子どもとその家族のニーズにあわせて、必要な支援を行うことに努めます。
	2 体験学習事業(学びあいのひろば) ○母親講座(元氣講座 年3回・離乳食講座 年3回) ○グループ懇談会 ○自然と遊ぼう(年2回) ○父親講座(お父さんとあそぼう 年3回) ○ベビーマッサージ(年11回)		方針と展開
ネットワーク事業の展開	3 相談事業(支えあいひろば) ○電話相談 ○面接相談 ○専門相談(個別・心理・家族問題) ○子どもと母親の健康グループ相談・個別相談(助産師)	職員構成	
	4 こどもの成長を共に喜び合う(育て合いのひろば) ○誕生会 ○すこやか成長記録 ○ふたごちゃんの集い(年3回) ○入園を祝う会 ○ハローみずべ(新規利用者対象) ○フレンズクラブ(外国の方との交流)		主な研修
環境整備	5 情報提供事業(わかちあいのひろば) ○江東区子育て情報ポータルサイト ○かわら版「大島みずべ」毎月発行 ○交流掲示板 ○あげます・ください ○子育て関連・地域・リサイクル情報 ○あげます・くださいカード ○ホームページ(ひろば活動内容)・メールでの問い合わせ受付 ○みずべ雑誌帳	環境整備	
	6 ネットワーク・人材育成事業 ○運営協議会の定期的開催 ○みずべボランティア・区内子育てボランティア養成 自主活動(利用者を中心とした)及びボランティア活動 ○みずべ会議 ○リサイクルひろば ○手作りサークル ○コーラス隊 ○手作り おもちゃの会 ○フェルト名札作り ○ハンドマッサージ ○おもちゃ病院 ○ボディケア		
環境整備	7 7 リフレッシュひととき保育事業(3時間まで 定員4名)6カ月～3歳児 ○ボランティア(子ども家庭支援士)の協力を得て、理由の如何にかかわらず、安心して子どもを預け、母親自身の時間を作れるようサポートする。	環境整備	
	8 8 地域活動事業(亀戸9丁目・大島8丁目学童)の充実 新規での展開 亀戸3丁目集会所での出張ひろばの実施		
環境整備	9 9 妊娠中の方のサポート(両親) プレママ&プレパパ講座	環境整備	
	10 10 専門相談員(月1回) 家族相談 稲邑 恭子(成蹊大学・武蔵大学相談員:カウンセラー) 心理相談 山川 恵子(保健学博士) 都甲 絢子(大泉金杉クリニック精神科:心理相談員 臨床心理士)		
環境整備	11 11 スーパーバイザー 龍野 陽子(子どもの虐待防止センター 元専任相談員) 新澤 誠治(子育てひろば推進センターみずべの会代表)	環境整備	
	1 1 子ども家庭支援に関係する機関および地域住民との地域ネットワーク作りの推進 ○墨田児童相談所・城東保健相談所・福祉事務所保護第2課との連携 ○大島・亀戸の主任児童委員・地区担当民生児童委員との連携 ○城東地域 公私立保育園・児童館・幼稚園・保育室・保育ママとの連携 ○ファミリーサポート事業との連携 ○NPO等 自主子育て支援グループとの交流、支援、連携		
環境整備	2 2 相談ケースに応じた関係者会議の開催及び出席	環境整備	
	3 3 要保護児童対策地域協議会への出席		
環境整備	4 4 大島8丁目学童クラブ子育てひろば	環境整備	
	5 5 亀戸子育てひろば(出張型ひろばの活動)		
環境整備	6 6 地域児童館における地区連絡協議会への参加	環境整備	
	7 7 区・保健所・支援センター3機関の実務者会議		
環境整備	8 8 地域区立幼稚園評議委員会への出席	環境整備	
	1 1 乳幼児期のこどもが十分に遊びを楽しみ、親子が安心してくつろげる居場所となる環境作りを心掛ける ○利用者・ボランティアの参加による環境・手作り玩具の整備 ○遊びコーナーの見直しと再構成 ○室温・湿度・換気に留意する ○絵本コーナー・大人用図書の見直しと整理・大人用図書の貸し出し ○外遊びの楽しさを伝え、一緒に楽しむ ○廊下を含めた、各年齢が混在した中の安全な環境作り ○事務室も含め整理整頓に心がける		
環境整備	2 2 情報掲示板の整理と充実 ○情報の更新に留意すること(正確な情報とタイムリーな情報)	環境整備	
	3 3 防犯カメラの管理		
環境整備	4 4 AEDの設置と点検	環境整備	
	5 5 防災用情報端末の管理		

2012年（平成24年）度事業計画書

施設名 江東区深川北子ども家庭支援センター
 記入者 佐藤 貴子

指定管理

深川北

<p>事業の内容と展開</p>	<p>1 ひろば事業（遊びふれあいのひろば） ○おはなし会 ○あおぞらひろば（年3回神愛保育園と合同）○パパとあそぼう ○すこやかマンデー（年6回） ○えいごであそぼう ○あそびワーク（季節の行事・日本文化の伝承） ○喫茶 ○プレママ対象プログラム</p> <p>2 体験学習事業（学びあいのひろば） ○父親・母親講座（応急手当年2回・自然と遊ぶう年3回・プレイパーク参加） ・子育て講座・看護師さんと話そう・栄養士さんと話そう・リズム遊び・パパとあそぼう） ○講習会（ベビーマッサージ年11回・ハンドトリートメントほか）</p> <p>3 相談事業（支えあいのひろば） ○ふれあい相談 ○電話相談 ○面接相談 ○専門相談（心理・家族問題） ○グループ懇談（NP 前期・後期 全12回） ○助産師相談（年11回）</p> <p>4 こどもの成長を共に喜び合う（育てあいのひろば） ○誕生日会 ○すこやか成長記録（うち4回/年 看護師相談・栄養士相談兼ねる） ○入園を控えて懇談会 ○入園入学を祝う会 ○ふたごちゃんの集い（年3回） ○地球へようこそカードプレゼント</p> <p>5 情報提供事業（わかあいのひろば） ○センターだより「深川北みずべ かわらばん」毎月発行 ○外掲示版による地域に向けての子育て情報発信（新規） ○子育て関連・地域・リサイクル情報 ○ポータルサイト（地域子育て情報） ○ホームページでの情報発信・メールでの問い合わせ受付 ○みずべレシビ集（離乳食・こどものおやつなど） ○地域情報交換ノート ○つぶやきノート（子育て交換ノート）</p> <p>6 人材育成事業 ○各種研修の開催（子ども家庭相談研修・子ども家庭支援士養成講座・ボランティア育成） ○自主グループへの支援・協力 ○おもちゃ病院 年3回 ○ボランティア会議（年2回） ○学童との交流（にこにこひろば・あきまつり・小学生ボランティア）</p> <p>7 自主活動 ○みずべ会議（利用者とボランティアを含めた自主企画運営会議） ○ケーキサークル（年間6回） ○ママちょこタイム（利用者の特技をいかしたスポットのプログラム） ○こども服・マタニティグッズリサイクルバザー（年2回） ○ファミリーデー ○クリスマスのつどい ○なんでもエプロン（利用者がボランティアをするときのエプロン）</p> <p>8 リフレッシュ時保育事業 ○ボランティアの協力を得て、理由の如何にかかわらず、安心して子どもを預け、母親自身の時間をつくれるようサポートする。</p> <p>9 出張ひろば ①深川北スポーツセンター ②住吉地区集会所（新規） ○センターまで来ることの出来ない小さいお子さんのいる方、対人関係が苦手な方などが、近くて集まりやすい場所にひろばをひらく。地域のボランティアさんと協力し、月2回程行う。</p> <p>10 専門相談員（月1回） 心理相談 田島昌子（臨床心理士・深川北スーパーバザー） 家族相談 都甲絢子（金杉クリニック 精神科 臨床心理士）</p> <p>11 スーパーバイザー 新澤誠治・（子育てひろば推進センターみずべの会代表） 龍野陽子・（子どもの虐待防止センター） *深北にてケース会議 年4回</p>	<p>事業目標 <共に生きる・共に育てる></p> <p>1 私たちは、地域の子どもとその家族一人ひとりが、神に愛され、生かされているという事実を立てて事業を行います。 2 私たちは、地域の子どもとその家族一人ひとりの人格と個性を尊重し、子ども達が心身ともに健やかに育つ街や社会をつくることを目指します。 3 私たちは、センターがそこに集うすべての子どもと大人にとって、安全で安心、大切にされていると感じることのできる場となるように日々努力します。 4 私たちは、地域の子どもとその家族が抱える問題を受け止め、よりよい解決に向えるよう、専門性に基づき対応します。 5 私たちは、地域の人々や他の専門機関と連携して、子どもとその家族のニーズにあわせて、必要な支援を行うことに努めます。</p>
<p>の展ネットワーク事業</p>	<p>1 運営協議会 2月に開催予定 ○運営協議会を開き地域に根ざしたセンターの働きを共有化していく</p> <p>2 地域情報交換会（年2回程開催） ・子ども家庭支援に関係する機関や地域住民との積極的な地域ネットワークづくりを推進する。 ○児童相談所・保健所・福祉事務所・助産師会との連携 ○公私立保育園・児童館・幼稚園・小・中学校との連携 ○ファミリーサポート事業との連携 ○深川学童クラブとの連携と協働 ○地区民生児童委員を中心の地域懇談会や児童館との地域連絡会への参加</p> <p>2 相談ケースに応じた関係者会議の開催及び出席</p> <p>3 児童相談所とのケース会議</p> <p>4 雲柱社江東ブロックネットワークの推進</p> <p>5 要保護児童対策地域協議会 虐待ホットライン、保健相談所、支援センターとの要支援ケース報告会議</p>	<p>方針・展開</p> <p>1 ひろば活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 親子と出会った時、相手の心にふれることが、関わりの出発点であり個々の来所者が何を求めてここにいるのかを考え、きめ細かい対応を心がける。 母親、父親のもっている知識、特技、趣味などを、ひろばで発揮できる機会を作り、利用者の生き生きとした活動をサポートしていく。 親同士の繋がりが豊かになるよう、特に新規来所者や一人で来ている人へのサポートを心がける。先輩の利用者の協力を得ながら次の来所へと繋げる。 みずべ会議やアンケート調査等の充実を図るとともに、日常の会話の中からも来所者のニーズをとらえ、ひろばの環境づくりや、プログラムの内容等について利用者、ボランティアと共に検討、実現できるようにしていく。 地域の保健所・助産師・児童館・保育園などの協力を得、センターの広報活動を活発にしていく。 みずべ会議、等を通して、ひろば環境や講座の内容、プログラムについて共に検討していく <p>2 相談活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 気軽に子どもや家庭について相談ができる場を提供し、安心した中での子育てとこどもの育ちの支援を図る。 親自身の力を信じ、その判断を尊重し隣に寄り添う姿勢をもつ。 スタッフミーティングにより、個々の家族が抱える問題の整理と支援の方向性を共有する。 専門相談員とのケースカンファレンス、スーパーバイザーとのケース会を定例で行い、問題を見極め、支援の方向性を探る。 相談ケースに応じて南砂子ども家庭支援センターと連携し、訪問・関係機関への聞き取り・必要な関係者会議を行い、養育困難な家庭を地域で支えていく。 ケース会議 龍野先生のスーパーバイズを受け現場に生かしていく（年4回） <p>3 ボランティアとの協働</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもと家庭に温かい街づくりを目指し、広く地域に開かれたひろばをつくっていく。 保育専門学校や地域の小学・中学・高校等にセンターの活動を伝え、ボランティア募集を積極的に行う。 実習生を受け入れ、若い世代が、子どもと家庭の現状を理解し今後の学びや働きに繋がっていただけるように支援する 利用者同士、ボランティア同士の繋がりを構築し、自発的な活動へ展開していただけるようにサポートしていく 安心・安全・支え合い・育てあいを大切にし、ひろば活動と関わりながらリフレッシュひと時預かり保育を行っていく
<p>環境整備</p>	<p>1 乳幼児期のこどもが十分に遊びを楽しみ、親子が安心して過ごせるような環境づくりを心がける ○利用者・ボランティアの参加による環境・手作り遊具の整備 ○清潔で安全なひろば ○遊具・環境整備を定期的に行う ○親や子どもにとって、ほっとできる居場所となり、人との繋がりがつくれるようなあたたかいひろばになるように配慮していく</p> <p>2 絵本・遊具・図書・情報資料の充実を図る ○絵本紹介・貸し出し図書のすすめ ○新しい情報（区内関係機関情報等）</p> <p>3 室内だけではなく、戸外遊びの提供・推進</p> <p>4 室温管理に注意する。室内の装飾等は家庭的な穏やかで温かい雰囲気を大切にする</p> <p>5 駐輪場やセンターの外周りの清掃や季節の花を植え明るく優しい環境づくりを心がける</p> <p>6 ベビーカーでの来所者への受け入れのサポートをしていく 7 防犯カメラの管理</p>	<p>職員構成</p> <p>○センター長 1名 ○子ども家庭支援ワーカー兼地域活動ワーカー（リーダー） 1名 ○子ども家庭支援ワーカー 1名 ○保育支援ワーカー 1名 ○子ども家庭支援ワーカー（非常勤） 1名</p> <p>主な研修</p> <p>○職場内研修 ○法人主催研修（経験年数別・ブロック別・次世代育成） ○東京都子ども家庭支援センター自主研究会 ○子どもの虐待防止センター主催研修会 ○東京都主催研修各種 ○東京都精神福祉保健センター研修 ○子育てセンター実践研究会実践交流セミナー ○こころの健康財団精神保健講座</p>

<p>事業の内容と計画</p>	<p>【ひろば活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> ひろば事業（遊びふれあいのひろば） <ul style="list-style-type: none"> 親子で遊ぼう・おはなし会・水遊び・すこやかマNDER・プレイパーク・出張ひろば 体験学習事業（学びあいのひろば） <ul style="list-style-type: none"> 母親講座・子育てグループ懇談会・父親講座・ベビーマッサージ・祖父母講座 子育て相談事業（支えあいのひろば） <ul style="list-style-type: none"> ふれあい子育て相談・電話相談・面接相談・専門相談（心理、家族問題） 助産師による母と子どもの健康相談（個別およびグループ相談） 子どもの成長を喜び合う（育てあいのひろば） <ul style="list-style-type: none"> 誕生日会・すくすく成長記録・ふたごちゃんの集い・入園おめでとうの会・季節の行事 情報提供事業（分かちあいのひろば） <ul style="list-style-type: none"> センター便り「南砂みずべ かわらばん」毎月発行・ホームページ（ひろば活動内容）・子育て情報ポータルサイト・交流掲示板、地域子育て情報ファイル・日常リサイクル「あげます、ください掲示板」「どうぞの箱」 ひろばボランティア研修と交流 自主活動 <ul style="list-style-type: none"> みずべ会議（親、ボランティア、スタッフ3者による自主企画運営会議） コーラスサークル・絵本サークル・手芸サークル <p>【リフレッシュ時預かり保育】</p> <p>生後6ヶ月～3歳児のひと時保育（3時間以内 定員8名）</p> <p>【児童虐待ホットライン対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 先駆型子ども家庭支援センターとして虐待対策ワーカーを置き、地域の各専門機関と連携して児童虐待防止活動を実施する。 見守りサポート事業：虐待が認められる家庭への支援 養育支援訪問事業（短期・中期）：子どもの養育が困難と思われる家庭への支援 児童家庭支援士訪問事業： <ul style="list-style-type: none"> 子どもの養育が困難と思われる家庭へ、ボランティアによる支援 ボランティアの人材育成 子育てスタート支援事業：産褥母子ショート・デイケアによる支援 子どもショートステイ事業の受付・調整業務 <ol style="list-style-type: none"> 専門相談委員 <ul style="list-style-type: none"> 心理相談 櫃田紋子（浦和大学教授 臨床心理士） 家族相談 龍野陽子（子どもの虐待防止センター 元専任相談員） スーパーバイザー <ul style="list-style-type: none"> 内山健太郎（公立昭和病院医師） 新澤誠治（みずべの会代表） 	<p>（目標）〈共に生きる・共に育つ〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 私たちは、地域の子どもとその家族一人ひとりが、神に愛され、生かされているという事実を立てて事業を行ないます。 私たちは、地域の子どもとその家族一人ひとりの人格と個性を尊重し、子どもたちが心身ともに健やかに育つ街や社会を作ることを目指します。 私たちは、センターがそこに集うすべての子どもと大人にとって、安全で安心、大切にされていると感じることのできる場となるように日々努力します。 私たちは、地域の子どもとその家族が抱える問題を受け止め、より良い解決に向えるよう、専門性にに基づき対応します。 私たちは、地域の人々や他の専門機関と連携して、子どもとその家族のニーズにあわせて、必要な支援を行うことに努めます。 <p>（方針）</p> <ol style="list-style-type: none"> ひろば活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが自由に遊びかかわりあう場として、また親同士の良い出会いと交流の場として、スタッフや地域の人たちが親子を温かく迎え入れ、親子、家族、社会の交わりを作り出せるよう丁寧な対応を心掛ける。 スタッフは身近な話し相手であり、遊び相手としての役割を果たすとともに、個々の親子への理解を深め、親同士が支え合い、育みあえる関係づくりがすすめられるような場を工夫する。 相談活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> 子どもや親自身また家族について、気持ちを楽にして自由に表現できる場を提供する。 親自身の持っている力を信頼し、親自身の意思決定を尊重する。相手の不安や焦り、悲しみ等に寄り添い、共に考える姿勢をもつ。個人情報の保護や情報管理、守秘義務を徹底する。 虐待環境におかれている子どもは、基本的な衣食住、養育者とのかかわり、安全、教育、医療等の必要が満たされていない深刻な状況下にあることを理解し、複数の専門機関と協力して子どもと家族の支援に取り組む。 地域のボランティアとの協同 <ul style="list-style-type: none"> 子どもと家族に優しい街づくりを目指し、広く地域に開かれたひろばをつくっていくとともに、地域の集会所等を利用し乳幼児をつれて気軽に集える場を提供する。 養育困難家庭に児童支援士による訪問を実施し、子どもの育ちを支援する。
<p>の展開</p>	<ol style="list-style-type: none"> 江東区の児童虐待ホットラインの窓口として、子育て支援課要保護担当とともに児童虐待対応の中核機関として関係機関との連携協力に努め、児童虐待の予防と対応に取り組んでいく。 地域の児童館、保健相談所等の地域連絡会・要保護児童対策地域協議会実務者会議に参加し、情報を共有の上、支援に役立てる。 運営協議会を開催し、利用者の意見・子育てをめぐる社会情勢等の変化に柔軟に対応し、管理運営に反映させるとともに、関係機関との信頼関係を築く。 地域子育てサークルとの連携：子育てサークルへのおもちゃ貸し出し・相談等を行う。 	<p>職員構成</p> <p>センター長 1名 子ども家庭支援ワーカー リーダー 1名 子ども家庭支援ワーカー 2名（うち地域支援ワーカー兼務1名） （非常勤）2名 リフレッシュひと時保育 1名 （非常勤）2名 児童虐待対策ワーカー リーダー 1名 児童虐待対策ワーカー 3名 （非常勤）1名</p>
<p>環境整備・修繕等</p>	<ol style="list-style-type: none"> 事務所整備：児童虐待ホットライン業務が子育て支援課とオンラインで結ばれ、進行管理・個別ケース会議開催の要否・全体のケースの助言等を行う為のシステムをつくり、ホットライン業務の充実を図る。 乳幼児期の子ども達の発達を踏まえて子どもたちの様々な遊びが充実し、親も安心してすごせるための工夫 <ul style="list-style-type: none"> 親子が家庭的な落ち着いた雰囲気ですごせるための環境作り 親と子どもとの適度な距離感、親同士の交流がしやすい場の設定 絵本コーナー、喫茶コーナー書籍の充実 園庭の遊具の充実、園庭（緑化環境）の工夫 園庭、室内清掃、遊具の清潔、危険箇所の点検を徹底していく 園庭の排水溝の定期的清掃 来所者の安全管理、安全対策の充実 <ul style="list-style-type: none"> 地震、火災時の避難訓練 非常時警報等の使用方法、対応についてのスタッフ間の確認徹底 	<p>主な研修・主な行事</p> <ul style="list-style-type: none"> 職場内研修・法人研修（全体・経験年数別・ブロック別） 東京都精神福祉保健センター主催各種研修・ウイメンズプラザ主催各種研修 子どもの虐待防止センター主催各種研修 こころの健康財団精神保健講座・子育てセンター実践研究会セミナー等 <ul style="list-style-type: none"> 毎月1回 誕生日会 年2～3回 プレイパーク「自然と遊ぼう」 年2回 おもちゃ病院・離乳食講座 5月 子どもの日・江東こどもまつり 7月～8月 七夕・水遊び 10月 リサイクルひろば 12月 クリスマスおはなし会・音楽会 3月 入園を祝う会

2012年度（平成24年度）事業計画書

施設名／小平市子ども家庭支援センター

／小平市ファミリー・サポート・センター

記入者／武井 まさ子

<p>・事業の内容と展開</p>	<p>1. 広場事業（常設）（予防から相談へ） ○親子で遊ぶ ○スポットタイム（あそび、季節のおたのしみ、誕生会等） ○のびのび成長記録、わいわいストレッチ（母親の健康増進）</p> <p>2. 体験学習事業 ○各年齢別講座「わたぼうし」親子の出会いと仲間作りの会 ○ねんね（0歳から1歳頃まで）（おのおの月1回ずつ） ○あんよ（1歳から2歳半ごろまで） ○げんき（1歳から3歳頃まで） ○父親講座（多目的講座）（1回） ○家族関係講座他（8回） ○グループ（起こった事、相談から治療） ・CSP（家族関係・虐待防止）講座（6回シリーズ） ・ノーバディーズパーフェクト講座（6～8回のシリーズ）</p> <p>3. 相談事業 ○電話相談 ○面接相談 ○専門相談（発達相談、心の育ち、言語、家族問題） ○広場相談 ○のびのび子育て応援事業（出産前から子どもが1歳までの家庭の支援）</p> <p>4. 先駆型・虐待対策 市の虐待通告窓口、小平児童相談所との連携及び連絡会（要保護児童対策地域協議会及び実務者会出席）、関係者会の開催、ケース検討会の充実、スーパーバイザーの導入</p> <p>5. 情報提供事業 ○センターだより（毎月） ○ホームページでの情報発信、メールでの問い合わせ ○ポスターちらし等 ○地域の子育て情報の提供</p> <p>6. ネットワーク・人材育成事業 ○子育て支援ネットワークの活用化 ○ファミリー・サポートとの連携及び講師派遣 ○子育て女性相談室（子育て支援）との連携とコンサルテーション ○子育て支援協議会における活動の強化 ○各関係機関との学習会 ○各種研修の開催（子育て支援、ボランティア募集と育成、市相談員への研修）</p> <p>7. 子ども家庭在宅サービス事業との連携（ショートステイ事業、育児支援ヘルパー事業ファミリー・サポート事業）</p> <p>8. 運営企画 ○企画運営会議の充実（月、年間を見通していく） ○利用者のセンター行事への運営参加、子育てサークル、ボランティアの自主活動との連携、まもらっこの会（障がい児を持つ親子の会）支援</p> <p>9. ファミリー・サポート・センターの運営 アドバイザーが中心になって、援助活動の調整、会員に対する説明会・講習会、会員募集、会員間のトラブルへの助言を行う。 養成講座 年2回等</p> <p>10. 子育て相談室の運営 子育て相談室として、地域のすべての子どもとその家庭を対象にして、子育てに関係する様々な相談を受ける。</p> <p>11. 専門相談員 松田景子（発達相談）、関戸百合子（心理相談）</p> <p>12. スーパーバイザー 龍野陽子（子どもの虐待防止センター 元専任相談員）</p>	<p>目標（共に生きる・共に育てる）</p> <p>安心、いきいき、健やかな子育て、子育て、親育ちのまちづくりを目指して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちは、地域の子どもとその家族一人ひとりが、神に愛され、生かされているという事実を立て、事業を行います。 ・私たち地域の子どもとその家族一人ひとりの人格と個性を尊重し、子どもたちが心身ともに健やかに育つ街や社会を作ることを目指します。 ・私たちは、センターがそこに集うすべての子どもと大人にとって、安全で安心、大切にされていると感じることのできる場となるよう、日々努力します。 ・私たちは、地域の子どもとその家族が抱える問題を受け止め、よりよい解決に向かえるよう、専門性にに基づき対応します。 ・私たちは、地域の人々や他の専門機関と連携して、子どもとその家族のニーズにあわせて必要な支援を行うことに努めます。 <p>方針</p> <p>1. 広場事業の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○利用者同士の関わりを助け、広場での体験を通して利用者（親子、保護者）の成長を見守り支持する ○広場での遊びを通して育児、子育て文化の伝承にふれる場を提供する ○父親の育児参加をすすめ、共に取り組む事で育児の理解を深める ○子育ての楽しさを共有する ○要支援家庭を広場の機能を生かして支援する。相談から広場へつなげる <p>2. 相談事業の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○広場で悩み事、聞いてほしい事の相談を受ける ○相談電話を通してのサポートをする ○相談員による予約相談の充実 ○地域の人材資源と連携して子どもの育ち、発達、授乳、睡眠などについて学ぶ場を提供する。（市内の保健師さんの会） ○専門相談員によるミニ講座等を通して育児をサポートする ○スーパーバイザーによる機能強化 <p>3. 地域福祉事業充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市内人材活用、発達を支援する会、子育てに関する普及啓発 <p>4. 児童虐待防止機能の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○要保護児童対策地域協議会を通してのネットワークの強化 ○関係機関とのケース検討を通しての連携を強化 <p>5. 相談事業を通して必要な家庭に ○のびのび子育て応援事業 ○子どもショートステイの受付事業 ○ファミリー・サポート・センター事業につなげ支援していく。</p>
<p>・展開</p>	<p>・要保護児童対策地域協議会及び実務者会の活用、ケースを通じた地域のネットワーク作りの充実・ケース検討会議の開催・地域組織化活動の促進（地域の協同と連携） ○関係機関との連携（小平児童相談所、健康センター、サレジオ学園、教育相談室、教育委員会、小学校、中学校、学童クラブ、保育課、幼稚園、保育園、社会福祉協議会、多摩小平保健所、民生委員、主任児童委員、療育施設、病院、小平警察等） ○地域センターとの連携（地域センターを活用しての講座、子育て文化の発信。） 市の各諸機関の連携と連絡、ママサークルの支援。近隣地域との協力。 ○児童館、地域センターでの講座、相談 ○地域訪問（地域の特性と子育て世代のつながりを作る） ○健康センターとの連携 ケースを通して連携の強化、情報の共有化、母子手帳配布時に子ども家庭支援センターの案内を同封、研修、ケース検討会、問題ケースへの同行訪問</p>	<p>・主な研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ○職場内研修の充実 ○小平市各機関主催の研修 ○子育てセンター実践交流セミナー ○東京都（福祉保健局）主催研修 ○雲柱社、子ども家庭支援センター研修会 等
<p>・修繕等</p>	<p>○明るく清潔で家庭的な安心して過ごせる広場作りをしていく（居場所としての広場） ○利用者参加による環境整備、絵本、玩具（手づくりおもちゃ）の充実 ○利用者との信頼関係を深め、センターの活用の仕方を理解してもらう ○地域センターふれあい広場への協力</p>	<p>・職員構成</p> <p>センター長兼ワーカー <u>子ども家庭支援センター</u> 子ども家庭支援ワーカー 1名 地域活動ワーカー（広場） 2名 虐待防止（対策）ワーカー 3名 専門相談員（非常勤2名）</p> <p><u>ファミリー・サポート・センター</u> アドバイザー 4名（常時2名在勤） <u>子育て・女性相談（子育て相談）事業</u> 相談員 3名（常時1名在勤）</p>

指定管理

小平

委託

小平ファミサポ

2012年度 雲柱社 児童館ブロック事業計画

児童館 ブロック 事業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちは、みんなの居場所となる児童館をめざします。 ・私たちは、子どもたちが多くの人と出会い、遊びや行事などへの参加を通して社会力を培う児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちやその家庭が抱えている問題を受け止め、共に担う児童館を目指します。 ・私たちは、世界の人たちと共に生きるための学習や異文化体験、ボランティア活動などに取り組む児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちが平和を愛し、差別や偏見に立ち向かう力を育む児童館を目指します。
---------------------	--

施設名：上池台児童館

記入者：秋山 幸美

< 1 > 事業計画

	子育て支援活動（乳幼児）	学童クラブ	小学生を対象とした活動	中高生を対象とした活動
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ○乳幼児を持つお母さん方の悩みや不安を共有しサポートしていく。 ○子ども達の成長を共に見守り、喜ぶ。 ○親子で楽しみ、共に作り上げる参加型の活動を展開する。 ○お母さん、子どもたちがほっと過ごせる場となる。 ○保健センターなど地域の社会資源と、連携をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分を見つめ、他者を思いやる力を育む ○グループ活動、行事（自然体験）、日常活動を3本の柱として事業を展開する。 ○集団遊びを通じて、子ども達が色々な経験を重ねる。 ○社会性、協調性を集団のなかで体験的に学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分を見つめ、他者を思いやる力を育む ○グループ活動、行事（自然体験）、日常活動を3本の柱として事業を展開する。 ○集団遊びを通じて、子ども達が色々な体験の場を重ねる場となる。 ○社会性、協調性を活動の中で育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○中・高生の居場所となる。 ○中・高生の自立支援の場となる。 ○人生や社会問題を考える場となる。 ○ボランティアの養成と実践の場となる。
活動内容・行事等	<p><グループ活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・いちごクラス（0歳児） 毎週木曜日 ・さくらんぼクラス（1歳児）A/B…毎週火曜日 ・りんごクラス（2, 3歳児）…毎週金曜日 ・こいちごクラス（0歳児低月齢）…10月より開始毎週木曜日（午後） <p><日常活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファミリールーム…環境整備に努める ・わいわいルーム…3階をお母さん方、子どもたちの交流の場として開放する。 未就園児…月、土曜日10:00～14:00 水曜日10:00～11:30 幼稚園児…水曜日11:30～14:00 <p><その他プログラム></p> <ul style="list-style-type: none"> ・なつまつり ・夏休みプログラム ・運動会（乳幼児） ・クリスマス会 ・子ども服リサイクル（年2回） ・お父さんと遊ぼう ・お母さん向け講座の開催 ・幼稚園生プログラム <p>○2012年度も引き続き、他機関との連携を深め母親講座等を、計画的に行なう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域に出て行き、地域のニーズを探る。 ○商店街おまつりの手伝い、小池親父の会まつり・小池まつり・もちつき 	<p><定員> 90名</p> <p><育成時間></p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常…下校時間～17:00 ・延長…17:00～19:00 ・学校休業日…8:30～ <p><年間行事></p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月…入室式 ・6月…個人面談 ・7、8月…夏やすみプログラム ・10月…外出 ・11月…個人面談 ・1月…たこあげ ・3月…遠足 <p><その他プログラム></p> <ul style="list-style-type: none"> ・誕生会 ・駄菓子屋さん ・お楽しみ会 ・お店屋さんごっこ ・ロッカー掃除 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・お便りの発行（月1回） ・縦割りのグループ活動と共に、同学年横のつながりも大切にする。 ・保護者との関係、保護者同士の関係を深めるため、夕食会を行なう。 	<p><低学年活動 だいだらぼっち 1～3年生></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年別、グループ活動 ・ハイキング、キャンプ <p><高学年活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2012年度もひきつづきグループ活動を開始する。 ・月に4回ほど活動日を設定し、幅広い体験の場を子どもたちに提供する。 ・デイキャンプ・サマーキャンプ等の野外活動を行う。 <p><スポーツ活動></p> <p>ドッジボールフェスタ</p> <p><文化部門></p> <p>手芸教室、手作り教室、お話しのお話の会 図書活動の充実</p> <p><年間行事></p> <p>こどもの日、なつまつり、クリスマス、冬まつり</p> <p>○2012年度は高学年活動に重点を置く。 低学年から事業のつながりを持たせる。</p> <p>○児童館ならではのプログラムを企画し、子ども時代の体験の場を提供する。</p> <p>○世界の子どもたちについて学ぶ「STEP」活動は、各グループ活動の中で継続して行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校時代来館していた子どもたちが中学生になっても継続して来館するようになっている。19時まで利用する子どもたちも多くなり、新たな活動の展開が可能な状況になりつつある。 ・さらに子どもたちとの関係を深め、中・高生とプログラムを立ち上げる方向に向かっていきたい。 ・中学生タイムを設ける。18:00～19:00 ・児童館プログラムへのボランティアとしての参加を呼びかけ。・中高生区民センター月1回

< 2 > 職員構成

- ・館長 1名
- ・統括リーダー 1名
- ・児童厚生員 5名
- 内 学童担当 3名
- 児童館担当 2名

< 3 > 研修

- ・館内職員研修
- ・ブロック内研修
- ・法人研修
- ・その他外部研修

< 4 > その他

- ・大田区子ども支援センターとの連携
- ・その他機関との連携
- ・上池台すくすくネット運営委員会の立ちあげ。主要メンバー、民生委員、主任児童委員、町会長、学校・学童保護者、学校教員など、児童館に関わる方との協働ネットワーク

委託

上池台

<p>事業の内容と展開</p>	<p>1 ひろば事業（火～土開所、日・月・祝祭日・年末年始休み） ○談話室を使った遊びのプログラムの提供（年33回） ○café（年22回） ○大きくなったかな（身体測定・36回） ○NPOおもちゃライブラリーとの連携出張ひろば（年2回） ○大人用本貸し出し・子ども服リサイクル（ひろば開所日） ○お父さんとの遊びコーナー（毎土曜日）</p> <p>2 相談事業 ○電話相談 ○面接相談 ○ひろばでの相談 ○FAX相談（いずれもひろば開所日） ○専門相談（発達相談：年24回・こころの相談：年12回・助産師相談：年6回・栄養士相談：年12回）</p> <p>3 体験学習事業 ○グループミーティング（1歳6グループ×月1回×5） ○ミニ講座（助産師・出張・ママ講師）（年6回） ○0歳児の会（年12回） ○1歳の誕生会（年12回） ○母親グループ（ハリスケース：月1回×2グループ） ○カルガモ教室（10か月～14か月：年12回） ○エンジェル教室（5か月児：年24回） ○シニア向け異世代交流会（年1回） ○父親講座（年3回） ○小学生の親のグループ（年12回）</p> <p>4 情報提供事業 ○センター通信 ○ホームページ ○予定表 ○掲示等による地域、子育て、リサイクル情報の掲示</p> <p>5 自主サークル支援 ○虐待防止を目的としたハリス家庭の為の自主サークル支援（多胎児の会：年4回・小学生の軽度発達障害児の親の会：年12回）</p> <p>6 ネットワーク、人材育成事業 ○ボランティア募集と育成（募集・活動のコーディネート・交流、研修、社協・ボランティアセンターとの連携） ボランティア交流会（年1回）・ボランティア研修（年1回）・活動（ひろば・通信・保育・プログラム） 学生ボランティア、お母さんボランティアの受け入れ ○ファミリー・サポート・センターとの連携（ボランティア研修：年1回・フォローアップ講習：年2回・ひろば実習）</p> <p>7 ファミリー・サポート・センター事業 ○協力会員の募集及び講習開催（年3回） ○依頼会員の募集及び説明会開催（年12回） ○会員相互の交流会（年2回） ○援助活動の促進及び協力会員、依頼会員へのサポート ○子ども家庭支援センターとの連携事業（上記） ○センター活動の周知及び協力会員募集のための地域説明会（民生委員対象）</p> <p>8 専門相談員 松田景子（発達相談）、関戸百合子（心理相談）、金岡直子（助産師）、田村知子（栄養士）</p> <p>9 スーパーバイザー 龍野陽子（子どもの虐待防止センター 元専任相談員）</p>	<p>事業目標・方針と展開</p> <p>1 地域の子どもとその家族一人ひとりが神に愛され、生かされているという事実に基づいて事業を行なう。 ○全体で聖書の話聞く機会を持つ。</p> <p>2 地域の子どもとその家族一人ひとりの人格と個性を尊重し、子どもたちが心身共に健やかに育つまちや社会をつくることを目指す。 ○子ども家庭支援センターのボランティア育成とファミリー・サポート・センターの協力会員養成の機能を合わせ、子育てのサポートができる人たちを地域に増やしていく。 （ボランティア及び会員募集⇒活動⇒研修⇒交流⇒地域に戻るというシステム作り） ○子ども家庭支援センターがつなぎ役となり、地域での子どもの支援につながる場づくりをしていく。</p> <p>○異世代交流や利用者同士の交流の場を意識的に作るようにし、親と子という狭い世界だけでなく、広い関係性の中で子どもたちが育つことの大切さを伝えていく。</p> <p>3 センターがそこに集うすべての子どもと大人にとって安全で安心、大切にされていると感じることのできる場となるよう日々努力する。 ○ひろばやプログラムまたファミリー・サポート・センターをつかった場で孤立感を持つ親子の存在に気づき、その孤立感を和らげられるようなかわりができるように努力する。 ○子ども家庭支援センターやファミリー・サポート・センターの各事業につながりを持たせ、支援方針を持って、サポートしていく。</p> <p>4 地域の子どもとその家族が抱える問題を受け止め、より良い解決に向かえるよう、専門性に基き対応します。</p> <p>○利用者が何に困っていて、どうしたいと思っているのかを整理し自分たちの出来ることを提供していく。そのために利用者の気持ちと自分自身の気持ちに敏感になれるよう振り返りを深めていく。</p> <p>○職場内研修を通して、話の聴き方、子どもの発達の理解、グループのファシリテーターの役割を学ぶ。</p> <p>5 地域の人々や他の専門機関と連携して子どもとその家族のニーズに合わせて必要な支援を行う。 ○民間施設なりのアプローチの仕方で、フェイス to フェイスを大切にし関係を築いていく。 ○巡回訪問で認可園との関係が、また連携事業で児童館や一部NPOとの関係が出来つつあり、相互理解のもと、関係を深めていく。</p>
<p>ネットワーク事業の展開</p>	<p>1 ファミリー・サポート・センターとの連携強化（目標の共有化） 2 NPOとの連携（研修、出張ひろば、講座、ケースの連携等） 3 児童館・社協・ボランティアセンター・東京学芸大学との連携事業 4 保健センターとの共有と受け皿 5 各関係機関とのケース、事業に応じた連携（児童館とは必要において随時・研修会：年1回等） 6 市内子ども関連団体との連携及びサポート 7 小金井子育て・子育て支援ネットワーク協議会との連携</p>	<p>職員構成</p> <p>◎子ども家庭支援センター ○管理職 1名 ○子ども家庭支援ワーカー2名 ○地域支援ワーカー 1名（非常勤） ○事務補助 1名（非常勤）</p> <p>◎ファミリー・サポート・センター ○アドバイザー3名（非常勤）</p>
<p>環境整備</p>	<p>○遊具、環境改善 ○定期的な安全・衛生点検（マニュアル作成） ○大人用貸し出し図書の実・整備 ○室温、湿度管理 ○掲示物の整理（内容、掲示の仕方） ○季節を感じる環境づくり ○わかりやすい案内の工夫 ○土曜日の防犯 ○安全・防犯マニュアル</p>	<p>主な研修</p> <p>○東京都（福祉局、衛生局）主催研修各種 ○スーパーバイザーとのケース検討、研修 ○法人研修 ○施設内研修 ○外部研修</p>

2012年度 雲柱社 児童館ブロック事業計画

学童クラブ 事業目標	1、私たちは、放課後の子どもたちにとって居場所となる学童クラブを目指します。 2、私たちは、危機管理を十全にして、安心と安全が保障された学童クラブを目指します。 3、私たちは、子どもたちが多様な体験を通して、生きる力を育むことが出来る学童クラブを目指します。 4、私たちは、子どもたちが、それぞれの個性と能力を発揮できる学童クラブを目指します。 5、私たちは、自由と規律を大切にす学童クラブを目指します。 6、私たちは、保護者のニーズ（就労支援、子育て不安など）に応える学童クラブを目指します。 7、私たちは、地域との交流を深め、地域の人たちから愛され支えられる学童クラブを目指します。
---------------	---

施設名 深川学童クラブ
記入者 松原 万紀子

< 1 > 事業計画

活動目標	<p style="text-align: center;">学童クラブ</p> <p>○子どもたちにとって安心して過ごせる居場所作りを目指す。</p> <p>○自分のことは自分でできるよう自立を目指し、自ら考え行動でき、他者を思いやることの大切さを集団生活を通して身につける。</p> <p>○保護者との連絡を密に取り、子ども達のクラブ内での生活の様子を積極的に伝え、親子関係の発展や家庭における育児機能の維持と向上をサポートする。</p>
活動内容	<p>(定員) 104名 (1クラス・44名)</p> <p>(育成時間) 通常 : 下校時～17:00 延長～18:00 学校休校日: 8:30～17:00 延長～18:00</p> <p>(1日の活動) 来室→宿題→遊び→おやつ→休憩→あそび→帰りの会・帰宅(延長保育)</p> <p>(学校休校時の活動) 8:30 来室→1時間勉強→遊び→昼食→休憩→遊び→おやつ→以降は(1日の活動)と同じ</p> <p>(あそび) 育成室ではおもちゃ・レゴブロック・お絵かき・読書・ぬりえなどが自由に遊べるよう、それらの器具が室内に常時設置。 また天気の良い日は近くの公園へ行く。</p>
行事等	<p>(行事) 入会式・遠足(年2回)・ハロウィンパーティー・水遊び・クリスマス会・節分・深川北部ドッチボール大会・お別れ遠足</p> <p>(毎月のプログラム) 誕生日会・ゲーム会・避難訓練</p> <p>(その他) ・新規入会児童対象説明会 (3月) ・保護者会 (5月・7月・3月) ・個人面談 (11月～12月) ・クラブだより (毎月1回発行)</p>

< 2 > 職員構成

- ・児童厚生員 2名
- 内 学童担当 2名

< 3 > 研修

- ・施設内研修
- ・児童館ブロック研修
- ・法人研修
- ・所属する自治体の研修
- ・その他の研修

< 4 > その他

- ・法人間の合同プログラム

2012年度 雲柱社 児童館ブロック事業計画

児童クラブ 事業目標	<p>私たちは所属する各自治体の方針を尊重し、子どもたち、保護者、地域の方々と力を合わせて、楽しく充実した学童クラブ活動を展開していくために、次のような目標を掲げて事業に取り組みます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、私たちは、放課後の子どもたちにとって居場所となる学童クラブを目指します。 2、私たちは、危機管理を十全にして、安心と安全が保障された学童クラブを目指します。 3、私たちは、子どもたちが多様な体験を通して、生きる力を育むことが出来る学童クラブを目指します。 4、私たちは、子どもたちが、それぞれの個性と能力を発揮できる学童クラブを目指します。 5、私たちは、自由と規律を大切にす学童クラブを目指します。 6、私たちは、保護者のニーズ（就労支援、子育て不安など）に応える学童クラブを目指します。 7、私たちは、地域との交流を深め、地域の人たちから愛され支えられる学童クラブを目指します。
---------------	--

施設名 大島四丁目学童クラブ(亀戸児童館)

記入名 亀戸児童館館長 永澤 和男

< 1 > 事業計画

	学童クラブ	
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭に代わる放課後の生活基盤となり、こども達の個性を尊重し、安心して過ごすことができる場所となる。 ・異年齢集団の中での生活や遊びを通して協調性を養い、仲間を思いやる気持ちを育てる。 ・行事などを通して考える力を培い、自主的に判断し、行動できるようにする。 ・こどもたちの健康を促進し、安全を守る環境をつくる。 ・保護者、学校、地域、関係機関とのネットワークを築き、円滑なクラブ運営につとめる。 ・他の学童クラブや地域のこども達との交流を大切にし、人間関係を広げていく。 ・保護者とのコミュニケーション を密にし、その就労を支援しつつ、こどもの成長について共に考えていく。 ・地域の人たちの協力を得て、地域に根ざした学童クラブを目指す。 	
活動の内容・行事等	<p>育成時間 〈通常〉 下校時～17時 (延長 ～18時) 〈学校休業日〉 8時30分～17時 (延長 ～18時)</p> <p>年間行事 オリエンテーション、入会を祝う会、春・秋の交通安全運動、ぬりえコンテスト(年3回)、野菜の栽培、世界のカブトムシ観察、夏休み遠足、おたのしみおやつ、近隣児童館の行事への参加、江東区夏休み観劇会、引取り訓練、近隣学童との水遊び交流、夏休みの学生ボランティア受け入れ、夕涼み会、やきいも会、駄菓子屋さん、手芸・工作、合同ハロウィンパーティー(大島みずべとの交流)、大掃除、クリスマス会、節分お楽しみ会、ドッジボール交流練習、卒室・進級を祝う会、サイン帳作り、お別れ遠足、城東地区学童ドッジボール大会</p> <p>月例行事 誕生会、買い物おやつ、誕生日のリクエストおやつ、みずべボランティア、ロッカー・部屋の掃除</p>	

< 2 > 職員構成

- ・児童厚生員 2名
- 内 学童担当 2名

< 3 > 研修

- ・児童館ブロック研修
- ・法人研修
- ・所属する自治体の研修
- ・その他の研修

< 4 > その他(特記事項)

この学童クラブでは江東区にある法人運営の大島子ども家庭支援センターとの交流を行っている。

2012年度 雲柱社 児童館ブロック事業計画

学童クラブ 事業目標	<p>私たちは所属する各自治体の方針を尊重し、子どもたち、保護者、地域の方々と力を合わせて、楽しく充実した学童クラブ活動を展開していくために、次のような目標を掲げて事業に取り組みます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、私たちは、放課後の子どもたちにとって居場所となる学童クラブを目指します。 2、私たちは、危機管理を十全にして、安心と安全が保障された学童クラブを目指します。 3、私たちは、子どもたちが多様な体験を通して、生きる力を育むことが出来る学童クラブを目指します。 4、私たちは、子どもたちが、それぞれの個性と能力を發揮できる学童クラブを目指します。 5、私たちは、自由と規律を大切に作る学童クラブを目指します。 6、私たちは、保護者のニーズ（就労支援、子育て不安など）に応える学童クラブを目指します。 7、私たちは、地域との交流を深め、地域の人たちから愛され支えられる学童クラブを目指します。
---------------	---

施設名 大島八丁目学童クラブ(亀戸児童館)

記入者 亀戸児童館館長 永澤 和男

< 1 > 事業計画

	子育て支援活動（乳幼児・親）	学童クラブ
活動 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の乳幼児、その保護者を対象に、地域に密着した子育てひろば活動を行う。 ・障害を持つ子どもや、他の施設での活動に参加できない子どもも参加できるひろば活動を目指す。 ・保護者同士が地域での友人や仲間を作れるような、つなぎの役割等の地域での子育ての基盤となる。 ・大島子ども家庭支援センターと連携し、子育ての悩み・不安等を抱える保護者の支援や不安の軽減の場となる。 ・地域の乳幼児とその保護者にとって安全で安心して利用できる居場所を目指す。 ・利用者にとって必要な情報提供を行い、場合によっては他機関に繋げていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭に代わる放課後の生活基盤となり、子ども達の個性を尊重し安心して過ごすことができる場所となる。 ・集団遊び・行事を通して、子ども達の社会性・協調性・主体性を養う。 ・子どもが困難や葛藤を抱えている時に、共に考え導きながら自己解決能力を養う。 ・保護者とコミュニケーションを密にし、その就労を支援しつつ、子どもの成長について共に考えていく。また、必要であれば家族の相談に応じ、他機関へ繋げる。 ・地域の人たちの協力を得て、地域に根ざした学童クラブを目指す。 ・他の学童クラブや子育てひろば、地域の子ども達との交流を大切にし、人間関係を広げていく。 ・他機関と連携し、見守りが必要な子ども・家庭の支援を行う。 ・ひろばの乳幼児や地域の高齢者と関わることで他者への思いやりや、他者を受け入れる気持ちを養う。
活動 の 内 容 ・ 行 事 等	<p>子育てひろば ※活動は学童クラブ職員が午前中の時間を利用して実施する</p> <p>開設時間 毎週 月・金 10時～11時半 (自由来館型子育てひろば)</p> <p>手遊び・紙芝居・体操</p> <p>行事 月間行事 音楽遊び・読み聞かせ 子育て講座（ベビーマッサージ） 学童クラブ児との交流会 地域の民生委員さんとの交流</p>	<p>育成時間 〈通常〉下校時～17時 (延長 ～18時) 〈学校休業日〉8時30分～17時 (延長 ～18時)</p> <p>年間行事 オリエンテーション、入学・進級おめでとう会、行事製作、春・秋の交通安全運動、ミニ遠足ゲームおやつ、将棋大会(自由参加)、世界のカブトムシ観察、遠足 近隣児童館の行事への参加、江東区観劇会、大八なつまつり、引取り訓練 ハロウィンパーティー、大8ひろばとの交流会、クリスマス会、大掃除 お正月遊び、けん玉検定、コマ検定、節分、駄菓子屋さん、お別れ会、文集作り、お別れ遠足 大島四丁目学童クラブ・亀戸学童クラブと計画的交流、江東区ドッジボール大会 道徳教育プログラム、地域の見守りをして下さっている方々との関係作り</p> <p>月例行事 誕生会・ゲーム会・避難訓練・学年別グループ活動・手芸・工作</p>

< 2 > 職員構成

- ・児童厚生員 2名
内 学童担当 2名

< 3 > 研修

- ・児童館ブロック研修
- ・法人研修
- ・所属する自治体の研修

< 4 > その他（特記事項）

この学童クラブでは午前中を利用して子育てひろばを実施している

2012年度 雲柱社 児童館ブロック事業計画

放課後子ども教室	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの人格を尊重し、その自己実現を果たすための遊び、学習、体験等を展開していく。 ・子どもたちからの意見（ニーズ）を受け止め、それを具体化していくために共同活動（共に活動を楽しみ創っていく）を展開していく。
事業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの居場所になると共に子どもたちの成長を支援していく活動を展開していく。 ・子どもたちに社会や世界で起こっている問題を投げかけ、学習や体験、ボランティア活動等を通して理解を深めていく。 ・問題を抱えている子どもたちや家庭の現実を受け止め、相談の窓口となり、問題解決のために協力していく。 ・学校、関係団体、公共機関と連携し、地域の人たちと協力して、より良い事業の展開と問題解決のための協力関係を形成していく。

施設名 江東きつずクラブ明治

記入者 山田 英

< 1 > 事業計画

< 2 > 職員構成

- ・主事 1名
- ・児童厚生員 6名
 - 内 放課後子どもプラン担当 3名
 - 学童担当 3名

< 3 > 研修

- ・施設内研修
- ・児童館ブロック研修
- ・法人研修
- ・行政研修

< 4 > その他

- ・法人間の合同プログラム

	江東きつずクラブ明治 A登録 (放課後子どもプラン事業・(放課後児童活動支援))	江東きつずクラブ明治 B登録 (放課後子どもプラン事業・(学童クラブ機能))
活動目標	子どもたちに対し、放課後等の安全で安心な居場所やあそびの機会を提供し、心身の健全な育成を促す。 1、放課後等にこどもたちが安心して安全に過ごすことのできる居場所をつくる。 2、異年齢集団でのあそびを通して社会性と豊かな心を育てる。 3、児童館、学校、地域と連携し、こどもたちを支援していく。 4、保護者と協力し、円滑なクラブ運営を行なう。	子どもたちに対し、放課後等の家庭に替わる安全で安心な生活の場を提供し、心身の健全な育成を促す。 1、放課後等のこどもたちに家庭に替わる安全で安心な生活の場をつくる。 2、異年齢集団での生活やあそびを通して社会性と豊かな心を育てる。 3、児童館、学校、地域と連携し、こどもたちを支援していく。 4、保護者と協力し、円滑なクラブ運営を行なう。
活動の内容	(定員) B登録以外の明治小学校全児童が登録可能 (育成時間) 4月～9月：下校時～17:00 (延長～18:00) 10月～3月：下校時～16:30 (希望により～17:00、延長～18:00) 学校休校日：8:30～終了時刻は学校運営日と同じ (通常の流れ) 来室→宿題→遊び・交流→帰りの会・帰宅 (延長保育)	(定員) 45名 (育成時間) 通常：下校時～17:00 (延長～18:00、19:00) 学校休校日：8:30～17:00(延長～18:00、19:00) (通常の流れ) 来室→宿題→遊び・交流→おやつ→あそび→帰りの会・帰宅 (延長保育)
行事等	(あそび) 学校の施設を利用して学習や遊びを行なう。地域や外部の方を講師として招いたプログラムや、集団あそびを取り入れる。B登録児童との交流を積極的に図る。 (行事) 入会式・公園遊び・七夕・水遊び・敬老の日・クリスマス会・サッカー教室・節分・ひなまつり・お別れ会 等 (その他) ・毎月のプログラム (ゲーム会・スポーツ大会・コーディネーション運動・手作り工作・お話し会・ビデオシアター・避難訓練等) ・アトリエめいじ (絵画系グループ活動) ・ぬりえコンクール ・保護者会 ・きつずクラブだよりの毎月1回発行	(あそび) クラブ室他学校の施設を利用して生活する。地域や外部の方を講師として招いたプログラムや、集団あそび、班活動を取り入れる。A登録児童との交流を積極的に図る。 (行事) 入会式・観劇会・お出かけ・七夕・水遊び・敬老の日・クリスマス会・サッカー教室・節分・ひなまつり・深川北部ドッジボール大会・お別れ会 等 (その他) ・毎月のプログラム (誕生日会・ゲーム会・わなげ大会・手作り工作・ビデオシアター・避難訓練等) ・ぬりえコンクール ・平野児童館の行事 ・深川北部ドッジボール大会 ・保護者会 ・個人面談 ・おたよりの毎月1回発行

2012年度 雲柱社 児童館ブロック事業計画

児童クラブ 事業目標	<p>私たちは所属する各自治体の方針を尊重し、子どもたち、保護者、地域の方々と力を合わせて、楽しく充実した学童クラブ活動を展開していくために、次のような目標を掲げて事業に取り組みます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、私たちは、放課後の子どもたちにとって居場所となる学童クラブを目指します。 2、私たちは、危機管理を十全にして、安心と安全が保障された学童クラブを目指します。 3、私たちは、子どもたちが多様な体験を通して、生きる力を育むことが出来る学童クラブを目指します。 4、私たちは、子どもたちが、それぞれの個性と能力を発揮できる学童クラブを目指します。 5、私たちは、自由と規律を大切にす学童クラブを目指します。 6、私たちは、保護者のニーズ（就労支援、子育て不安など）に応える学童クラブを目指します。 7、私たちは、地域との交流を深め、地域の人たちから愛され支えられる学童クラブを目指します。
---------------	--

施設名 汐入学童クラブ

記入者 鶴沢 陽

< 1 > 事業計画

	学童クラブ
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> *家庭に代わり安全で安心して過ごせる居場所となる。 *友達との交流 遊び、集団での活動を通し、社会性を育てていく。 *いろいろな活動に取り組み生活経験を豊かにしていく。 *保護者が安心して働けるような対応をしていく。
活動内容	<p>行事</p> <p>新入会者歓迎会 毎月：誕生会 お店やさん（おやつ）</p> <p>日常活動</p> <p>手芸、製作・工作、折り紙、 ゲーム、読書、宿題、屋外運動遊び、等</p> <p>手作りおやつ</p> <p>・ 1ヶ月に1回程度</p>
行事等	<p>毎月の発行物(印刷物)</p> <p>学童クラブ便り おやつ献立表</p> <p>保護者会： 年3回程度</p> <p>個人面談： 希望時には随時</p>

< 2 > 職員構成

- ・ 児童厚生員 3名
- 内 学童担当 3名

< 3 > 研修

- ・ 施設内研修
- ・ 児童館ブロック研修
- ・ 法人研修
- ・ 所属する自治体の研修
- ・ その他の研修

< 4 > その他

- * 定員 60名
- 荒川区は待機児を出さない方針なので、申請があれば定員を超えても受け入れる(区が決定する)。

2012年度 雲柱社 児童館ブロック事業計画

私たちは所属する各自治体の方針を尊重し、子どもたち、保護者、地域の方々と力を合わせて、楽しく充実した学童クラブ活動を展開していくために、次のような目標を掲げて事業に取り組みます。

学童クラブ
事業目標

- 1、私たちは、放課後の子どもたちにとって居場所となる学童クラブを目指します。
- 2、私たちは、危機管理を十全にして、安心と安全が保障された学童クラブを目指します。
- 3、私たちは、子どもたちが多様な体験を通して、生きる力を育むことが出来る学童クラブを目指します。
- 4、私たちは、子どもたちが、それぞれの個性と能力を発揮できる学童クラブを目指します。
- 5、私たちは、自由と規律を大切にする学童クラブを目指します。
- 6、私たちは、保護者のニーズ（就労支援、子育て不安など）に応える学童クラブを目指します。
- 7、私たちは、地域との交流を深め、地域の人たちから愛され支えられる学童クラブを目指します。

施設名 汐入小学童クラブ

記入者 鶴沢 陽

< 2 > 職員構成

- ・児童厚生員 4名
- 内 学毒担当 4名

< 3 > 研修

- ・施設内研修
- ・児童館ブロック研修
- ・法人研修
- ・所属する自治体の研修
- ・その他の研修

< 4 > その他

- * 定員 80名
- 荒川区は待機児を出さない方針なので、申請があれば定員を超えても受け入れる(区が決定する)。

< 1 > 事業計画

	学童クラブ
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> *家庭に代わり安全で安心して過ごせる居場所となる。 *友達との交流 遊び、集団での活動を通し、社会性を育てていく。 *いろいろな活動に取り組み生活経験を豊かにしていく。 *保護者が安心して働けるような対応をしていく。
活動の内容・行事等	<p>行事</p> <p>新入会者歓迎会 毎月：誕生会 お店やさん（おやつ）</p> <p>日常活動</p> <p>手芸、製作・工作、折り紙、ゲーム、読書、宿題、屋外運動遊び等</p> <p>手作りおやつ 1ヶ月に1回程度</p> <p>毎月の発行物(印刷物)</p> <p>学童クラブ便り おやつ献立表</p> <p>保護者会： 年3回程度</p> <p>個人面談： 希望時には随時</p>

2012年度 雲柱社 児童館ブロック事業計画

私たちは所属する各自治体の方針を尊重し、子どもたち、保護者、地域の方々と力を合わせて、楽しく充実した学童クラブ活動を展開していくために、次のような目標を掲げて事業に取り組みます。

学童クラブ
事業目標

- 1、私たちは、放課後の子どもたちにとって居場所となる学童クラブを目指します。
- 2、私たちは、危機管理を十全にして、安心と安全が保障された学童クラブを目指します。
- 3、私たちは、子どもたちが多様な体験を通して、生きる力を育むことが出来る学童クラブを目指します。
- 4、私たちは、子どもたちが、それぞれの個性と能力を発揮できる学童クラブを目指します。
- 5、私たちは、自由と規律を大切にす学童クラブを目指します。
- 6、私たちは、保護者のニーズ（就労支援、子育て不安など）に応える学童クラブを目指します。
- 7、私たちは、地域との交流を深め、地域の人たちから愛され支えられる学童クラブを目指します。

施設名 七峡小学童クラブ

記入者 鶴沢 陽

< 1 > 事業計画

	学童クラブ
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> *家庭に代わり安全で安心して過ごせる居場所となる。 *友達との交流 遊び、集団での活動を通し、社会性を育てていく。 *いろいろな活動に取り組み生活経験を豊かにしていく。 *保護者が安心して働けるような対応をしていく。
活動内容	<p>行事</p> <p style="padding-left: 20px;">新入会者歓迎会 毎月：誕生会 お店やさん（おやつ）</p> <p>日常活動</p> <p style="padding-left: 20px;">手芸、製作・工作、折り紙、 ゲーム、読書、宿題、 屋外 運動遊び、等</p>
行事等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手作りおやつ 1ヶ月に1回程度 <p>毎月の発行物(印刷物)</p> <p style="padding-left: 20px;">学童クラブ便り おやつ献立表</p> <p>保護者会： 年3回程度</p> <p>個人面談： 希望時には随時</p>

< 2 > 職員構成

- ・ 児童厚生員 3名
- 内 学童担当 3名

< 3 > 研修

- ・ 施設内研修
- ・ 児童館ブロック研修
- ・ 法人研修
- ・ 所属する自治体の研修
- ・ その他の研修

< 4 > その他

- * 定員 60名
- 荒川区は待機児を出さない方針なので、申請があれば定員を超えても受け入れる(区が決定する)。

※2012年度は、町屋ふれあい館(新規)の管轄下へ移る(今までは汐入ふれあい館管轄下)。

2012年度 雲柱社 児童館ブロック事業計画

施設名 汐入東小にこにこすくーる

記入者 玉谷 真吾

	<p>・子どもの人格を尊重し、その自己実現を果たすための遊び、学習、体験等を展開していく。</p> <p>放課後子ども教室 ・子どもたちからの意見（ニーズ）を受け止め、それを具体化していくために共同活動（共に活動を楽しみ創っていく）を展開していく。</p> <p>事業目標 ・子どもたちの居場所になると共に子どもたちの成長を支援していく活動を展開していく。</p> <p>・子どもたちに社会や世界で起こっている問題を投げかけ、学習や体験、ボランティア活動等を通して理解を深めていく。</p> <p>・問題を抱えている子どもたちや家庭の現実を受け止め、相談の窓口となり、問題解決のために協力していく。</p> <p>・学校、関係団体、公共機関と連携し、地域の人たちと協力して、より良い事業の展開と問題解決のための協力関係を形成していく。</p>
--	---

< 1 > 事業計画

	放課後子どもプラン
活動目標	<p>①今年度はさらに利用者の増加が見込まれるので、より安全な受け入れに力を注いでいく。</p> <p>②子どもたちのニーズが多様化してきているので、それに対応できるプログラムを展開していく。</p> <p>③学年別のグループ活動を実施し、子どもたちの成長に応じた支援を行っていく。</p> <p>④地域の力を活動の中に取り入れ、地域に根付いた施設を目指していく。</p>
活動の内容・行事等	<p>(定員) 汐入東小学校に在籍する全児童が登録可能</p> <p>(育成時間)</p> <p>学校授業日 放課後～18:00 (土曜日～17:00)</p> <p>学校休校日 9:00～18:00 (土曜日～17:00) ※一部 8:30 より受入</p> <p>①日常活動</p> <p><input type="checkbox"/> 多目的室……児童書・マンガ等読書スペースとカブラ・レゴ・ラキュー等のブロック遊びスペース。</p> <p><input type="checkbox"/> 遊戯室……カードゲームやボードゲーム・玩具を使って遊ぶスペース。</p> <p><input type="checkbox"/> 創作室……主にぬり絵やお絵かき・工作等を中心としたスペース。昼食場所としても利用。</p> <p><input type="checkbox"/> 多目的室③…学習室。主に宿題や自主学習をするスペース。昼食場所としても利用。</p> <p><input type="checkbox"/> 校庭……ボール遊び・なわとび・固定遊具など屋外での遊び場所。(晴天時の授業終了後に利用)</p> <p><input type="checkbox"/> 学校施設……校庭・体育館・図書館等、学校行事や授業の妨げにならないよう配慮しながら利用。</p> <p><input type="checkbox"/> その他</p> <p>②プログラム活動</p> <p>■文化/創作活動</p> <p><input type="checkbox"/> 手作りタイム <input type="checkbox"/> おりがみタイム <input type="checkbox"/> 映画会 <input type="checkbox"/> お話タイム <input type="checkbox"/> クッキングタイム <input type="checkbox"/> 科学実験室</p> <p><input type="checkbox"/> 手芸タイム <input type="checkbox"/> ぬり絵コンテスト</p> <p>■遊び(スポーツ・レクリエーション)</p> <p><input type="checkbox"/> チャレンジタイム <input type="checkbox"/> ストラックアウト選手権 <input type="checkbox"/> 検定タイム(けん玉・コマ) <input type="checkbox"/> わなげ大会 <input type="checkbox"/> ボーリング大会</p> <p><input type="checkbox"/> マンカラ大会 <input type="checkbox"/> にこにこゲーム会 <input type="checkbox"/> にこにこFC <input type="checkbox"/> なわとび検定 <input type="checkbox"/> マラソン</p> <p>■学年別グループ活動</p> <p><input type="checkbox"/> にこにこクラブ1年生 <input type="checkbox"/> にこにこクラブ2年生 <input type="checkbox"/> にこにこクラブ3年生 <input type="checkbox"/> にこにこクラブ高学年(4～6年生)</p> <p>③特別行事</p> <p><input type="checkbox"/> 日帰り外出 <input type="checkbox"/> 1年生歓迎会 <input type="checkbox"/> 高学年ウエルカムパーティー <input type="checkbox"/> 夕涼み会 <input type="checkbox"/> 赤い羽根募金活動 <input type="checkbox"/> クリスマスプログラム</p> <p><input type="checkbox"/> 新一年生を対象としたにこにこすくーるのプレ体験会</p> <p><input type="checkbox"/> 東日本大震災復興支援募金活動</p> <p>④その他</p> <p><input type="checkbox"/> 運営委員会(行政関係者・学校関係者・地域関係者で構成) 年3回実施</p> <p><input type="checkbox"/> 月の案内 毎月1回発行</p>

< 2 > 職員構成

- ・主事 1名
- ・児童厚生員 3名
- 内 放課後子どもプラン担当 3名

< 3 > 研修

- ・施設内研修
- ・児童館ブロック研修
- ・法人研修
- ・所属する自治体の研修
- ・その他の研修

< 4 > その他

委託

汐入東小

2012年度 雲柱社 児童館ブロック事業計画

児童館 ブロック 事業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちは、みんなの居場所となる児童館をめざします。 ・私たちは、子どもたちが多くの人と出会い、遊びや行事などへの参加を通して社会力を培う児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちやその家庭が抱えている問題を受け止め、共に担う児童館を目指します。 ・私たちは、世界の人たちと共に生きるための学習や異文化体験、ボランティア活動などに取り組む児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちが平和を愛し、差別や偏見に打ち向かう力を育む児童館を目指します。 	施設名：目黒区立中央町児童館 記入者：小暮 緑
---------------------	--	----------------------------

< 1 > 事業計画

	子育て支援活動（乳幼児）	学童クラブ	小学生を対象とした活動	中高生を対象とした活動	
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の声に耳を傾け、悩みや不安を共有し、それに対して援助する。 ・子どもたちの成長を見守り、喜びあえる場となる。 ・親子で楽しみ、共に作り上げ、自主活動へとつながる活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分を見つめ、他者を思いやる力を育む ・グループ活動、行事（自然体験）、日常活動を3本の柱として事業を展開する。 ・集団遊びを通じて、子ども達が色々な経験体験の場となる。 ・社会性、協調性を体験的に学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な遊び場を提供する。 ・日常の遊びを、行事を通して子どもたちの成長を援助する。 ・遊びを通して、子どもたちが仲間関係を広げられるように援助する。 ・こども達の思いを形にできるように援助する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の機能を活かし、中高生が利用しやすい児童館を目指す。 ・中高生の放課後の居場所として、認知されるよう中高生が興味をもって参加できるプログラムを中高生と共に企画する。 	< 2 > 職員構成 <ul style="list-style-type: none"> ・館長 1名 ・統括リーダー 1名 ・児童厚生員 7名 <li style="padding-left: 20px;">内 児童館担当 5名 <li style="padding-left: 20px;">学童担当 2名 < 3 > 研修 <ul style="list-style-type: none"> ・ブロック内研修 ・法人研修 ・その他外部研修
活動内容・行事等	<乳幼児クラブ> 0歳児クラス・・・火曜日 10:30～11:30 1歳児クラス・・・木曜日 10:30～11:30 2, 3歳児クラス・・・金曜日 10:30～11:30 0時開始 <乳幼児のつどい> 毎月1回開催 <ベビー活動> 00歳児クラス（H24.4.2以降生まれ） 9月より活動開始 <ワイワイルーム> 乳幼児の親子の遊び場としてプレイルームを開放 毎週日、月、水、土曜日 10:00～14:00 乳幼児クラブ活動期間以外は毎日行う。 <夏休みプログラム> 夏休み中週1回、年齢別のプログラムを行う。 <子育て講座> 講師を招いて、食育、離乳食等の講座を行う。 <ふらっとネットワーク> 乳幼児の保護者と地域の機関を結び付けるために行う。	<定員> 40名 <育成時間> ・通常…下校時間～18:00 <年間行事> ・4月…歓迎会、保護者会 ・6月…個人面談 ・7、8月…保護者会、父母会主催キャンプ ・10月…ハロウィン ・11月…目黒区連合スポーツ大会、個人面談 ・12月…お楽しみ会、保護者会 ・1月…交流はねつき大会 ・3月…卒所式、保護者会 <その他プログラム> ・誕生会 ・手作りおやつ ・ロッカー掃除 ・外遊び 他 <その他> ・お便りの発行（月1回） ・縦割りのグループ活動（前期、後期で班替え）	<低学年活動 > ・学年別（1年、2、3年）グループ活動 スマイルクラブ <高学年活動> ・こども実行委員会 ・高学年タイム（週1回） <スポーツ活動> ・各種スポーツ大会（年9回） ・設定時間（ドッジ、めっちゃ等） <文化部門> ・テーマ工作（月1回） ・おはなしの会（月1回） ・おりがみで遊ぼう（月1回） ・エンジョイックキング（年3回） <障がい児対応事業> あそびのつどい <年間行事> ・こどもの日 ・平和祈念事業 ・ハロウィン ・お楽しみ会 ・こどもまつり	<音楽スタジオ> ・スタジオの貸し出し ・コンサートの開催（年3回） ・音楽室利用者ミーティング（月1回） ・ワークショップ ・利用者間の交流会 ・他区との交流 <屋外ボールコート> ・屋外ボールコートの貸し出し ・スポーツ大会 ・スポーツタイム（週2、3回） ・ワークショップ <その他> ・スマイルカフェ（週1回） （参加者の意見を取り入れたプログラム、自主的なプログラム、児童館行事の準備）	< 4 > その他 <ul style="list-style-type: none"> ・目黒区関係機関との連携

 委託
中央町

2012年（平成24年）度 事業計画書

施設名：練馬区立光が丘子ども家庭支援センター

記入者：高橋真理子

<p>事業の内容と展開</p>	<p>(1)子どもと家庭の総合相談事業 <input type="checkbox"/> 電話相談 <input type="checkbox"/> 面接相談 <input type="checkbox"/> 子どもと母親のグループミーティング（精神保健福祉士の下） <input type="checkbox"/> 個別ケースにおける関係機関との連携（ケースマネジメントを中心に）</p> <p>(2)子育て啓発事業 <input type="checkbox"/> ノーバディズパーフェクト2期開催 <input type="checkbox"/> 保育園看護師の健康講座 <input type="checkbox"/> 保育園栄養士の栄養講座 <input type="checkbox"/> 地域小児科医による健康講座</p> <p>(3)子育てのひろば 光が丘びよびよ 日・水除く毎日 10:00～16:00 <input type="checkbox"/> 親子で遊ぼう <input type="checkbox"/> スポットタイム（おはなし会・ふれあい遊び） <input type="checkbox"/> 誕生会 <input type="checkbox"/> ベビーマッサージ <input type="checkbox"/> ちくちく倶楽部 <input type="checkbox"/> 誕生月の手型とり <input type="checkbox"/> 計測</p> <p>(4)乳幼児の一時預かり 日・水 6ヶ月から就学前まで 10:00～16:00（1コマ3時間） 定員12名（時間単位）</p> <p>(5)トワイライトステイ 年末年始除く毎日 2歳から12歳まで 17:00～22:00 定員10名</p> <p>(6)児童虐待の防止に関する事業 <input type="checkbox"/> 通報の受付と先駆型子ども家庭支援センターとのすみやかな連携 <input type="checkbox"/> 光が丘地域ネットワークへの参加（要保護児童対策地域協議会地域部会）</p> <p>(7)練馬区ファミリーサポートセンター事業の窓口 地域における、主に利用会員からの問い合わせと事務的な窓口</p> <p>(8)その他◇情報提供事業（わかちあいのひろば） <input type="checkbox"/> かわら版「光が丘びよびよ」毎月発行 <input type="checkbox"/> 子育て関連・地域・リサイクル情報 掲示板、チラシ配布 <input type="checkbox"/> ホームページ ◇人材育成・ネットワーク事業 <input type="checkbox"/> 結成一年未満の子育て支援団体への会議室無償貸し出し等 <input type="checkbox"/> 子育て支援団体への印刷機貸し出し <input type="checkbox"/> 子育てボランティアの受け入れ</p> <p>自主活動 <input type="checkbox"/> 月曜日ひろば（通称：げつびよ 大きい子（2, 3歳児）向けに会議室を開放）</p> <p>(9)スーパーバイザー 藤尾静枝（支援者のための研究室 悠 代表 保健師・精神保健福祉士） ※グループミーティングも担当 龍野陽子（子どもの虐待防止センター 元専任相談員）</p>	<p>事業目標・方針と展開</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 私たちは、地域の子どもとその家族一人ひとりが、神に愛され、生かされているという事実によって、事業を行います。 2 私たちは、地域の子どもとその家族一人ひとりの人格と個性を尊重し、子ども達が心身ともに健やかに育つ街や社会を作ることを目指します。 3 私たちは、センターがそこに集うすべての子どもと大人にとって、安全で安心、大切にされていると感じることのできる場となるように日々努力します。 4 私たちは、地域の子どもとその家族が抱える問題を受け止め、よりよい解決に向えるよう、専門性にに基づき対応します。 5 私たちは、地域の人々や他の専門機関と連携して、子どもとその家族のニーズに合わせて、必要な支援を行うことに努めます。 <p>方針と展開</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ひろば活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ひろばにおいて親子との丁寧なかかわりの中で信頼関係を築き、親同士、子ども同士のつながりが豊かになっていくように配慮、サポートを心掛ける。 ・特に新規来所者や一人で来ている人に対しては、丁寧なサポートを心がけ、次の来所に繋がるように努めていく。 ・母親、父親のもっている知識、特技、趣味などをひろばで発揮できる機会を作ったりして、親達の生き生きした活動をサポートしていく。 ・地域の保健相談所、助産師、民生児童委員等と協力してセンター来所への広報活動をしていく。 2. 相談活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもや親自身、また家族について、安心して話したり相談できる場と感じられるようにする。 ・スタッフ間での情報共有を常に心がけ、方向性をもった支援をしていく。 ・長時間・多人数の職場で、皆が揃わない事が多いので、共有・連携を特に心がけていく。 ・スタッフミーティングで、個々の家族が抱える問題の整理と支援の方向性を共有する。 ・スーパーバイザーとの隔月でのケース会議で、問題を見極め、支援の方向性を探る。 ・ケースに応じ、練馬子ども家庭支援センターと連携し、訪問や機関への同行、情報提供など、必要に応じ積極的に協力していく ・特に虐待ケースに関しては練馬子ども家庭支援センター（先駆型）との迅速で密な連携を強化する。 3. 一時預かり、トワイライト事業の活動充実 <ul style="list-style-type: none"> ・一時預かり、トワイライトステイは法人内の保育園、学童、また他区での活動を学びながら、より良い保育のあり方を探っていく。 ・ひろばでの相談から一時預かりへ繋がっている親子については、サポートや配慮を丁寧にし、親子にとって良い場所となるようにする。 ・トワイライトステイは、子どもにとって長時間（保育園・学童に続いて）の保育となるので、楽しく過ごすことと共に、子ども達の健康や心への配慮を心がけ、常にスタッフ間で子どもの様子を共有して利用の親子の支援をしていく。 4. 各種講座内容等の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・来所者のニーズ、相談の内容などから必要なものをとらえ、こちらのメッセージも兼ね合せ、講座内容を構成する。 5. 地域の子育て活動やボランティアとの協同 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の様々な活動との協同を今年度は意識して取り組み、新しい活動を探っていく。
<p>ネットワーク</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 光が丘地域ネットワークへの参加（前掲） 2. 光が丘地区主任児童委員定例会議への出席 3. 地域子育て支援団体への支援による連携（前掲） 4. 子育ての輪への参加（光が丘地域公立保育園が核となった光が丘地区の子育てフェスティバル 児童館・保健相談所等も参加） 5. 練馬区子育て支援者ネットワークの構築（練馬区よりの依頼） 	<p>職員構成</p> <p>○所長 1名 ○子ども家庭支援ワーカー 5名</p> <p>内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーダー（ひろば担当）1名 ・リーダー（一時保担当）1名 ・ひろば・一時・トワイライト担当2名 ・相談担当1名 <p>○非常勤 14名</p>
<p>環境整備</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児期の子どもが十分に遊びを楽しみ、親子が安心してくつろげる居場所となる環境作りを心掛ける <input type="checkbox"/> 清潔で安全なひろば（乳児の利用が多い為、年齢構成に配慮した環境） <input type="checkbox"/> 遊びコーナーの見直しと再構成 2. トワイライトステイでは小学生の利用もあるので、小学生が楽しんで過ごすことの出来る環境作り。 3. 室内の装飾等は家庭的な穏やかで温かい雰囲気を大切にする。 	<p>主な研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 職場内研修・法人主催の研修（経験年数別・ブロック別など） ○ 東京都子ども家庭支援センター自主研究会 ○ 子どもの虐待防止センター主催研修各種 ○ 東京都主催研修各種・東京都精神福祉保健センター研修各種 ○ 子育てセンター実践研究会 実践交流セミナー ○ つどいの広場全国連絡協議会主催子育てひろば研修

委託

光が丘

2012年（平成24年）度 事業計画書

施設名：練馬区立大泉子ども家庭支援センター

記入者：新澤拓治

<p>事業の内容と展開</p>	<p>(1)子どもと家庭の総合相談事業 ○ 電話相談 ○面接相談 ○ 子どもと母親のグループミーティング（精神保健福祉士の下に） ○ 個別ケースにおける関係機関との連携（ケースマネジメントを中心に）</p> <p>(2)子育て啓発事業 ○ノーバディズパーフェクト1期開催 ○カプラで遊ぼう ○思い切り遊び隊 ○保育園看護師の健康講座○保育園栄養士の栄養講座 ○地域小児科医による健康講座 ○グループ懇談会【新規】</p> <p>(3)子育てのひろば 大泉びよびよ 日・水除く毎日 10：00～16：00 ○季節の行事（年3回） ○スポットタイム（おはなし会・ふれあい遊び）月2回 ○誕生月の手型とり</p> <p>(4)乳幼児の一時預かり 日・水 6ヶ月から就学前まで 10：00～16：00 （1コマ3時間） 定員10名（時間単位）(+2名の弾力化【新規】)</p> <p>(5)トワイライトステイ 年末年始除く毎日 2歳から12歳まで 17：00～22：00 定員10名</p> <p>(6)児童虐待の防止に関する事業 ○通報の受付と先駆型子ども家庭支援センターとのすみやかな連携 ○大泉地域ネットワークへの参加（要保護児童対策地域協議会地域部会）</p> <p>(7)練馬区ファミリーサポートセンター事業の窓口 地域における、主に利用会員からの問い合わせと事務的な窓口</p> <p>(8)その他 ◇情報提供事業（わかちあいのひろば） ○ かわら版「大泉びよびよ」毎月発行 ○ 子育て関連・地域・リサイクル情報 掲示板、チラシ配布 ○ ホームページ ◇人材育成・ネットワーク事業 ○ 結成一年未満の子育て支援団体への会議室無償貸し出し等 ○ 子育て支援団体への印刷機無償貸し出し ○ 子育てボランティアの受け入れ ○ 大泉地域 子育て支援ネットワーク（こざくらの会）との連携</p> <p>(9)スーパーバイザー 藤尾静枝（支援者のための研究室 悠 代表 保健師・精神保健福祉士） ※グループミーティングも担当 龍野陽子（子どもの虐待防止センター 元専任相談員）</p>	<p>事業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 私たちは、地域の子どもとその家族一人ひとりが、神に愛され、生かされているという事実に立って事業を行ないます。 2 私たちは、地域の子どもとその家族一人ひとりの人格と個性を尊重し、子どもたちが心身ともに健やかに育つ街や社会を作ることを目指します。 3 私たちは、センターがそこに集うすべての子どもと大人にとって、安全で安心、大切にされていると感じることのできる場となるように日々努力します。 4 私たちは、地域の子どもとその家族が抱える問題を受け止め、より良い解決に向えるよう、専門性にに基づき対応します。 5 私たちは、地域の人々や他の専門機関と連携して、子どもとその家族のニーズにあわせて、必要な支援を行うことに努めます。 <p>方針と展開</p> <p>1 信頼関係の発展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 三年目の運営に入るが、一年目、二年目と地域との信頼関係を築くこと、積み上げることを第一、第二ステップとしてきた。利用者はもとより、地域住民、区関係者、関係機関、地域子育て支援団体等様々な面での信頼関係をより深めていく。 ・ 桜にかこまれた閑静な住宅地に存在し、地域住民にとっても思い入れのある土地であり、桜を大切にすることや、清潔に努め、周辺住民との交流等にさらに配慮していきたい。 ・ さくら付近は遊歩道であり、地域住民の憩いの場ともなっている。通行量も多く、地域のお年寄りが転んで怪我などをして2回程救急車を呼ぶ事もあったが、「何かあったら」という意味で地域から頼りにされる施設となっていく。 <p>2 ひろば活動のジャンプ時期に</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ひろばの目標の中でも大きな要素である、エンパワメントという点について、3年目はホップステップジャンプのジャンプの年にしていく。基本的な信頼関係からスタートしたひろばだが、今年度はより利用者の自己発揮を支援し、客体から主体への移行を促していきたいと考えている。2年目までにも様々な利用者から企画者、運営者へという活動が芽吹いており、よりひろがっていくよう努力していきたい。 <p>3 相談活動の深まりと重層的な対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 二年目にして、相談担当職員が異動するということがあったが、一年目で関係機関との連携等下地作りが出来ており、スムーズな移行が出来た。さらに区の処遇検討会議、所内でのスーパーバイズといったことも積み上げ、相談活動の充実があった。3年目は、相談担当が中心的に行なってきた活動をより、他の職員も担えるようにしていき、センターとして、重層的に相談の対応ができるようにしていく。 ・ スタッフ間でのケース検討を日常的に行い情報共有し、方向性をもった支援をしていく ・ スーパーバイザーから定期的にサポートを受ける（毎月 藤尾静江先生）（隔月 龍野陽子先生（予定）） ・ ケースに応じ、練馬区児童福祉担当（石神井）と連携し、訪問や機関への同行、調査、情報提供など、必要があれば積極的に協力していく ・ ケースに応じ、関係者会議等も積極的な参加を図る。 ・ 特に虐待ケースに関しては練馬区児童福祉担当（石神井）との迅速で密な連携を強化する。 <p>4 一時預かり、トワイライト事業の安定化と質の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一時預かり、トワイライトステイは法人内の今までの保育、学童等のノウハウを継承し、質の高い事業としていく。 ・ 特に一時預かりはニーズも高く、定員二名を弾力的に増加出来るようにしていく <p>5 各種講座内容等の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 来所者のニーズ、相談の内容などから必要なものをとらえ、こちらのメッセージも兼ね合せ、講座内容を構成する。 <p>6 チームワークのよい職場環境作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 週7日開所、9時から22時までの開所と長時間開所の施設であるがゆえ、職員もシフトがバラバラ、また非常勤の数も多い、また、職員数が減少する為、より助けあうチームとなる必要がある。 ・ 長時間、期間の職場だからこそ、健全な労務管理を行ない、職員の心身の健全を保持する
<p>ネットワーク</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大泉地域ネットワークへの参加（前掲） 2. 大泉地区主任児童委員定例会議への出席 3. 地域子育て支援団体への支援による連携（前掲） 4. 子育ての輪への参加（石神井地域公立保育園が核となった石神井・大泉地区の子育てフェスティバル 児童館・保健相談所等も参加） 5. 練馬区子育て支援者ネットワークの構築 こざくらの会との連携（前掲） 	
<p>環境構成</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児期の子どもが十分に遊びを楽しみ、親子が安心してくつろげる居場所となる環境作りを心掛ける ○安全安心の環境整備（乳児の利用が多い為、年齢構成に配慮した環境） 2. トワイライトステイでは小学生の利用もあるので、小学生男女が楽しんで過ごすことのできる環境作り。 3. 3年目の運営になるが、安全、清潔の維持管理を徹底する。 	
<p>主な研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 職場内研修・法人主催の研修（経験年数別・ブロック別など） ○ 子ども虐待防止センター主催研修各種 ○ 東京都主催研修各種・東京都精神福祉保健センター研修各種 ○ 子育てセンター実践研究会 実践交流セミナー ○ つどいの広場全国連絡協議会主催子育てひろば研修 	<p>職員構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 所長 1名 ○ 子ども家庭支援ワーカー 5名 <p>内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リーダー（ひろば担当）1名 ・ リーダー（一時保担当）1名 ・ ひろば・一時・トワイライト担当2名 ・ 相談担当1名 <ul style="list-style-type: none"> ○ 非常勤 10名

委託

大泉

2012年度 雲柱社 児童館ブロック事業計画

児童クラブ 事業目標	私たちは所属する各自治体の方針を尊重し、子どもたち、保護者、地域の方々と力を合わせて、楽しく充実した学童クラブ活動を展開していくために、次のような目標を掲げて事業に取り組みます。 1、私たちは、放課後の子どもたちにとって居場所となる学童クラブを目指します。 2、私たちは、危機管理を十全にして、安心と安全が保障された学童クラブを目指します。 3、私たちは、子どもたちが多様な体験を通して、生きる力を育むことが出来る学童クラブを目指します。 4、私たちは、子どもたちが、それぞれの個性と能力を発揮できる学童クラブを目指します。 5、私たちは、自由と規律を大切にす学童クラブを目指します。 6、私たちは、保護者のニーズ（就労支援、子育て不安など）に応える学童クラブを目指します。 7、私たちは、地域との交流を深め、地域の人たちから愛され支えられる学童クラブを目指します。
---------------	--

施設名 高松小学童クラブ
記入者 青木 郁夫

< 1 > 事業計画

	子育て支援活動（乳幼児・親）	学童クラブ
活動目標	子育て中の親同士の交流、仲間作りの場として、学童クラブ室の午前中の児童のいない時間帯を「にこにこ」と名付け開放する。	*家庭に代わり安全で安心して過ごせる居場所となる。 *友達との交流 遊び、集団での活動を通し、社会性を育てていく。 *いろいろな活動に取り組み生活経験を豊かにしていく。 *保護者が安心して働けるような対応をしていく。
活動内容 行事等	毎週月、火、木、金（祝日を除く）の午前中にクラブ室を開放し利用してもらう。 遊具での自由遊びの他に、紙芝居や体操などを実施。 ※月に一度、プログラムを実施する ・小麦粉ねんど ・水あそび ・新聞遊び ・ペインティング ・クリスマス会 ・豆まき ・子ども家庭支援センターの職員による「スポット」など	行事 夏のお出かけ（8月） ハロウィンパーティー（10月） おたのしみ会（12月） 正月遊び（1月） 節分遊び（2月） お別れ遠足（3月） 毎月： 誕生会・学年タイム 日常活動： 手芸 製作 ゲーム 読書 宿題等 手作りおやつ：不定期に実施 お店屋さんおやつ：不定期に実施 昼食会：長期休みなど 毎月発行： 学童クラブ便り 保護者会： 年3回 個人面談：6月と10月 ひろば、高松地区区民館学童クラブとの交流

< 2 > 職員構成

- ・主事 1名
- ・児童厚生員 2名
 内 学童担当 2名

< 3 > 研修

- ・施設内研修
- ・児童館ブロック研修
- ・法人研修
- ・所属する自治体の研修
- ・その他の研修

< 4 > その他

* 定員 40名

練馬区では区立民営学童クラブの場合、定員を超えて60人までは弾力的に受け入れていく。

障がい児の受け入れは最大3名まで。(区立民営学童クラブの場合)

委託

高松小

- 平成25年度からの新体系移行に向けて小金井市との協議および準備を進める。
- 利用者の安全確保のため、福祉会館耐震工事早期着工を小金井市に要望していく。
- 前年同様、利用者の工賃安定を図るため、受注業者から安定的に受注が入るよう考えていく。新しい作業を積極的に受け入れていく。
- 福祉会館内の清掃班の負担軽減のため、ひとりひとりの適性に合った清掃用具の改善や清掃方法の見直しを行っていく。
- 高齢利用者の排泄介助・インフルエンザ・ノロウイルスなどの感染症への対応等、利用者の衛生面・健康面に配慮する。
- 利用者の生活習慣病予防として、健康相談への利用を働きかけていく。
- 利用者の高齢化に伴い医療機関との関わり方・かかりつけ医及び使用薬の把握に努める。
- 利用者の行き帰りの安全や地域とのより良い関係を考え、ご家族・グループホームと連携し、対応していく。
- グループかがわの成人部門施設と協力し、利用者の生活向上にむけて支援内容の充実を図る。

1 施設運営

(1) 実施事業

作業内容

- ・ 委託作業 (福祉会館清掃、福祉会館風呂場清掃、珪製作)
- ・ 受注作業 (付録詰め、割り箸袋入れ、DM封入、説明書折り)
- ・ 自主製品作業 (陶芸、手工芸品)

余暇活動

陶芸クラブ、映画鑑賞会

(2) 利用者の処遇

利用者定員：20名 (現員18名)

健康管理

年1回 健康診断 小金井市障がい者健康診断 2月 内科検診 嘱託医
処遇方針

- ・ 毎日、楽しく通所して来られるよう環境を整える。
- ・ 利用者の個別支援計画に基づき、支援する。

主な行事予定 4月 お花見 (3万円)
(行事費用) 6月 日帰り旅行 (14.5万円)
10月 秋の一泊旅行 (36.8万円)
12月 クリスマス会 (7.8万円)

2月 慰労会（7.8万円）

安全管理

防災訓練 年4回 福祉会館全体避難訓練 年1回

(3) 職員の処遇

職員構成

所長	1名（兼務）	主任支援員	1名
支援員	2名	短時間パート職員	2名
障がい者雇用パート職員	1名	嘱託医・相談員（非常勤）	各1名
事務員	4名（兼務）	内1名非常勤	

健康管理

健康診断 年1回

職員会議

法人全体集会	年1回	GK全体職員会	年3回
成人部全体職員会	年3回		
運営会	月1回	成人部運営会	月1回
職員会議	年12回	ケース会議	年6回
職員打ち合わせ	毎日		

研修計画（研修費用）

ブロック内研修（1.5万円） 法人内研修（2万円）
外部研修（4.5万円）

2 施設管理

(1) 整備関係

- ・空調設備の改善

(2) 備品関係

- ・オーディオ機器購入予定

(3) 災害対策

- ・非常食糧の備蓄（19+4）人×1食×（1日）分 期限切れのため買い替え
- ・拡声器、非常用持ち出し袋

3 地域社会との連携

- ・福祉会館まつりに参加し、市内の作業所・会館利用者との交流を深める。
- ・障がい者週間のポスター制作やイベントに参加する。
- ・福祉会館内のゴミの分別に協力する。
- ・市民ボランティアと協力し、余暇活動の充実を図る。
- ・市役所からの注意事項（衛生面・生活面）を、正確に利用者へ伝達し未然にトラブルを回避するよう務める。

4 その他

- ・月1回おたよりを発行していく。
- ・利用者との話し合いを持ち、行事等の企画・立案をしていく。

賀川学園は、児童福祉法及び障害者自立支援法の改正により、2013(平成24)年4月から「児童発達支援センター」とし、2016（平成27）年までの間に保育所等訪問支援などの地域支援の本格実施が求められるようになる。今年度一年間をかけて、新しい園の体制を検討し、センター機能を構築していく必要がある。

- 児童発達支援センターに求められている「地域支援」をどのように実現するか、さくらの木との兼務体制を含めて検討し、具体的な計画を立てる。また、センター化に伴い人材育成を重視するため、常勤職員を1名増員する。
- 療育における心理士の役割（相談、心理検査等）を見直すとともに、保護者向けの学習会など、新たな取り組みを実施する。
- 小金井地区総合マスタープラン委員会において、現状の土地・建物の活用とともに、事業内容の展開を話し合っていく。
- 法人内の地域連携のスタートとして、各事業所の見学や研修などを実施し、相互理解を深める取り組みをすすめる。
- 愛の園保育園との園児の交流を計画的にすすめる。
- 職員育成計画を検討する。
- 関係機関の見学の充実と、職員の資格取得を奨励する。
- 療育の技術を高めるため、指導手順書にて職員間での共通理解を図る。
- 修繕や備品の整備に関しては、助成金等の活用を図る。
- 教材費・光熱費の節約に努める。

1 施設運営

(1) 実施事業

- ・ 集団療育と個別学習
- ・ 待機児グループ
- ・ 発達相談
- ・ 卒園生のアフターケア

(2) 児童の処遇

ア クラス編成（定員35名）

- ・ 週5日通園クラス 3クラス（27名）
- ・ 週4日通園クラス 1クラス（6名）
- ・ 週1日通園クラス 6クラス（36名）

イ 健康管理 … 週4日・週5日通園クラス対象

- ・ 内科検診 年2回（4月、11月）
- ・ 身体測定（身長・体重） 毎月
- ・ 身体測定（頭囲・胸囲） 年2回（4月、10月）
- ・ 歯科検診 年1回（11月）
- ・ 蟻虫卵検査 年1回（5月）

ウ 療育目標

法人の事業理念に基づき、以下のような取り組みを行う。

- ・ 週5日・週4日通園

日々の園生活での積み重ねを大切に、人からの働きかけを受け入れ周りに目を向けながら様々な活動に取り組む。それらの取り組みの中で、生活習慣、コミュニケーション、社会性の育成に力を入れていく。保護者との話し合いを大切に、家庭との連携を重視する。

- ・ 週1日通園

保育園や幼稚園との併行通園児を中心に、集団活動の基本的なルールや人との関わり方を学ぶ場を提供する。保護者の相談に乗り、専門的なアドバイスをしながら、また母体となる集団（保育園など）との連携を大切にしていく。

エ 主な行事予定 ※行事費用：実費徴収分除く

4月：入園式 (5,000円)	2月：文集 (32,000円：コピー代込)
5月：春合宿 (280,000円)	2月：アイススケート体験 (65,000円)
6月：お楽しみ会 (5,000円)	3月：卒園劇 (10,000円)
9月：運動会 (35,000円)	3月：おわかれ会 (15,000円)
10月：遠足 (10,000円)	3月：卒園式 (58,000円)
12月：クリスマス会 (38,000円)	

オ 栄養管理

- ・献立や配膳に反映させるため、毎月の職員会議内で給食会議を実施し、園児の食事の様子や指導員の意見を取り入れるとともに、保護者の試食会を検討する。
- ・食品の種類、調理方法を工夫し、変化に富んだ献立を提供するとともに、園児が安心して食事を楽しめるよう、繰り返しメニューも取り入れる。
- ・食品の安全性に配慮するとともに、衛生管理を徹底する。

カ 安全管理

- ・園児が安全に生活できるよう、園内の設備・遊具の点検を定期的に行う。
- ・ヒヤリハット記録を活用し、事故の防止に努める。
- ・来園者はテレビモニターで確認することを徹底し、不審者の侵入を予防する。
- ・療育時のケガ、体調不良には速やかに対応できるよう、職員間で役割を確認しておく。

キ 苦情解決

法人の定める実施要綱に基づき、適切かつ迅速に対応する。

(3) 職員の処遇

ア 職員構成 (人数)

	常勤	非常勤
園長	1 ※他事業所兼務	
主任指導員	1	
児童指導員・保育士	15 ※内4名他事業所兼務	4
調理員	1 ※他事業所兼務	5 ※他事業所兼務
事務員	3 ※他事業所兼務	1 ※他事業所兼務
看護師		1
嘱託医		1 ※業務委託
臨床心理士		1 ※業務委託
スーパーバイザー	臨床発達心理士・作業療法士	各1 ※業務委託

イ 健康管理

- ・健康診断 年1回(6～10月)
- ・細菌検査 調理員毎月1回

ウ 職員会議

- ・GK全体職員会(年3回)
- ・ブロック会議(年3回)
- ・児童部門会議(月1回)
- ・児童部門職員会議(年2回)
- ・職員会議(月1回)
- ・リーダー会議(月1回)
- ・ケース会議(月3回)
- ・クラス会議(週2回)
- ・報告会(平日療育日)

エ 研修計画(研修費用)

- ・園内研修(200,000円)
- ・法人内研修(200,000円)
- ・自閉症等発達障害児の療育に関する各種外部研修(150,000円)
- ・学校や関連施設の見学

2 施設管理

(1) 設備関係

- ・老朽化によるボイラー、保育室及び個別学習室のエアコンの買い替え(設置後23年経過)
- ・電気・配管等の修繕計画を作成(建築後23年経過)
- ・テラス等の鉄部修繕及び屋上防水工事
- ・2階保育室の床張替え

(2) 備品関係

- ・心理検査器具の購入を検討

(3) 災害対策

ア 災害時に備えた訓練

- ・避難訓練(月1回)
- ・園児引き渡し訓練の実施(年1回)
- ・愛の園保育園・かがわ工房との合同総合避難訓練(年1回)

イ 防災設備の点検委託年2回(内、消防署への届け出1回)

ウ 非常食糧の備蓄(全園児数)×3食×(1日)分

エ 大災害に備え、保護者や職員間の連絡方法、避難等の手順を再確認する。

3 地域社会との連携

- ・隣接する愛の園保育園との交流
- ・実習生、ボランティアの積極的な受け入れ
- ・グループかがわ後援会主催バザーへの協力
- ・町内会の行事への協力と参加

利用者は2010年度より17名増やし、現在87名が契約をしているが、今年度中に100名の利用者数を目標としている。実働登録ヘルパーは15名で、男性スタッフが増えてきたため、特に対応の難しい体格の大きい利用者の方へも支援をすることができるようになってきている。ただ、2012年3月をもって主要学生ヘルパーの約半数が卒業と同時に退職となり、再び新規ヘルパー獲得に向けて近隣の大学等に宣伝、勧誘活動に行く必要がある。

また、特に学校以外に支援の受け皿のない小中高生の放課後支援については多大なニーズがあり、日中一時支援事業の申請等により柔軟に利用者のニーズに応えられるような体制作りを基盤を整えた。今年度は放課後等ディサービス事業の申請も視野に入れ、居宅介護（および行動援護）事業、移動支援事業、日中一時支援事業、そして放課後等ディサービス事業と、障がい児・者の地域生活を支えるために複合的で利便性の高い事業展開を推し進める一年としたい。また、障害者総合福祉法（案）への法制度の変革の流れのなかで、かがわブロックの他事業所との連携をとりながら様々なニーズに応え、経営の安定化を図っていきたい。

- ヘルパーの人材確保と研修等人材育成の充実
- 利用者のニーズに応じていくため、新規事業（放課後等ディサービス事業）展開の検討
- サービスの質の均一化へ向けてヘルパー支援マニュアルの再整備
- 苦情対応の徹底と対策
- 地域との連携を深めるために、町内会行事に参加し、他の事業所との情報交換やヘルパー養成等相互協力をすすめていく。

1 施設運営

(1) 実施事業

- 知的障害児・者居宅介護事業（および行動援護事業）
- 知的障害児・者移動支援事業（各市町村の地域生活支援事業）
- 知的障害児日中一時支援事業（各市町村の地域生活支援事業）
- その他有料の預かり事業
- 東京都障害者（児）移動支援従業者養成研修（ガイドヘルパー養成研修）

(2) 利用者の処遇

ア 利用者数

総利用者数87名（今後さらに増加見込み：2012年度は100名程度を予定）

イ 処遇方針

- ・個別援助計画に基づき、本人の意向を尊重した余暇を充実させることを目指す。

ウ 健康管理

- ・スタッフの日々の体調管理とともに、保護者、学校関係者、施設職員などと連絡を密にするようにする。
- ・利用者が利用している医療機関との連携を図り、薬の保持・服用については職員が管理する。
- ・急な発熱、怪我等、職員が病院に付き添う場合の体制を整備し、危機管理マニュアルを用いて職員に周知徹底する。

エ 主な行事予定

- ・夏季休暇時の川遊び等のイベント

オ 栄養管理

- ・支援で昼食をとる際は年齢・体格に応じ、栄養のバランスを考えたメニューを選択する。

カ 安全管理

- ・責任者および職員が事業所名義の携帯電話を常に携帯し、事務所に職員が不在のときにでも、転送されてきた電話やメールにて緊急時に必要な対応が出来るようにする。
- ・災害、特に大震災時にはあらかじめヘルパーに配布されている緊急時マニュアルに基づき、利用者の安全確保を第一に対応するよう心がける。また、震災時は携帯電話やメールが繋がらないうえ、伝言ダイヤル(171)の活用方法を利用者ヘルパーに文書にて伝える。

(3) 職員の処遇

ア 職員構成

センター長	1名	(※他事業所兼務)
管理者・サービス提供責任者	1名	
支援スタッフ	12名	
(サービス提供責任者1名、常勤兼務職員2名、パート職員10名)		
事務員	4名	(※他事業所兼務 内1名非常勤)

イ 健康管理

健康診断 年1回 (8月～10月)

ウ 職員会議

- ・グループかがわ全体職員会 年3回
- ・ウイングス連絡会 (施設長・サービス提供責任者・事務) 隔月開催
- ・ケース会・支援前打合せ (随時)

エ 研修計画 (研修費用)

- ・ブロック内研修 年3回 (3万円)
- ・法人内研修 (4万円)
- ・外部研修 (6万円) ※特に「居宅ネット」研修へ

2 施設管理

(1) 設備関係

- ・KAGAWA 館の老朽箇所や故障による修繕 (10万円)

(2) 備品関係

- ・必要な生活備品や衛生備品は随時整備する。

(3) 災害対策

- ・避難経路や消火器の設置場所など利用者とも確認し、非常時に対応できるようにする。
- ・災害時の対応を日ごろから利用者とも話し合っておく。

3 地域社会との連携

- ・ガイドヘルパー養成研修を行い、さらに近隣の大学 (東京学芸大学、東京経済大学、津田塾大学等) やその他の機関にヘルパー募集のアプローチを行う。
- ・バザーや町内会の行事に参加し、地域の方たちとの交流を深める。
- ・地域の移動支援等の事業所 (色えんぴつ・くじら雲・夕焼け子どもクラブ…等) との連携を深め、情報交換を積極的にしていく。特に色えんぴつ (滝乃川学園) は昨年ガイドヘルパー養成研修および行動援護研修の実習受け入れをしており、今年もさらに相互の連携を深める。

平成24年度内に新しいケアホームの建設を予定しており、開設に向けて準備、体制を整えていく。寮と成人部門の日中事業所とで協力体制を図っていく。また、各寮に応じた夜間専門支援員の数を配置し、勤務体制をより整えていく。

1 施設運営

(1) 実施事業

- ・知的障害者ケアホーム（共同生活介護） 定員26名
- ・知的障害者グループホーム（共同生活援助） 定員1名

(2) 利用者の処遇

ア 利用者数

ホーム名	定員	利用者数
シリウス	6名	6名
ミラ	5名	5名
カペラ	5名	5名
ベガ	4名	4名
ジュピター	7名	7名
計	27名	27名

イ 処遇方針

- ・法人の理念に基づき、利用者の人権を尊重し、利用者一人一人が社会の一員として、より豊かに暮らしていけるよう適切な支援を行い、自立を促進することを目標とする。
- ・安定して生活できる事、身の回りのことが一人でできる事を目標に、各利用者の個別支援計画を作成し、ご家族の方からの同意を得る。
- ・各寮に担当責任者を一人配置し、役割と組織の明確化を図る。
- ・各寮で定期的にミーティングを行い、支援の確認、統一を図る。
- ・寮が少しずつ増えてきた中、日々の業務が各寮共通性をもって行われるよう確認を行う
- ・余暇、行事については、各寮の特性に配慮し利用者による企画や意見を尊重しながら、年間計画を立てて行っていく。また、かがわサポートセンター・ウイングスとの連携を図り、個別の余暇時間の充実を図る。
- ・保護者会を行い、保護者の方の意見や要望を汲みながら支援を行っていく。
- ・夜間専門支援員と合同のケース勉強会を開催し、支援の統一性を図る。

ウ 健康管理

- ・日々の体調管理（食欲・睡眠等）と共に、日中活動の場である各事業所の健康診断の結果に基づき、家庭とも連携して健康管理に取り組んでいく。
- ・定期的に体重測定を行い、体重の管理に気を配る。
- ・インフルエンザやノロウイルスといった感染症の予防対策として、帰寮時の手洗い、うがいを習慣化する。また、朝の検温を行い、体調を管理する。
- ・服薬がある利用者の薬の保持・服用については職員が管理する。

- ・医療、家庭との連携を図る。薬の調整等が必要であったり、保護者の定期的な通院付き添いが困難な利用者については、職員が通院に付き添い対応を考えていく。

エ 栄養管理

- ・年齢や体格に応じ、栄養のバランスを考えた献立を作成する。また、分量の調整など各自に応じて提供していく。

オ 安全管理

- ・夜間等の連絡、支援体制を整備し、緊急時に必要な対応が出来るようにする。
- ・避難訓練を実施する。

(3) 職員の処遇

ア 職員構成

施設長 1名 サービス管理責任者・主任（兼務） 1名
世話人（兼務） 22名 生活支援員（非常勤） 5名 夜間専門支援員 9名
事務員 4名（兼務 内1名非常勤）

イ 職員会議

GK全体職員会（年3回） 成人部門合同会議（年2回） 運営会（月1回）
成人部会（月1回） 職員会議 ケース会 行事前打合せ会（随時）
寮地区会議（月1回） 夜間専門支援員ケース勉強会（年2回）

ウ 研修計画

- ・法人 新人職員研修 全体職員研修 施設長研修 主任研修 経験別研修
- ・ブロック内 全体職員研修 実践報告・合評会 他事業体験研修
- ・外部研修 各自年1回以上

2 施設管理

(1) 設備関係

- ・KAGAWA館の給排水については点検、清掃を行ない整備する。
- ・シリウスは新築から10年を過ぎたため、建物の修繕計画を立てて1つ1つ実施していく。
- ・ジュピターのエアコンの取り換えを行う。
- ・必要に応じて老朽箇所や故障による修繕を随時行う。

(2) 備品関係

- ・各グループホームで必要な生活備品を整備する。

(3) 災害対策

- ・具体的な防災マニュアルを各寮で整備する。災害時に勤務者がスムーズに動けるよう、連絡先や避難場所、持ち出す物等を明確に記す。
- ・災害時に必要な利用者の情報（連絡先、服薬等）をまとめ、作成する。
- ・避難袋、非常食等の整備を行う。

3 地域社会との連携

- ・バザーや町内会の行事に参加し、地域の方たちとの交流を深める。
- ・町内会の会合に出席し、地域の方への理解を深める。
- ・近隣の方たちとの友好的関係が作れるよう、通勤時職員が付き添うなど配慮する。

記入者 中村悠子

- 平成25年8月施行予定の障害者総合福祉法(仮)について、必要な情報収集を行い対応を検討していく。
- 希望する家族と進めてきたケアホーム設立については、年度内の開設に向けて、「かがわの家」と連携し必要な準備を進めていく。
- 小金井市の二次避難所として、市と協議を重ね必要な備蓄品等を揃え災害時に備える。また、所内防災マニュアルについても適宜見直しを図る。
- 就労継続支援事業B型に利用者を1名増やし、事業の安定化を図る。
- 短期入所は、利用希望に応えられるよう工夫を重ねていく。
- 老朽化が進んでいるため、故障や修繕の必要な箇所が年々増えてきている。建替えの時期等も含め東京都とも協議を進めながら対応していく。
- グループかがわ成人部門「桜町地区」として、かがわの家・ベガとも連携を深め協力しながらお互いの事業を進めていく。
- ドアツードアの送迎について、補助金がカットされたが家族の負担軽減のため今後も継続していく。

1 施設運営

(1) 実施事業

生活介護事業 就労継続支援事業(B型) ショートステイ事業

(2) 利用者の支援

- ア. 利用者定員… 生活介護事業 32名 (現員34名)
 就労継続支援事業 10名 (現員13名)
 ショートステイ事業 2床

イ. 支援目標・方針

- ・法人の理念に基づき、利用者の人権を尊重し、利用者一人ひとりが社会の一員としてともに、より豊かに暮らしていけるよう適切な支援を行い、その日々の充実および社会的自立の助長を図ることを目標とする。
- ・利用者一人ひとりの健康状態、生活における能力などを正しく把握し、アセスメントシート・個別支援計画・中間報告書・個別支援報告書を作成する。また、グループごとにケース会を行い計画の達成状況の確認や計画の見直しを行う。作成した計画書や報告書は家族からの同意を得る。
- ・年2回の個別面談(うち1回は希望制)、グループ別参観日(各グループ年1回)、保護者会(年2回)、学習会(年1回)を開催し、家族からの意見や要望を積極的に聞いていく。また、行事等についてアンケートを実施し、家族からの意見や要望の集約に努める。
- ・各グループにリーダー職員を配置し、組織としての役割の分担・明確化を行う。
- ・「援助マニュアル」や「支援の留意点」「個別支援マニュアル」を周知し、安全管理の徹底を行う。また、マニュアル等の内容についての見直しを行う。
- ・創作や体育などは専門講師を引き続き依頼し、活動プログラムの幅を拓げていく。
- ・理学療法士に実際の活動や支援内容を見てもらい、専門家からのアドバイスをうける。また、専門家の助言を受けながら必要な装具の作成を家族と共に行っていく。
- ・苦情が寄せられた場合は、苦情解決システムに沿って対応する。
- ・第三者評価を受診する。

ウ. 健康管理

- ・利用者の健康にについて、感染症の予防等看護師・家庭・医療機関との連携を図る。
- ・薬の保持・服用について看護師が管理する。
- ・利用者が通院している医療機関に、付き添いが必要な場合は職員が通院に付き添う。
- ・レントゲン検診(年1回)、内科検診(年10回)、耳鼻科検診(年1回)、整形検診(年2

回)を行う

- ・理学療法士 (Physical Therapist) 相談を年3回実施し、保護者の方とともに専門家のアドバイスを受ける。

エ. 主な行事

- ・一日外出 (各グループごと年2回) …計30万円
- ・一泊旅行 (2回に分けて開催) …1回70万円 ・実習所祭 (3月) …10万円
- ・クリスマス会…5万円 ・その他季節に合わせた行事

オ. 給食

- ・一般食だけではなく、特別食 (カロリー調整食、減塩食、刻み食、粥食) 等、利用者の健康状態や咀嚼能力に応じた給食を提供する。
- ・外食や所内バイキング食、選択食を実施し、利用者が楽しんで食事できる機会を提供する。

カ. 安全管理

- ・防災訓練を毎月1回実施する。
- ・消防署署員立会いの総合訓練を年1回実施、職員の防災意識の向上を図る。
- ・小金井市の二次避難所として、市と協議をしながら必要な備蓄品を準備する。

(3) 職員の処遇

ア. 職員体制

- ・所長 (兼務) 1名 ・サービス管理責任者・主任 (専任) 1名
- ・生活支援員 (兼務) 13名 (非常勤) 8名 ・職業指導員 (専任) 1名
- ・就労支援員 (兼務) 2名 (非常勤) 2名
- ・看護師 (非常勤) 2名 ・運転士 (非常勤) 5名 ・調理師 (兼務) 1名 (非常勤) 5名
- ・事務員 4名 (兼務 内1名非常勤)

イ. 会議

- ・法人全体集会 (3月)・GK全体職員会 (年3回)・成人部門職員会 (年2回)
- ・運営会 (月1回)・成人部会 (月1回)
- ・職員会議 (月1回)・グループミーティング (隔週1回)・リーダー会 (月1回)
- ・ミーティング (毎朝)・報告会 (毎夕)・行事打ち合わせ (随時)

ウ. 研修計画

- ・法人 新人職員研修 全体職員研修 施設長研修 主任研修
- ・ブロック内 全体職員研修 実践報告・合評会 他事業体験研修
- ・外部研修 各自年1回以上 (予算15万円)、外部研修に参加した職員は職員会で研修報告を行う。
- ・勉強会やケース会、内部研修を積極的に開催し、支援スタッフの育成に重点を置いていく。

2 施設管理

(1) 設備関係

- ・施設内老朽化に伴う修繕を必要に応じて行う。
- ・東京都による利用者トイレ改修工事を行なう。工事期間中は、安全管理を徹底する。

(2) 備品関係

- ・老朽化が進み破損等で使用しづらい箇所があるので、計画的に修繕を行っていきたい。
- ・利用者の方が快適に過ごせるよう、必要な環境の整備を行う。

3 地域社会との連携

- ・地域の方々や近隣の福祉施設、関係団体を招いた「みのりフェスタ」(実習所祭)を開催し交流を深める。
- ・パンの販売や廃食油 (バイオディーゼル精製事業) の回収、自主製品の販売をとおして地域の方への理解を深める。

- 平成 25 年障害者総合福祉法(案)制定へ向けて法制度等の変化のある年であり、情勢をふまえて持続可能な安定的な事業所運営を探る。
- 利用者本人の作業意欲を尊重し、従来の生産活動を継続実施し、パン、焼き菓子の製造販売と販路の拡大及び下請け仕事の新規獲得をすすめる。
- 心身の健康状態や気分転換に配慮した日中活動プログラムを実施する。
- 職員間での利用者支援力の維持向上を図るため、ケース会、学習会の充実を図る。
- 大震災に備えた防災対策を見直し、具体的な計画立案や備品等の備蓄をすすめる。地域や他事業所との連携をより一層図っていく。
- 事業所運営が厳しくなる傾向にあるため水道光熱費、消耗品費等のより一層の節約に努め、経費の削減を図る。
- かがわの家のバックアップ施設として連携を図り、利用者の生活をトータルに支えていく。また合同会議で情報を共有化していく。
- 施設便りや保護者会で、施設情報や方針を伝達し、家族との連携を図る。

1 施設運営

(1) 実施事業

- ① 個別支援計画の策定
- ② 食事、排せつ等日常生活上の支援
- ③ 生産活動の実施
 - ・ 下請作業…付録の袋詰め、封筒制作、ダイレクトメールの封入、ポスティング、ちらし挟み込み、食事セット袋詰め等各事業所と連携をとりながらすすめてゆく。
 - ・ 自主製品の製造・販売…パン、焼き菓子など
 - ・ リサイクル事業…アルミ缶回収
 - ・ ボランティア活動…公園清掃
- ④ 創作活動・リフレッシュ活動・軽運動等の実施…心身の気分転換を図る。
- ⑤ 健康管理…定期的に検温・体重・体脂肪・血圧等の測定を行う。
健康診断・内科検診・歯科検診を行う。
訪問歯科診療を行う。

(2) 利用者の処遇

- ① 利用者定員…25名
- ② 処遇方針
 - ・ 法人の理念に基づき、障がいがある方の人格と個性を尊重し、その成長と生活を支援する。
 - ・ ひとりひとりの状況に配慮し、利用者本人の意欲や要望を尊重し、生産・作業活動や創作的活動を提供し、技能や意欲の向上を図ると共に、社会との関わりをもつ。
 - ・ ひとりひとりの心身の健康状態を常に把握するとともに、日常生活を送る上で必要な社会性への援助を行いながら、自立した地域生活が送れるよう支援する。
 - ・ 各家庭やグループホーム・ケアホームのバックアップ施設として連携しながら、一人ひと

りが心身ともに健康でより充実した地域生活が送れるよう、生活全般について必要な支援を行う。

③ 健康管理

- ・利用者の心身の健康に留意し、家庭、ケアホーム、医療機関との連携を図る。
- ・薬の管理は看護師が行なう。
- ・定期的に体重、体脂肪測定、血圧測定を行い、健康管理に気を配る。
- ・定期的に軽運動やリラクゼーションタイムをとり、心身の気分転換を促す。
- ・訪問歯科診療を継続し、希望者の要望に応える。
- ・感染症の予防に努め、かつ速やかに対応していく。

5月 内科検診 嘱託医

2月 健康診断 多摩府中保健所 (14万円)

④ 主な行事

- ・利用者の要望も聞き、行事の企画に反映していく。

5月 春の日帰り旅行 (8万円)

10月 秋の一泊旅行 (45万円)

12月 クリスマス会 (3万円)

3月 慰労会 (12万円)

⑤ 給食

- ・分量の調整など利用者各自の健康状態や咀嚼に応じた給食を提供する。
- ・季節感を盛り込んだメニューを提供する。

⑥ 安全管理

- ・防災訓練を実施する。(以下の訓練を含む)
- ・学園との合同訓練 年1回(7月) 三施設合同総合訓練 年1回
- ・引渡し訓練 年1回(8月)

(3) 職員の処遇

① 職員の処遇

施設長	1名
サービス管理責任者	1名 (管理職が兼務)
リーダー (生活支援員)	1名
生活支援員 (兼務)	7人
生活支援員 (非常勤)	10名
看護職員 (非常勤)	1名
事務員 (非常勤兼務)	1名
調理員 (兼務)	1名
調理員 (非常勤兼務)	5名
事務員	4名 (兼務 内1名非常勤)

※嘱託医は業務委託契約により実施する。 1名

② 健康管理

健康診断 年1回

③ 会議

法人全体集会 3月

GK全体職員会 年3回

運営会 月1回 成人部会 (施設長、主任) 月1回

かがわブロック施設長会 (理事長、常務、施設長、事務員) 月1回

職員会議 年12回 ケース会議 年3回

④ 研修計画

- <法人> 新人職員研修 経験別研修 階層別研修 施設長研修
- <ブロック内> 全体職員研修 実践報告・合評会 他事業体験研修
- <施設内研修> 新人職員研修
- <外部研修> 各自年1回以上

2 施設管理

(1) 設備関係

- ・ 授産、給食、空調等、設備関係の故障の可能性を考慮する。

(2) 備品関係

- ・ 利用者の方が快適に過ごせるよう、必要な環境の整備を行う。
- ・ ホールの休憩場所の備品等購入

(3) 災害対策

- ・ 防災備品の点検・整備を行う。

3 地域社会との連携

- ・ 近隣と利用者のトラブルに注意する。
- ・ 駐車場の出入りによる近隣への迷惑に配慮する。
- ・ 町内会へ出席、町会祭り等へ参加し、地域の方たちとの理解を深め、交流をもつ。
- ・ 実習生・ボランティアを積極的に受け入れていく。

- 自主製品の販売や受注作業を広げて、利用者への支給金のアップをめざす。
- 活動内容やプログラムの見直しを行い、利用者一人ひとりの生活のいっそうの充実を図る。
- 利用者の健康や安全に配慮し、日常的に働きやすい、生活しやすい環境整備を心がける。
- 共同募金の補助金を受けて、一泊研修を実施する。
- 災害時の対応、計画の見直しを行い、必要な備品の整備も行う。
- 日常的に節電を心がける。

1 施設運営

（1）実施事業

- ① 体操やウォーキング
- ② 菓子、ポストカードなど自主製品の製造・販売
- ③ 農作業
- ④ アイロンビーズ等の創作活動
- ⑤ 付録の袋詰め、部品の袋詰めなどの受注作業
- ⑥ アルミ缶回収などのリサイクル事業
- ⑦ 清掃作業

（2）利用者支援

利用定員…20人

在籍 …24人

支援方針

・活動と生活面から利用者の状況、課題を検討し、個別の支援計画を立て、支援内容の充実を図る。

・家族やグループホームなどとの連携を強化し、利用者の生活の充実を図る。

・5月下旬より個別支援計画について、本人、家族との個別面談を行う。

・家族懇談会 年1回

健康管理

・内科検診 年1回

・健康診断 年1回

・作業前にラジオ体操を行う。

・毎週検温、毎月体重測定、血圧測定

・訪問歯科治療を受ける。

主な行事

- 5月 日帰り旅行
- 9月 一泊研修
- 12月 クリスマス会
- 3月 慰労会

給 食

- ・利用者各自の健康にも配慮した給食を提供する。
- ・折々に楽しめる季節、行事食を提供する。

安全管理

- ・災害時の対応マニュアルの整備を進める。
- ・災害時の対応について、利用者家族、職員への徹底を図る。
- ・災害時に必要となる備品の確保、非常用飲料水・食料の整備を図る。

(3) 職員の処遇

職員の構成

施設長 1 人（兼務）、サービス管理責任者 1 人、看護師（非常勤） 1 人、
生活支援員（兼務） 6 人、生活支援員（常勤パート） 3 人
生活支援員（非常勤） 10 人
栄養士（非常勤） 1 人、調理員（非常勤） 4 人、医師（嘱託） 1 人、
事務員 4 名（兼務 内 1 名非常勤）、相談員（非常勤） 1 人

健康管理 健康診断 年 1 回

会 議

法人全体集会 1 回 GK 全体職員会 3 回 運営会月 1 回
成人部会 2 ヶ月 1 回 成人部門職員会議年 3 回 職員会議月 1 回
ケース会議

研 修…法人研修、ブロック内研修、外部研修

2 施設管理

- ・老朽化による故障、利用者の行為による破損などについては随時修理を行う。

3 地域社会との連携

- ・ワークスタジオまつりを開催し、近隣の方との親睦を深める。
- ・西多摩療育センターの「ミニ作品展」やあきる野学園の研修会など自主製品の展示や販売を通して地域とのつながりを深める。
- ・あきる野市社会福祉協議会の夏体験ボランティアに参加する。
- ・あきる野市地域自立支援協議会に参加し、関係機関や各事業所とのつながりを深める。

- 平成24年度まで東京都・小金井市の補助金が受けられることとなったが、来年度以降に向けて、賀川学園とともに事業の展開を考える。
- 利用希望者にできるだけ応えられるよう、賀川学園との連携を図り、利用者数の確保をする。
- 最低100名の利用者数の維持を目指し、個別指導の非常勤職員を雇用する。授業等の関係で学生の雇用と個別指導を任せる非常勤職員の雇用は難しいが、グループ活動や体験学習でのボランティアを通し、利用者やさくらの木の業務内容について知ってもらうことで、次年度の非常勤職員の確保にも繋げていけるように、ボランティアを積極的に集める。
- 小金井市より委託を受けた日曜クラブの運営を担当する。
- さくらの木が提供している個別学習について職員間の共通理解を促し、日常の職務における職員の育成を強化するために、ケース会議と学習会を定期的に行う。また、専門性を高めるための研修や他施設・学校の見学を実施する。
- 新人職員が2名入るために、会議の設定や係分担の職員体制に配慮し、さくらの木の業務内容の理解とともに、指導技術の向上を職員全体で学びつつ、人材育成に努める。
- 経費節減を目指し、光熱水費、消耗品費、教材費の節約に努める。
- 建物の老朽化が認められるため、必要に応じた修繕工事を行う。
- 災害に備えて、保護者や職員（非常勤を含めた）との連絡体制を整え、日々の訓練や備蓄など、避難時に備える。緊急連絡用カードを作成する。

1 施設運営

(1) 実施事業

- ア 個別指導 (幼児・小学生対象)
- イ ペア指導 (中学生対象)
- ウ グループ指導 (幼児・小学生・中学生・高校生対象)
- エ 余暇支援 (小学生対象)
- オ 体験学習 (小学生・中学生・高校生対象)
- カ 日曜クラブ (小金井市在住 小学生・中学生・高校生対象)
- キ さくらの木相談室 (利用者の保護者の他、外部も対象)
- ク オリジナル教材の頒布 (利用者の家族の他、外部も対象)

(2) 利用者の処遇

ア 利用者数年齢構成

	利用者数
幼 児	5
小学生	70
中学生	15
高校生	10
合 計	100

ウ 健康管理

指導にあたっては利用者の健康状態に留意する。軽い怪我には対応できるような薬を常備する。

エ 指導目標

法人の理念に基づき、自閉的傾向や発達に遅れのあるこどもとその家族が、社会の中でより豊かに暮らしていけるよう適切な支援をし、自立を促すことを目的とする。具体的には、日常生活における基本的動作及びコミュニケーション手段の獲得、集団生活の適応を目標にひとりひとりの子どもの発達に応じた指導を行う。

(3) 職員の処遇

ア 職員構成

施設長	1名（兼務）
主任	1名
指導員	常勤職員 3名
事務員	4名（兼務 内1名非常勤）

イ 健康管理

健康診断 年1回（7月～10月）

ウ 職員会議

- ・法人全体集会（年1回）
- ・グループかがわ運営会議（月1回）
- ・児童部門職員会議（年2回）
- ・グループかがわ全体職員会（年3回）
- ・児童部門会議（随時）
- ・さくらの木職員会議（月2～3回）
- ・ケース会議（月4～8回）
- ・学習会（月1回）
- ・その他指導打ち合わせ（随時）

エ 研修計画（研修費用）

- ・施設内研修
- ・法人内研修
- ・発達障がいに関する各種外部研修（7万円）
- ・発達障がいに関する書籍購入（5万円）
- ・学校、関連施設見学

2 施設管理

(1) 設備関係

- ・建物の老朽の点検、修繕（随時）
- ・受水槽清掃（年1回）
- ・ガス漏れ警報器を設置する

(2) 災害対策

- ・職員に対し、非常災害時の対応を周知徹底する。
- ・隣接するケアホームかがわの家との連携のあり方を確認し、年2回、合同避難訓練を実施する。
- ・備蓄の見直しと災害グッズを見直し、必要なものを揃える。
- ・緊急時の連絡カードを作成し、職員と保護者との連絡体制を確認する。
- ・緊急時の避難場所を確認し、保護者に連絡する。

3 地域社会との連携

- ・賀川学園卒園生の他、小金井市及び近隣市区町村在住者の利用も受け付ける。
- ・ボランティアや見学者を受け入れ、発達障がいへの理解を広める。
- ・グループかがわ後援会主催のバザーや町内会の行事へ参加し、地域住人との交流を図る。

2012年度 雲柱社 保育ブロック事業計画

学童クラブ 事業目標	<p>私たちは所属する各自治体の方針を尊重し、子どもたち、保護者、地域の方々と力を合わせて、楽しく充実した学童クラブ活動を展開していくために、次のような目標を掲げて事業に取り組みます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、私たちは、放課後の子どもたちにとって居場所となる学童クラブを目指します。 2、私たちは、危機管理を十全にして、安心と安全が保障された学童クラブを目指します。 3、私たちは、子どもたちが多様な体験を通して、生きる力を育むことが出来る学童クラブを目指します。 4、私たちは、子どもたちが、それぞれの個性と能力を發揮できる学童クラブを目指します。 5、私たちは、自由と規律を大切にす学童クラブを目指します。 6、私たちは、保護者のニーズ（就労支援、子育て不安など）に応える学童クラブを目指します。 7、私たちは、地域との交流を深め、地域の人たちから愛され支えられる学童クラブを目指します。
---------------	--

施設名 れいめい宝学童保育クラブ

記入者 上松 恵子

< 1 > 事業計画

	子育て支援活動（乳幼児・親）	学童クラブ	小学生を対象とした活動	中・高校生を対象とした活動
活動 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・親同士のピアカウンセリングの場となり、多くの子育て上の悩みを解消する場とする。 ・地域の中に親子の居場所を確保する。 ・専門家の相談を受けることにより、子育ての支えの場とする。 ・子育て中のお母さんと乳幼児が、家から出て気分転換できる場とする。 ・子育て中の親同士が交流し、仲間作りの場とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教の行事中、日本の伝統的行事を体験し様々な文化に触れる学童クラブにする。 ・異年齢交流を通して、多様な体験や触れ合いを大切にする。 ・放課後の子どもたちにとって第三の居場所となる学童クラブにする。 ・ハンディキャップを持った子も、そうでない子も、共に生活できる学童クラブにする。 ・家庭と学童と保育園が協力し合って、子ども達にとってより良い保育環境を提供する。 ・地域の人たちにとって必要とされる、開かれた学童クラブにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢交流を活性化する場とする。 ・家庭や地域、保育園との連携の中で幅広い子ども達の育ちを支援する場とする。 ・自然体験、ボランティア活動などを体験する場とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や家庭とは異なった居場所や学童児との交流を通して、地域参加やボランティア活動の大切さを学べる場とする。
活動 の 内 容 ・ 行	<p><出前保育事業> 時間：11時～12時 年6回 場所：お花茶屋公園、渋江公園 冬季、雨天時場所：宝学童クラブ室 *活動内容 ・こいのぼり製作・新聞紙遊び・七夕製作 ・クッキング・運動会・ふれあい遊びなど</p> <p><保育園行事> ・運動会、おまつり広場への参加</p>	<p><定員>30名 <受け入れ人数>32名 (育成時間) 通常下校時間～18時 学校休校日8時～18時 延長保育18時～19時 土曜保育（堀切学童との合同保育時） 8時00分～17時</p> <p>*活動内容 ・自由活動、宿題、グループ活動などの日常活動を基盤に、以下などの年間行事にも取り組む。</p> <p><年間行事> 1学期 ・入所式・ウェルカムパーティー・イースター ・子どもの日・花の日礼拝・お泊り合宿 ・ありがとう製作（母の日・父の日製作） 夏休み ・サマーキャンプ・堀切と合同保育 2学期 ・敬老の日製作・遠足・ハロウィンパーティー ・収穫感謝祭・クリスマス会 3学期 ・お別れプログラム・卒所式</p> <p><保育園行事> ・黎明保育園運動会、おまつり広場への参加</p>	<p><高学年プログラム活動> ・学童クラブ卒所児を対象に、高学年プログラムとして年に数回、単独及び堀切学童クラブとの合同プログラムとして以下の活動に取り組む。</p> <p>*活動内容 ・談話タイム ・工作タイム ・クッキング ・お楽しみイベント（1月）など ・ボランティア活動</p> <p><高学年ボランティア活動> ・学童クラブ卒所児を対象に、日々の保育でのボランティア体験の場や以下の活動に取り組む。</p> <p>*活動内容 ・ウェルカムパーティー ・キャンプ ・おまつり広場 ・クリスマス会 など</p> <p>*日常の活動 ・遊びの手伝いを通して、指導や交流を行う。</p>	<p><中高生プログラム活動> ・中高生を対象に、中高生プログラムとして年に数回、単独及び堀切学童クラブとの合同プログラムとして以下の活動に参加する。</p> <p>*活動内容 ・談話タイム ・工作タイム ・クッキング ・お楽しみイベント（1月）など ・ボランティア活動</p> <p><中高生ボランティア活動> ・中高生を対象に、日々の保育や行事などでのボランティア活動に取り組む。</p> <p>*活動内容 ・遊びの手伝いを通して、指導や交流を行う。 ・保育園行事、地域行事への参加。 ・高学年プログラムの参加、手伝い。</p>

< 2 > 職員構成

- ・統括リーダー 1名
- ・児童厚生員 1名

内 学童担当 1名

< 3 > 研修

- ・施設内研修
- ・児童館ブロック研修
- ・法人研修
- ・所属する自治体の研修
- ・その他の研修

< 4 > その他

補助事業

宝

2012年度 雲柱社 保育ブロック事業計画

私たちは所属する各自治体の方針を尊重し、子どもたち、保護者、地域の方々と力を合わせて、楽しく充実した学童クラブ活動を展開していくために、次のような目標を掲げて事業に取り組みます。 学童クラブ 事業目標	1、私たちは、放課後の子どもたちにとって居場所となる学童クラブを目指します。 2、私たちは、危機管理を十全にして、安心と安全が保障された学童クラブを目指します。 3、私たちは、子どもたちが多様な体験を通して、生きる力を育むことが出来る学童クラブを目指します。 4、私たちは、子どもたちが、それぞれの個性と能力を發揮できる学童クラブを目指します。 5、私たちは、自由と規律を大切にする学童クラブを目指します。 6、私たちは、保護者のニーズ（就労支援、子育て不安など）に応える学童クラブを目指します。 7、私たちは、地域との交流を深め、地域の人たちから愛され支えられる学童クラブを目指します
--	---

施設名 れいめい堀切学童保育クラブ

記入者 上松 恵子

< 1 > 事業計画

	子育て支援活動（乳幼児・親）	学童クラブ	小学生を対象とした活動	中・高校生を対象とした活動
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・親同士のピアカウンセリングの場となり、多くの子育て上の悩みを解消する場とする。 ・地域の中に親子の居場所を確保する。 ・専門家の相談を受けることにより、子育ての支えの場とする。 ・子育て中のお母さんと乳幼児が、家から出て気分転換できる場とする。 ・子育て中の親同士が交流し、仲間作りの場とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教の行事中、日本の伝統的行事を体験し様々な文化に触れる学童クラブにする。 ・異年齢交流を通して、多様な体験や触れ合いを大切にする。 ・放課後の子どもたちにとって第三の居場所となる学童クラブにする。 ・ハンディキャップを持った子も、そうでない子も、共に生活できる学童クラブにする。 ・家庭と学童と保育園が協力し合って、子ども達にとってより良い保育環境を提供する。 ・地域の人たちにとって必要とされる、開かれた学童クラブにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢交流を活性化する場とする。 ・家庭や地域、保育園との連携の中で幅広い子どもたちの育ちを支援する場とする。 ・自然体験、ボランティア活動などを体験する場とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や家庭とは異なった居場所や学童児との交流を通して、地域参加やボランティア活動の大切さを学べる場とする。
活動の内容・行事等	<出前保育事業> 時間：11時～12時 年6回 場所：お花茶屋公園、渋江公園 冬期、雨天場所：宝学童クラブ室 *活動内容 ・こいのぼり製作・新聞紙遊び・七夕製作 ・クッキング・運動会・ふれあい遊びなど <保育園行事> ・運動会、おまつり広場への参加	<定員>52名 <受入>63名 (育成時間) 通常下校時間～18時 延長保育18時～19時 学校休校日8時～18時 土曜保育8時～17時(宝学童と合同保育) *活動内容 ・自由活動、宿題、グループ活動などの日常活動を基盤に、以下などの年間行事にも取り組む。 <年間行事> 1学期 ・入所式・ウェルカムパーティー・イースター礼拝・子どもの日製作・母の日製作 ・子どもの日、花の日礼拝・お泊り合宿 夏休み ・サマーキャンプ・宝と合同保育 2学期 ・敬老の日製作・遠足・ハロウィンパーティー ・収穫感謝祭・クリスマス会 3学期 ・節分行事・お別れイベント・卒所式 <保育園行事> ・黎明保育園運動会、おまつり広場への参加 <その他> ・防犯訓練、手作りおやつ、昼食会、手芸誕生会、保護者会など	<高学年プログラム> ・学童クラブ卒所児を対象に、高学年プログラムとして年に数回、単独及び合同プログラムとして以下の活動に取り組む。 *活動内容 ・クッキング ・談話タイム ・ゲーム会 ・工作タイム ・お楽しみイベント(1月)など ・ボランティア活動 <高学年ボランティア活動> ・学童クラブ卒所児を対象に、日々の保育でのボランティア体験の場や以下の活動に取り組む。 *活動内容 ・ウェルカムパーティー ・キャンプ ・おまつり広場 ・お泊り合宿 など *日常の活動 ・遊びの手伝いを通して、指導や交流を行う。	<中高生プログラム> ・中高生を対象に、中高生プログラムとして年に数回、単独及び合同プログラムとして以下の活動を行う。 *活動内容 ・クッキング ・談話タイム ・工作タイム ・お楽しみイベント(1月)など ・ボランティア活動 <中高生ボランティア活動> ・中高生を対象に、日々の保育や行事などでのボランティア活動に参加する。 *活動内容 ・遊びの手伝いを通して、指導や交流を行う。 ・行事などの手伝い。 ・保育園行事、地域行事への参加。

< 2 > 職員構成

・児童厚生員 2名

内 学童担当 2名

< 3 > 研修

- ・施設内研修
- ・児童館ブロック研修
- ・法人研修
- ・所属する自治体の研修
- ・その他の研修

< 4 > その他

補助事業
堀切